

平成22年度研修事業の概要

(各研修事業別個表)

① 各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長・教頭等の教職員に対する 学校管理研修

1. 教職員等中央研修

第1回 校長、教頭等研修（非宿泊・大阪）	1
第2回 校長、教頭等研修（非宿泊・東京）	3
第3回 校長、教頭等研修	5
第4回 校長、教頭等研修	7
第5回 校長、教頭等研修	9
第6回 校長、教頭等研修	11
第7回 校長、教頭等研修	13
第1回 中堅教員研修	15
第2回 中堅教員研修	17
第3回 中堅教員研修	19
第4回 中堅教員研修	21
第5回 中堅教員研修	23

2. 事務職員研修

小・中学校	25
高等学校	27

3. 教職員等海外派遣研修

英語教育：2ヶ月	29
----------------	----

② 喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修等の講師や企画・立案等を担う指導者を養成するための研修

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修	
第1回	31
第2回	33
2. 学校評価指導者養成研修	
東部ブロック	35
西部ブロック	37
3. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	
総合コース	39
専門コース（第1回）	41
専門コース（第2回）	43
4. 国語力向上指導者養成研修	
東部ブロック	45
西部ブロック	47
5. 道徳教育指導者養成研修	
中央指導者研修	49
北海道・東北ブロック	51
関東・甲信越ブロック	53
東海・北陸ブロック	55
近畿ブロック	57
中国・四国ブロック	59
九州ブロック	61
6. 環境教育指導者養成研修	
東部ブロック	63
西部ブロック	65
7. 生徒指導指導者養成研修	67
8. 人権教育指導者養成研修	69
9. キャリア教育指導者養成研修	
東部ブロック	71
西部ブロック	73
10. 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修	
北海道・東北ブロック	75
関東・甲信越ブロック	77
東海・北陸ブロック	79
近畿・四国ブロック	81
中国・九州ブロック	83
11. 外国語指導助手研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	85

12. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	
管理者用コース	89
日本語指導者用コース	91
13. 子育て支援指導者養成研修	93
14. 子どもの体力向上指導者養成研修	
東部ブロック	95
中部ブロック	97
西部ブロック	99
15. 健康教育指導者養成研修	
東部ブロック・推進コース	101
東部ブロック・専門コース	103
西部ブロック・推進コース	105
西部ブロック・専門コース	107
16. 学校安全指導者養成研修	109
17. 食育指導者養成研修	
推進コース	111
専門コース	113
18. 教育課題研修指導者海外派遣プログラム	
学校評価と学校改善：A－1団	115
学校評価と学校改善：A－2団	116
国語力・読解力：B－1団	117
国語力・読解力：B－2団	118
理数系教育：C－1団	119
理数系教育：C－2団	120
小学校英語：D－1団	121
生徒指導・教育相談：E－1団	122
生徒指導・教育相談：E－2団	123
キャリア教育：F－1団	124
キャリア教育：F－2団	125
心身の健康教育：G－1団	126
環境教育：H－1団	127
環境教育：H－2団	128
特別支援教育：I－1団	129
地域の教育力の活用：J－1団	130
地域の教育力の活用：J－2団	131

③ 地方公共団体の共益的事業として委託等により例外的に実施する研修

1. 産業・理科教育教員派遣研修	133
2. 産業・情報技術等指導者養成研修	
農業：A－1（生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習）	137
工業：B－1（先端ロボット技術に関する講義と実習）	139
工業：B－2（知的財産教育に関する講義と実習）	141
商業：C－1（マーケティングと商品開発に関する講義と実習）	143
水産：D－1（海洋環境の保全に関する講義と実習）	145
水産：D－2（水産食品技術に関する講義と実習）	147
家庭：E－1（新学習指導要領に対応した「生活産業基礎」の指導力向上のための講義と実習）	149
家庭：E－2（子どもの発達の特長や発達過程及び高齢者の生活と介護にかかわる講義と実習）	151
看護：F－1（看護師教育の新カリキュラムに対応した教育内容とその教授法に関する講義と実習）	153
情報：G－1（ネットワークとシステムの構築・運営管理とシステム設計に関する講義と実習）	155
技術：H－1（社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領への対応を目指して）	157
技術：H－2（社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領への対応を目指して）	159
家庭：I－1（学校における食育の推進：技術家庭科における食に関する指導（講義と実習））	161
3. 産業教育実習助手研修	
農業（教科「農業」及び農業科指導法に関する講義と実習）	163
工業（工業実習に関する講義と実習）	165

I 研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第1回校長・教頭等研修 【第338回】						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。						
受 講 対 象	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県その他の小学校・中学校等の副校長・教頭等 〔 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者 〕						
開 催 期 日	平成22年 7月20日(火)～平成22年 7月23日(金) 平成22年 7月27日(火)～平成22年 8月 4日(水)				13日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	100	人	受講者数	91	参加率	91.0%
開 催 場 所	新梅田研修センター(大阪府大阪市福島区福島6-22-20)						

※ 全体受講定員 2,000人、受講者数 1,575人、参加率 78.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	69	22	0	0	0	0	91
割合 (%)	75.8	24.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	91	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習では様々な学校の情報も同時に得ることができ、有意義であった。話し合いの中で、新たな考えを生み出すこともでき、講義の内容の理解も深めることができると思う。 ・数々の研修(講義)と参加者の先生方との演習での討議により、大いに刺激を受けました。何よりもこの研修内容とこの刺激を教育現場に還元しなければなりません。ありがとうございました。 ・講義で得た知識を自分で考え、判断し、グループのメンバーと協議するという演習で活用することにより理解が深まった。 ・演習は具体的ケースをもとに行うため、イメージが容易というメリットがある。ただ、①議論の時間が十分に確保されていること ②議論の内容を目標に沿ってまとめる助言者がいること ③対象事例が各々の現場の状況と関連していること などが求められると思う。 ・演習は大変勉強になります。時間配分は、この程度でよいかなと思います。 ・教頭職は校内に1人のところが多いので、同じ立場の人と演習を通して話ができるのは大変ありがたい。 ・講義の中にケーススタディが織り込まれているだけでも、理解度が違いました。グループも様々な方と組めるよう工夫がしてあり、演習の中で互いの知見を高めることができました。 ・討議が活性化するための工夫がどの講義にも必要だと痛感しました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもの信頼関係の構築」に関する内容に重点化 ・学校管理運営演習の問題・課題等に関する協議の時間を確保。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分ける。 (1)校長マネジメント研修の研修内容を学校経営力の育成に特化するとともに校長が参加しやすいよう研修日数を5日間とする。 (2)副校長・教頭等研修は、研修日数を2日間延長し、次期リーダーとしての素養を身に付けさせることを狙いとして「特別支援教育」「コミュニケーション力」「メンタルヘルス」講義等を新たに加える。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度教職員等中央研修

大阪開催：第1回校長・教頭等研修(第338回)

小学校教頭・中学校教頭 100人

平成22年7月20日(火)～平成22年8月4日(水)

第1週		7月20日(火)	7月21日(水)	7月22日(木)	7月23日(金)	7月24日(土)	7月25日(日)
9:30～9:45			9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明		
午前1		受付 10:00～11:15 オリエンテーション	9:45～12:15 教育法規Ⅰ	9:45～15:00 教育法規Ⅱ	9:45～12:15 学校評価		
午前2			坂田 仰	三ツ角直正	天笠 茂		
午後1		12:30～13:00 開講式 写真撮影	13:30～16:30 実践研究 (学校管理運営演習)		13:45～15:15 リーダーとなるために		
午後2		13:45～14:45 教育改革の動向			杵屋 五司郎 日吉 静永		
				15:15～16:30 学習指導要領	15:15～16:30 実践研究		
第2週	7月26日(月)	7月27日(火)	7月28日(水)	7月29日(木)	7月30日(金)	7月31日(土)	8月1日(日)
9:30～9:45		9:30～16:30 学校組織マネジメント	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明		
午前1			9:45～12:15 教育指導上の課題 (学習指導)	9:45～16:30 リスクマネジメント	9:45～16:30 教育指導上の課題 (生徒指導)		
午前2			大杉昭英	飯野真幸	河村茂雄		
午後1			13:30～16:30 実践研究				
午後2							
第3週	8月2日(月)	8月3日(火)	8月4日(水)				
9:30～9:45	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明				
午前1	9:45～11:45 リーダーとなるために	9:45～16:00 学校管理運営演習	9:45～14:45 学校管理運営演習				
午前2	酒巻 久						
午後1	13:30～16:30 実践研究 (学校管理運営演習)						
午後2			15:00～16:00 地方教育行政制度				
		16:00～16:30 実践研究	16:15～16:30 閉講式・事務連絡				

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回校長・教頭等研修 【第340回】		
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ		
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。		
受講対象	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、その他の小学校・中学校等の副校長・教頭等 (幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)		
開催期日	平成22年 8月 3日(火)～平成22年 8月11日(水) 平成22年 8月17日(火)～平成22年 8月20日(金)	13日間	
受講人数	受講定員(計画人数) 100人	受講者数 92人	参加率 92.0%
開催場所	ホテルフロラシオン青山(東京都港区南青山4-17-58)		

※ 全体受講定員 2,000人、受講者数 1,575人、参加率 78.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	86	6	0	0	0	0	92
割合(%)	93.5	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義も大変有意義なものばかりでした。演習は自分の考えをより明確にするのに役立ちました。 ・ 参加型の研修が多く、実感が得られる内容が豊富でした。研修準備や運営も充分して頂き、ありがとうございました。 ・ 座学だけの講義だけでなく、より実践的に学べるのでとてもよい。 ・ 大変視野が広がり、よい研修となりました。他県の方との交流も図ることができ、よかったです。 ・ 多くの研修を専門家から受けることはなかなかないことなので、大変嬉しく思いました。特に、私自身が苦手な「法的根拠」の言葉と向き合うことは、とても勉強になりました。 ・ この研修でなければ身につかなかったものが多くあり、大変勉強になりました。 ・ リスクマネジメントは期待していた通りに大変有意義であった。経営者になる前、地域においても、この研修に近いものが実施されることを望みます。 ・ 講師が素晴らしく、有意義な研修をすることができました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもの信頼関係の構築」に関する内容に重点化 ・ 学校管理運営演習の問題・課題等に関する協議の時間を確保。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分ける。 (1) 校長マネジメント研修の研修内容を学校経営力の育成に特化するとともに校長が参加しやすいよう研修日数を5日間とする。 (2) 副校長・教頭等研修は、研修日数を2日間延長し、次期リーダーとしての素養を身に付けさせることを狙いとし「特別支援教育」「コミュニケーション力」「メンタルヘルス」講義等を新たに加える。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度教職員等中央研修

東京開催：第2回校長・教頭等研修(第340回)

小学校教頭・中学校教頭 100人

平成22年8月3日(火)から平成22年8月20日(金)

第1週		8月3日(火)	8月4日(水)	8月5日(木)	8月6日(金)	8月7日(土)	8月8日(日)
9:30~9:45			9:30~10:30 オリエンテーション	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明		
午前1		受付	10:30~10:45 写真撮影	9:45~15:00 教育法規Ⅱ	9:45~11:45 リーダーとなるために		
午前2		10:00~11:30 オリエンテーション	11:00~12:15 教育法規Ⅰ 菱村幸彦	松崎 勝	杵屋五司郎 日吉 静永		
午後1		13:00~13:30 開講式	13:30~15:00 学校評価		13:30~16:30 実践研究 (学校管理運営演習)		
午後2		13:40~14:40 教育改革の動向	武井敦史				
		14:50~16:30 実践研究		15:15~16:30 実践研究			
			15:15~16:30 学習指導要領				
第2週	8月9日(月)	8月10日(火)	8月11日(水)	8月12日(木)	8月13日(金)	8月14日(土)	8月15日(日)
9:30~9:45	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明				
午前1	9:45~16:30 学校経営の課題 (生徒指導)	9:45~12:15 教育指導上の課題 (学習指導)	9:45~16:30 リスクマネジメント				
午前2	清水井一	北 俊夫	石川慶子				
午後1		13:30~16:30 実践研究					
午後2							
第3週	8月16日(月)	8月17日(火)	8月18日(水)	8月19日(木)	8月20日(金)		
9:30~9:45		9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明	9:30~9:45 演習説明		
午前1		9:45~12:15 リーダーとなるために 酒巻 久	9:45~16:30 学校組織マネジメント	9:45~16:00 学校管理運営演習	9:45~14:45 学校管理運営演習		
午前2							
午後1		13:30~16:30 実践研究					
午後2					14:45~16:15 地方教育行政制度		
				16:00~16:30 演習確認	16:15~16:30 閉講式・事務連絡		

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回校長・教頭等研修 【第341回】							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校、中学校の校長・副校長・教頭 (幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)							
開催期日	平成22年9月2日(木)～平成22年9月16日(木)				15日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	200	人	受講者数	115	人	参加率	57.5%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※ 全体受講定員 2,000 人、受講者数 1,575 人、参加率 78.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	112	3	0	0	0	0	115
割合(%)	97.4	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	115	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 一流の講師陣のご講話を拝聴する機会に恵まれ、大変良かったです。 学校運営・経営に関する研修が中心なので、内容に満足しています。他の内容についてもという欲はありますが、日程的に無理かと思います。 講義と演習が大変うまく組み込まれており、講義された内容が演習で確認できるもので大変良かったです。このような形が一番良かったと思います。 単市でこれだけの講師を招聘することは難しい(特に地方では)。今後も続けていただきたい。 グループ協議・演習・宿泊フロア等、違った集団作りを意図的に行い、より多くの方々との関係づくりの場をいただけたことがありがたく、今後の糧となると思われます。講義等におきましても、すばらしい人選がされており、この上ない研修であると確信いたしました。 講師の先生方のお話は全般的に大変素晴らしかった(感動の連続でした)。演習を多く取り入れた研修スタイルは、実践力と直接結びつくので大変良かったです。 研修の内容が変わると、演習を行うグループ編成が変わるといのが良かったと思います。一人でも多くの方と知り合えて良かったです 民間の方(企業の経営者)や弁護士の話は良かった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもの信頼関係の構築」に関する内容に重点化 学校管理運営演習の問題・課題等に関する協議の時間を確保。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分ける。 (1) 校長マネジメント研修の研修内容を学校経営力の育成に特化するとともに校長が参加しやすいよう研修日数を5日間とする。 (2) 副校長・教頭等研修は、研修日数を2日間延長し、次期リーダーとしての素養を身に付けさせることを狙いとし「特別支援教育」「コミュニケーション力」「メンタルヘルス」講義等を新たに加える。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度教職員等中央研修

第3回校長・教頭等研修(第341回)

小学校・中学校 校長・教頭200人

平成22年9月2日(木)～平成22年9月16日(木)

第1週				9月2日(木)	9月3日(金)	9月4日(土)	9月5日(日)
8:30～9:00					8:30～9:00 オリエンテーション		
午前1 9:15～10:30				9:30～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)		
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション			
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 I 樋口修資		
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 教育改革の動向			
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領		
第2週	9月6日(月)	9月7日(火)	9月8日(水)	9月9日(木)	9月10日(金)	9月11日(土)	9月12日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 北 俊夫	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 河村茂雄	9:15～15:30 教育法規 II 清水幹裕	9:15～11:45 学校評価 窪田慎二	9:15～15:30 リスクマネジメント 飯野真幸		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術			13:00～17:00 実践研究			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 実践研究		
第3週	9月13日(月)	9月14日(火)	9月15日(水)	9月16日(木)			
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:00 実践研究			
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメント 小島弘道	9:45～17:00 学校管理運営演習	9:45～17:00 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 福地茂雄			
午前2 10:30～11:45			日程	11:00～11:20 閉講式			
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00			15:30～17:00 地方教育行政制度				

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第4回校長・教頭等研修 【第343回】							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	高等学校の校長・副校長・教頭 (幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)							
開催期日	平成22年10月21日(木)～平成22年11月5日(金)				16日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	190	人	受講者数	151	人	参加率	79.5%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※ 全体受講定員 2,000人、受講者数 1,575人、参加率 78.8%
 (全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数(人)	129	22	0	0	0	0	151
割合(%)	85.4	14.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	151						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・一方向的な講義より演習の方が主体的・積極的に研修に取り組めるので、演習が多い方がよい。その点はとても良かった。 また、学校現場にも活用することが多い。 ・講義の後に演習をすることで理解がより深まったと思います。また、演習ごとにメンバーが入れ替わり、より多くの先生方と情報交換・意見交換ができて有意義でした。 ・多くの研修で扱われた講義～演習(グループワーク)～講義(または発表)という形態での進め方は知識だけの理解で止まることなく、その手法や実施上のポイントを体験的に習得し、今後自信を持って活用できる引き出しを増やした思いである。 ・講義だけでは単調になる傾向があり、インターアクティブな研修形態を取り入れることで良くなると思います。 ・講師陣が超一流の方ばかりで、大変いい勉強をさせていただきました。 ・研修内容については大変合理的で細かい配慮があったと感じました。日を追うごとにつながりが広がり、また深まり、11日間の内容が全てつながっていることを実感しました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもの信頼関係の構築」に関する内容に重点化 ・学校管理運営演習の問題・課題等に関する協議の時間を確保。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分ける。 (1) 校長マネジメント研修の研修内容を学校経営力の育成に特化するとともに校長が参加しやすいよう研修日数を5日間とする。 (2) 副校長・教頭等研修は、研修日数を2日間延長し、次期リーダーとしての素養を身に付けさせることを狙いとし「特別支援教育」「コミュニケーション力」「メンタルヘルス」講義等を新たに加える。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度教職員等中央研修

第4回校長・教頭等研修(第343回)

高校校長・教頭 190人

平成22年10月21日(木)～平成22年11月5日(金)

第1週				10月21日(木)	10月22日(金)	10月23日(土)	10月24日(日)
8:30～9:00					8:30～9:00 オリエンテーション		
午前1 9:15～10:30				9:30～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)		
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション			
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 I		
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 教育改革の動向	伊勢呂裕史		
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 実践研究		15:45～17:00 学習指導要領	
第2週	10月25日(月)	10月26日(火)	10月27日(水)	10月28日(木)	10月29日(金)	10月30日(土)	10月31日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育法規 II	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導)	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導)	9:15～17:00 学校組織マネジメント	9:15～17:00 リスクマネジメント		
午前2 10:30～11:45	三ツ角直正	河村茂雄	工藤文三	八尾坂 修	石川慶子		
午後1 13:00～14:15			13:00～16:30 研修講師 となるための 知識・技術				
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究					
第3週	11月1日(月)	11月2日(火)	11月3日(水)	11月4日(木)	11月5日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	文化の日	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 学校評価	9:15～17:00 学校管理運営演習		9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 柴田励司		
午前2 10:30～11:45	浜田博文				11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 児童虐待						
午後2 14:15～15:30	玉井邦夫						
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究				15:30～17:00 地方教育行政制度		

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第5回校長・教頭等研修 【第345回】								
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ								
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。								
受講対象	小学校・中学校の校長・副校長・教頭、幼稚園園長、指導主事等 (幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)								
開催期日	平成23年1月6日(木)～平成23年1月21日(金)			16日間					
受講人数	受講定員 (計画人数)	120	人	受講者数	134	人	参加率	111.7%	
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)								

※ 全体受講定員 2,000人、受講者数 1,575人、参加率 78.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	114	20	0	0	0	0	134
割合 (%)	85.1	14.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	134						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講義だけでは十分理解できないことが演習を行うことで分かったり、新たな意義を見つけることができた。また、演習では他県の先生方から沢山の情報を得ることができた。とてもよかった。 ・グループ・班という単位での演習が効率的に考えられておりよかった。とても話し合いがスムーズにいき、情報交流もよくできました。 ・これからの研修は参加体験型研修が必要だと思います。これからも引き続き演習を取り入れた研修にしていきたいと思います。 ・バランスのとれた研修であった。講義の話だけでは捉えにくい。今の時代伝わりにくい所があるので、プレゼンが最低限必要であると感じた。そのことから考えると、講義と演習をバランスよく配置した研修であったと思う。 ・講義を聞くことももちろんよかったのだが、「リスクマネジメント」や「研修講師となるための知識・技術」は演習を通してその理解を深めることができた。 ・大変有意義でためになった研修でした。今後の自分の教員生活に大いに役立たせたいと思います。講師もすばらしい方々ばかりなので、大変勉強になりました。 ・評価の高い先生の講義は続けていただきたい。大変励みになります。不勉強な私には、新しい風が吹きました。 ・私には十分な内容でした。やはり最高の研修内容であったと実感しています。一流の講師陣たちの熱心な講義はどれも目からうろこの内容であり、気持ちを前に押されました。できる限り全てを還元していきたいです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもの信頼関係の構築」に関する内容に重点化 ・学校管理運営演習の問題・課題等に関する協議の時間を確保。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分ける。 (1) 校長マネジメント研修の研修内容を学校経営力の育成に特化するとともに校長が参加しやすいよう研修日数を5日間とする。 (2) 副校長・教頭等研修は、研修日数を2日間延長し、次期リーダーとしての素養を身に付けさせることを狙いとし「特別支援教育」「コミュニケーション力」「メンタルヘルス」講義等を新たに加える。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度教職員等中央研修

第5回校長・教頭等研修(第345回)

小学校・中学校教頭・幼稚園園長・指導主事 120人

平成23年1月6日(木)～平成23年1月21日(金)

第1週				1月6日(木)	1月7日(金)	1月8日(土)	1月9日(日)
8:30～9:00					8:30～9:30 オリエンテーション		
午前1 9:15～10:30				9:30～9:50 受付	9:45～11:45 実践研究		
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション			
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 坂田 仰		
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 教育改革の動向			
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領		
第2週	1月10日(月)	1月11日(火)	1月12日(水)	1月13日(木)	1月14日(金)	1月15日(土)	1月16日(日)
8:30～9:00		8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30		9:15～15:30 教育法規Ⅱ 清水幹裕	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 清水井一	9:15～17:00 リスクマネジメント 伊原 正俊	【幼稚園長のみ】 9:15～15:30 教育指導上の課題 神長美津子		
午前2 10:30～11:45					9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 北 俊夫		
午後1 13:00～14:15			教育指導上の課題 【幼稚園長のみ】 豊田一秀		13:00～15:30 学校評価 天笠 茂		
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 実践研究		
第3週	1月17日(月)	1月18日(火)	1月19日(水)	1月20日(木)	1月21日(金)		
8:30～9:00	8:30～10:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30		9:15～17:00 学校組織マネジメント	9:45～17:00 学校管理運営演習	9:45～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 竹内一郎		
午前2 10:30～11:45	10:15～11:45 学校マネジメント 藤原和博	八尾坂 修			11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00				15:30～17:00 地方教育行政制度			

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第6回校長・教頭等研修 【第346回】								
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ								
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。								
受講対象	小学校・中学校の校長・副校長・教頭、指導主事等 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者								
開催期日	平成23年1月25日(火)～平成23年2月8日(火)			15日間					
受講人数	受講定員 (計画人数)	170	人	受講者数	128	人	参加率	75.3%	
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)								

※ 全体受講定員
(全体計画人数) 2,000人、受講者数 1,575人、参加率 78.8%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収		合計
	大変有意義	概ね有意義								
人数(人)	111	17	0	0	0	0	0	0	128	
割合(%)	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	128									
	100.0									

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に活動することによって理解も深まり、グループで様々な意見や考えを交わすことで、自分の意見や考えを広げることができた。また、気づきもありよかった。講義によってグループのメンバーが変わり、多くの方々と意見交換ができてよかった。同様3件 ・演習を通しての研修は非常にわかりやすくよい。どの研修においても講義から新しい知識を学ぶことも期待して参加していると思うので、講義の中に適度な演習を交えながら、講義内容が自分自身に実感・体感できるような研修がありがたい。 ・よかった。生徒指導・教育法規は内容も今日の課題に沿ったものであり、大変参考になった。聞く研修よりも「自らが考える」というので、心に残るものであった。リスクマネジメントについても、行事の時の事故について、平素の学校組織づくりと深い関係があるということが実感できた。自校の取り組みを振り返ることができ、次の行動にもつながるものであった。 ・講義の裏づけ(理論と実際)として、納得の手段として心身をほぐし、コミュニケーションの場としてももっと取り入れて頂けるとよいと思います。 ・大変よかったと思います。集中して聞けるのは、長くても2時間以内ぐらいかと思います。やはり、講義と演習をうまく組み合わせる方が理解が深まると考えます。 ・内容の濃い充実したものでした。課題ごとに異なったグループの構成も十分交流を深めることができました。 ・素晴らしい講師陣で、大変有意義な2週間でした。ありがとうございました。 ・中央研修ならではの研修内容でした。ぜひ今後も継続して頂きたい。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもの信頼関係の構築」に関する内容に重点化 ・学校管理運営演習の問題・課題等に関する協議の時間を確保。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分ける。 (1) 校長マネジメント研修の研修内容を学校経営力の育成に特化するとともに校長が参加しやすいよう研修日数を5日間とする。 (2) 副校長・教頭等研修は、研修日数を2日間延長し、次期リーダーとしての素養を身に付けさせることを狙いとし「特別支援教育」「コミュニケーション力」「メンタルヘルス」講義等を新たに加える。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度教職員等中央研修

第6回校長・教頭等研修(第346回)

小学校・中学校校長・教頭・指導主事・センター指導主事 170人

平成23年1月25日(火)～平成23年2月8日(火)

第1週		1月25日(火)	1月26日(水)	1月27日(木)	1月28日(金)	1月29日(土)	1月30日(日)
8:30～9:00			8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30		9:30～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)	9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導)		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション		三ツ角直正	河村茂雄		
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ				
午後2 14:15～15:30		13:30～14:30 教育改革の動向	惣脇 宏				
午後3 15:45～17:00		15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第2週	1月31日(月)	2月1日(火)	2月2日(水)	2月3日(木)	2月4日(金)	2月5日(土)	2月6日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:30 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 学校評価 北神正行	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 工藤文三	9:15～15:30 リスクマネジメント 飯野真幸	9:45～15:15 学校管理運営演習	9:45～15:15 学校管理運営演習		
午後1 13:00～14:15	13:00～14:30 特別講義 徳永 保	13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術					
午後2 14:15～15:30	14:45～17:00 実践研究						
午後3 15:45～17:00			15:45～16:30 実践研究		15:30～17:00 地方教育行政制度		
第3週	2月7日(月)	2月8日(火)					
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究					
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメント 浅野良一	9:15～10:45 リーダーとなるために 木村政雄					
午前2 10:30～11:45		11:00～11:20 閉講式					
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第7回校長・教頭等研修 【第347回】							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校・中学校の校長・副校長・教頭、指導主事等 (幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)							
開催期日	平成23年2月9日(水)～平成23年2月24日(木)				16日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	120	人	受講者数	90	人	参加率	75.0%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※ 全体受講定員(全体計画人数) 2,000人、受講者数 1,575人、参加率 78.8%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義						
人数(人)	84	6	0	0	0	0	0	90
割合(%)	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	90	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 一方的な講義スタイルよりは演習の方がより具体的であり、理解することができ、良いと思う。しかし、今回講義の型であっても講師の先生方が素晴らしい方ばかりだったので、時間の経つのも忘れるぐらい集中して話を聞くことができ良かった。国の研修の素晴らしさを感じ、体験することができた。 ・ 大変良かったです。特に、「生徒指導」は演習内容・方法が具体的で実践的でした。 ・ 素晴らしい講師の方々に講話等をしていただき、本当に有難いと思います。地方にはなかなかできないことなので、大変良かった。 ・ 研修の中にバランスよく演習が組み込まれていました。演習の内容はもちろんですが、演習の取り入れ方も参考になりました。今後も演習の充実を図っていただければと思います。 ・ 社会が常に変化する中、それに対応する講義・演習を今後も設けて欲しいと思います。今回の研修内容を県へしっかりと広めていきたいと思います。2週間、大変お世話になりました。 ・ 地方ではなかなか聴くことのできない充実した講師の陣容に感謝の気持ちで一杯です。 ・ 大変充実した研修を受けさせていただきました。 ・ 講義だけの研修ではなく、実際に考え、意見を出し合うワークショップ型の研修を改めて体験し、良さを実感することができました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネジメントで「平常時のリスク管理」や「保護者・教職員・子どもの信頼関係の構築」に関する内容に重点化 ・ 学校管理運営演習の問題・課題等に関する協議の時間を確保。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校長・教頭等研修を「校長マネジメント研修」と「副校長・教頭等研修」に分ける。 (1) 校長マネジメント研修の研修内容を学校経営力の育成に特化するとともに校長が参加しやすいよう研修日数を5日間とする。 (2) 副校長・教頭等研修は、研修日数を2日間延長し、次期リーダーとしての素養を身に付けさせることを狙いとし「特別支援教育」「コミュニケーション力」「メンタルヘルス」講義等を新たに加える。 ・ 「学校管理運営演習」を「学校運営演習」とし、内容等の見直しを行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度教職員等中央研修

第7回校長・教頭等研修(第347回)

小学校・中学校校長・教頭・指導主事・センター指導主事 120人

平成23年2月9日(水)～平成23年2月24日(木)

第1週			2月9日(水)	2月10日(木)	2月11日(金)	2月12日(土)	2月13日(日)
8:30～9:00				8:30～9:00 オリエンテーション			
午前1 9:15～10:30			9:30～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)			
午前2 10:30～11:45			10:00～11:45 オリエンテーション				
午後1 13:00～14:15			13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 樋口修資			
午後2 14:15～15:30			13:30～14:30 教育改革の動向				
午後3 15:45～17:00			15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領			
第2週	2月14日(月)	2月15日(火)	2月16日(水)	2月17日(木)	2月18日(金)	2月19日(土)	2月20日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導)	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導)	9:15～11:45 実践研究	9:15～17:00 リスクマネジメント		
午前2 10:30～11:45	清水幹裕	北 俊夫	河村茂雄		伊原 正俊		
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 学校評価 窪田慎二		13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第3週	2月21日(月)	2月22日(火)	2月23日(水)	2月24日(木)			
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:00 実践研究			
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメント	9:45～15:15 学校管理運営演習	9:45～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 大竹美喜			
午前2 10:30～11:45	北神正行			11:00～11:20 閉講式			
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00			15:30～17:00 地方教育行政制度				

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修 【第336回】							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	高等学校の教諭 （小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員（副校長・教頭を除く）で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者）							
開催期日	平成22年5月6日（木）～平成22年6月1日（火）				27日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	190	人	受講者数	144	人	参加率	75.8%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 2,000 人、受講者数 1,575 人、参加率 78.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	130	14	0	0	0	0	144
割合 (%)	90.3	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	144	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・組織マネジメントをはじめ、多くの分野で時間をかけて学べる中央研修は非常に有意義な研修であると思います ・講義と演習がちょうど良いバランスであったと思います。 ・研修における演習や講義も良かったが、実際に学校改革に利用した実践を伝えてもらったのが良かった。今はとにかくその話を聞いて、本校でもやっていく方法を考えている。 ・最高の講師陣を用意してくださり、本当にありがとうございました。 ・全て有意義でした。時間的にもう少し聞きたいとかはありましたが、基本的には全て為になる内容ばかりでした。今後学んだことをしっかりと還元していきたいと思います。 ・十分に学習ができる、満足なものでありました。 ・小グループによる演習は負担感もありますが、その負担感以上に緊張感のある有意義なものでした。今後ともこのような演習であることを期待しています。 ・実際に研修を受けて、その意義深さを感じました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントで受講者レベルや課題に応じた組織マネジメント手法別により深く学ぶことができる手法の選択コースを2コース増やして、4コースにした。 ・学校管理運営演習の問題・課題等に関する協議の時間を確保。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別支援教育」の時間を増やし、充実させるとともに、「コミュニケーション力」の講義等を新たに組み入れる。 ・比較的参加しやすい時期に研修期間を設定し受講機会の拡大を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度教職員等中央研修 第1回中堅教員研修(第336回)

参加者: 高校教諭 190人

平成22年5月6日(木)～平成22年6月1日(火)

第1週				5月6日(木)	5月7日(金)	5月8日(土)	5月9日(日)
8:30～9:00					8:30～10:00 オリエンテーション		
午前1 9:15～10:30				9:45～10:00 受付			
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 宮越英一		
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 I		
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 教育改革の動向	坂田 仰		
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第2週	5月10日(月)	5月11日(火)	5月12日(水)	5月13日(木)	5月14日(金)	5月15日(土)	5月16日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 学校評価 小松郁夫	9:15～11:45 国際理解教育 多田孝志	9:15～15:30 学習指導	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント		
午前2 10:30～11:45	三ツ角直正			角屋重樹	大杉昭英		
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 道徳教育 谷田増幸	13:00～15:30 キャリア教育 鹿島研之助				
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 学習指導要領	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第3週	5月17日(月)	5月18日(火)	5月19日(水)	5月20日(木)	5月21日(金)	5月22日(土)	5月23日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 リスクマネジメント 上地安昭	9:15～17:00 リスクマネジメント	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義)	9:15～15:30 総合的な学習の時間	9:15～17:00 学校組織マネジメント		
午前2 10:30～11:45	13:00～17:00 リスクマネジメント	石川慶子	情報教育 小泉 カー	吉崎静夫			
午後1 13:00～14:15	石川慶子		ボランティア教育 長沼 豊				
午後2 14:15～15:30			健康教育 西岡伸紀				
午後3 15:45～17:00			環境教育 高田 研				
			15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第4週	5月24日(月)	5月25日(火)	5月26日(水)	5月27日(木)	5月28日(金)	5月29日(土)	5月30日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 生徒指導	9:15～11:45 生徒指導	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習		
午前2 10:30～11:45	河村茂雄						
午後1 13:00～14:15		13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術					
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究				15:30～17:00 地方教育行政制度		
第5週	5月31日(月)	6月1日(火)					
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備					
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育	9:15～10:45 リーダーとなるために					
午前2 10:30～11:45	梅野正信	11:00～11:20 閉講式					
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育						
午後2 14:15～15:30	梅永雄二						
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究						

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修 【第337回】							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校・中学校の教諭 〔小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員(副校長・教頭を除く)で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者〕							
開催期日	平成22年6月30日(水)～平成22年7月27日(火)				28日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	150	人	受講者数	96	人	参加率	64.0%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター(茨城県つくば市)							

※ 全体受講定員 2,000 人、受講者数 1,575 人、参加率 78.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	93	3	0	0	0	0	96
割合 (%)	96.9	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	96	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習によって、考えや意見の交流ができとても有意義でした。地域の特性やそれぞれの立場での考えが聞けたこと、アイデアをいただけたこと等、今後いろいろな場面を想定して実践する見通しがもてました。 ・ワークショップの研修手法は既に本校でも導入しているが、バリエーションの幅が広がったように思う。 ・大変勉強になる内容が多く、知識だけでなく中堅リーダーとしての自覚も高まりました。 ・地方に勤務しているとなかなか受講できない一流の講義をご用意していただき、ありがとうございます。本当に勉強になった一ヶ月、そして全国に友達ができた研修でした。 ・パワーポイントの配付資料があったので、振り返ることに役立った。教育界ではない分野の講師の先生の話は、とても参考になった。 ・講師陣が充実しており、とてもすばらしい研修でした。 ・管理運営演習や実践研究発表の場では、自校や地域の課題をそれぞれから聞くことができ、有益だった。手法を学ぶ演習にはない良さがあると思う。 ・子どもたちの学習と同じで、「体験学習」が一番です。参加型体験学習(ワークショップ)を多く取り入れてもらったことで理解も深まり、他の受講生との交流も図れました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントで前例選択コースを2コース増やして、4コースにした。 ・学校管理運営演習の問題・課題等に関する協議の時間を確保。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別支援教育」の時間を増やし、充実させるとともに、「コミュニケーション力」の講義等を新たに組み入れる。 ・比較的参加しやすい時期に研修期間を設定し受講機会の拡大を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度教職員等中央研修 第2回中堅教員研修(第337回)

参加者・小学校・中学校教諭 150人

平成22年6月30日(水)～平成22年7月27日(火)

第1週		6月30日(水)		7月1日(木)		7月2日(金)		7月3日(土)		7月4日(日)					
8:30～9:00				8:30～10:00 オリエンテーション		8:30～9:00 演習準備									
午前1 9:15～10:30			9:45～10:00 受付			9:15～15:30 教育法規Ⅱ									
午前2 10:30～11:45			10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 笠沙知章		清水幹裕									
午後1 13:00～14:15			13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ											
午後2 14:15～15:30			13:30～14:30 教育改革の動向	樋口修資											
午後3 15:45～17:00			15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 学習指導要領									
第2週		7月5日(月)		7月6日(火)		7月7日(水)		7月8日(木)		7月9日(金)		7月10日(土)		7月11日(日)	
8:30～9:00		8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備								
午前1 9:15～10:30		9:15～11:45 学校評価 濱田 博文	9:15～15:30 学習指導 角屋重樹	9:15～15:30 国際理解教育 多田孝志	9:15～15:30 リスクマネジメント 上地安昭	9:15～11:45 リスクマネジメント 石川慶子									
午前2 10:30～11:45															
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 道徳教育 藤永芳純		13:00～15:30 キャリア教育 三村隆男	13:00～17:00 リスクマネジメント 石川慶子										
午後2 14:15～15:30															
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究											
第3週		7月12日(月)		7月13日(火)		7月14日(水)		7月15日(木)		7月16日(金)		7月17日(土)		7月18日(日)	
8:30～9:00		8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備						
午前1 9:15～10:30		9:15～15:30 カリキュラムマネジメント 児島邦弘	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 堀田龍也 ボランティア教育 興柁 寛 健康教育 和唐正勝 環境教育 阿部 治	9:15～15:30 総合的な学習の時間 村川雅弘		9:15～15:30 生徒指導 河村茂雄		9:15～15:30 生徒指導 河村茂雄		9:15～17:00 学校組織マネジメント					
午前2 10:30～11:45															
午後1 13:00～14:15															
午後2 14:15～15:30															
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究							
第4週		7月19日(月)		7月20日(火)		7月21日(水)		7月22日(木)		7月23日(金)		7月24日(土)		7月25日(日)	
8:30～9:00		海の日	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備						
午前1 9:15～10:30			9:15～11:45 生徒指導 松田素行	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習						
午前2 10:30～11:45															
午後1 13:00～14:15			13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術												
午後2 14:15～15:30															
午後3 15:45～17:00									15:30～17:00 地方教育行政制度						
第5週		7月26日(月)		7月27日(火)											
8:30～9:00		8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備											
午前1 9:15～10:30		9:15～11:45 人権教育 福田 弘	9:15～10:45 リーダーとなるために 小杉俊哉												
午前2 10:30～11:45			11:00～11:20 閉講式												
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 特別支援教育 花輪敏男													
午後2 14:15～15:30															
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究													

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修 【第339回】							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校・中学校の教諭 <small>（小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員（副校長・教頭を除く）で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者）</small>							
開催期日	平成22年7月29日（木）～平成22年8月24日（火）				27日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	240	人	受講者数	238	人	参加率	99.2%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 2,000 人、受講者数 1,575 人、参加率 78.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	216	22	0	0	0	0	238
割合 (%)	90.8	9.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	238						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 他校の実践を学ぶことができる演習は大変勉強になりました。自分自身のもっていた観点（視点）とは、違うものの見方を知ることができました。 講義のみよりも演習が入っている方が理解度が高くなると思います。 演習を多く取り入れてくれたので、自校に戻ってからすぐに活用できそうなものがあって良かったと思います。 自分が実際に演習してみることでより深く理解できたと思います。 グループ編成を意図的に毎回変えることで、他都府県の先生とのつながりが広がっていくのを感じ、良かった。最高の講師・研修生と初めに言われたが、研修生のレベルが高かったので演習によって得られるものが非常に多かった。 研修資料を最初に頂いたので、見通しを持って様々な研修に計画的に取り組むことができました。内容の構成がよくできていると思いました。 素晴らしい講師陣の心に残る講義内容だったと思います。 リスクマネジメントで経験した「模擬記者会見」印象に残りました。特に、記者の向こうに一般の人々がいるという意識、学校には全く気づかないものでした。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校組織マネジメントで前例選択コースを2コース増やして、4コースにした。 学校管理運営演習の問題・課題等に関する協議の時間を確保。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「特別支援教育」の時間を増やし、充実させるとともに、「コミュニケーション力」の講義等を新たに組み入れる。 比較的参加しやすい時期に研修期間を設定し受講機会の拡大を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度教職員等中央研修 第3回中堅教員研修(第339回)

参加者: 小学校・中学校教諭 240人

平成22年7月29日(木)～平成22年8月24日(火)

第1週	7月29日(木) 7月30日(金) 7月31日(土) 8月1日(日)						
午前1 9:15～10:30				9:30～9:50 受付	8:30～10:00 オリエンテーション		
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション			
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	10:15～11:45 地方教育行財政制度 竺沙知章		
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 教育改革の動向	13:00～15:30 教育法規 I 坂田 仰		
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第2週	8月2日(月)	8月3日(火)	8月4日(水)	8月5日(木)	8月6日(金)	8月7日(土)	8月8日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育法規 II 松崎 勝	9:15～11:45 国際理解教育 森本 敏	9:15～15:30 生徒指導 飯野真幸	9:15～11:45 リスクマネジメント 上地安昭	9:15～17:00 リスクマネジメント 石川慶子		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15		13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術		13:00～17:00 リスクマネジメント 石川慶子			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 学習指導要領		15:45～17:00 実践研究				
第2週	8月9日(月)	8月10日(火)	8月11日(水)	8月12日(木)	8月13日(金)	8月14日(土)	8月15日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 生徒指導 松田素行	9:15～11:45 学校評価 小松郁夫	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 小泉 カー ボランティア教育 池田幸也	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント 蛭田政弘	9:15～15:30 総合的な学習の時間 村川雅弘		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 道徳教育 七条正典	13:00～15:30 キャリア教育 鹿島研之助	健康教育 野津有司 環境教育 阿部 治 教育資源の活用 永山 俊介				
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第3週	8月16日(月)	8月17日(火)	8月18日(水)	8月19日(木)	8月20日(金)	8月21日(土)	8月22日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメント	9:15～15:30 学習指導 清水静海	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究			15:30～17:00 地方教育行政制度		
第4週	8月23日(月)	8月24日(火)					
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究					
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 梅野正信	9:15～10:45 リーダーとなるた 木村政雄					
午前2 10:30～11:45		11:00～11:20 開講式					
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 玉井邦夫						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究						

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修 【第342回】							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校・中学校の教諭 （小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員（副校長・教頭を除く）で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者）							
開催期日	平成22年9月21日（火）～平成22年10月19日（火）				29日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	140	人	受講者数	104	人	参加率	74.3%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 2,000 人、受講者数 1,575 人、参加率 78.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	96	8	0	0	0	0	104
割合 (%)	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	104	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい講師陣の最新の内容による講話は大変素晴らしいものだったと思います。 ・どちらかというと、講義よりも演習を通して得るものの方が多かったように思えますので、現在のスタンスでよいのではと思います。 ・演習に向けての準備（宿題）が毎日大変でしたが、やればやるだけ理解につながっていくと感じました。演習を通して、講義の意味が理解できることも多かったのです。 ・実際に自らの頭を使い、他の先生方の意見を聞くなどして、アウトプット型の演習はとても充実していたし、参考になった。研修等で活用できるものが多かったのです。 ・できるだけ自分のものとして持ち帰り、県で伝達するためには有効であったと思う。 ・特に、リスクマネジメントは中央研修の中でも目玉の1つだと思います。想定とはいえ、なかなかできない貴重な体験でした。 ・講義で得た知識を活用する場となり、理解の深化を図ることができ、とても有難かったです。研修内容によって演習の組み込み方が絶妙です。 ・ロールプレイ等の演習は、自分が実際にその立場になって物事を考えたり行動したりできるので、非常に有意義な体験でした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントで前例選択コースを2コース増やして、4コースにした。 ・学校管理運営演習の問題・課題等に関する協議の時間を確保。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別支援教育」の時間を増やし、充実させるとともに、「コミュニケーション力」の講義等を新たに組み入れる。 ・比較的参加しやすい時期に研修期間を設定し受講機会の拡大を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度教職員等中央研修 第4回中堅教員研修(第342回)

参加者:小学校・中学校教諭 140人

平成22年9月21日(火)～平成22年10月19日(火)

第1週		9月21日(火)	9月22日(水)	9月23日(木)	9月24日(金)	9月25日(土)	9月26日(日)		
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション	秋分の日	8:30～9:00 演習準備				
午前1 9:15～10:30		9:30～10:00 受付			9:15～15:30 教育法規Ⅱ				
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 大桃敏行		松崎 勝				
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ						
午後2 14:15～15:30		13:30～14:30 教育改革の動向	辻村哲夫						
午後3 15:45～17:00		15:15～17:00 実践研究				15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領		
第2週									
	9月27日(月)	9月28日(火)	9月29日(水)	9月30日(木)	10月1日(金)	10月2日(土)	10月3日(日)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備				
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 学校評価 濱田 博文	9:15～11:45 道徳教育 押谷由夫	9:15～11:45 生徒指導 石隈利紀	9:15～11:45 リスクマネジメント 飯野真幸	9:15～17:00 リスクマネジメント				
午前2 10:30～11:45					石川慶子				
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 キャリア教育 三川俊樹	13:00～17:00 研修講師 となるための 知識・技術	13:00～15:30 国際理解教育 森本 敏	13:00～17:00 リスクマネジメント					
午後2 14:15～15:30									
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 実践研究						
第3週									
	10月4日(月)	10月5日(火)	10月6日(水)	10月7日(木)	10月8日(金)	10月9日(土)	10月10日(日)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備				
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント	9:15～17:00 学校組織マネジメント	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義)	9:15～15:30 総合的な学習の時間	9:15～15:30 生徒指導				
午前2 10:30～11:45	安彦忠彦		情報教育 堀田龍也	嶋野道弘	横山利弘				
午後1 13:00～14:15			ボランティア教育 長沼 豊						
午後2 14:15～15:30			健康教育 野津有司						
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究				15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	
第4週									
	10月11日(月)	10月12日(火)	10月13日(水)	10月14日(木)	10月15日(金)	10月16日(土)	10月17日(日)		
8:30～9:00	体育の日	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備				
午前1 9:15～10:30		9:15～15:30 学習指導	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習				
午前2 10:30～11:45		角屋重樹							
午後1 13:00～14:15									
午後2 14:15～15:30									
午後3 15:45～17:00			15:45～17:00 実践研究			15:30～17:00 地方教育行政制度			
第5週									
	10月18日(月)	10月19日(火)							
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備							
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育	9:15～10:45 リーダーとなるために 黒岩 禪							
午前2 10:30～11:45	有村久春	11:00～11:20 開講式							
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 落合俊郎								
午後2 14:15～15:30									
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究								

I 研修概要

研修名	教職員等中央研修 第5回中堅教員研修 【第344回】							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校・中学校・高等学校の教務主任 （ 小学校、中学校、高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員（副校長・教頭を除く）で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者 ）							
開催期日	平成22年11月15日（月）～平成22年12月10日（金）				26日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	280	人	受講者数	192	人	参加率	68.6%
開催場所	独立行政法人 教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 2,000 人、受講者数 1,575 人、参加率 78.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	187	5	0	0	0	0	0	192	
割合 (%)	97.4	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	192	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習準備と実践発表はホームルームのようで、安心と自由な発言ができ、講義・演習はいろいろなメンバーで機能的といったように、非常にうまく構成されていると思いました。 ・講義・演習の組み方、講師の配置など、大変タイミングよく配列され、実り多い研修になったと思います。研修する側の心の動きを読まれているようでした。 ・大変充実した4週間になりました。一生で一番勉強したように思います。本当にいろいろありがとうございました。 ・中央研修に来なければ体験することのできない一流の講師の皆様からお話を聴くことができ、とても光栄に思います。 ・内容が関連づいたり深まったりする構成で、よく練られていると思った。月曜日は、講義中心で週の初めとしてよいと思う。 ・もっと聴きたい、学びたいと思う講義・演習が多かったです。 ・演習を取り入れることで受講者の立場・気分が一新でき、毎日違う先生方と意見が交流できることは有効である。 ・聞くだけの研修よりも、演習が取り入れられている方が理解しやすいと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントで前例選択コースを2コース増やして、4コースにした。 ・学校管理運営演習の問題・課題等に関する協議の時間を確保。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別支援教育」の時間を増やし、充実させるとともに、「コミュニケーション力」の講義等を新たに組み入れる。 ・比較的参加しやすい時期に研修期間を設定し受講機会の拡大を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成22年度教職員等中央研修 第5回中堅教員研修(第344回)

参加者:(教務主任)小学校・中学校・高校教諭280人

平成22年11月15日(月)～平成22年12月10日(金)

第1週	11月15日(月)	11月16日(火)	11月17日(水)	11月18日(木)	11月19日(金)	11月20日(土)	11月21日(日)
8:30～9:00		8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:30～10:00 受付		9:15～15:30 教育法規Ⅱ	9:15～11:45 キャリア教育	9:15～11:45 国際理解教育		
午前2 10:30～11:45	10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 窪田真二	清水幹裕	藤田晃之	佐藤郡衛		
午後1 13:00～14:15	13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規Ⅰ 坂田 仰		13:00～15:30 研修講師 となるための 知識・技術	13:00～15:30 (小・中)道徳教育 柴原弘志 (高)生徒指導 岩永雅也		
午後2 14:15～15:30	13:30～14:30 教育改革の動向						
午後3 15:45～17:00	15:15～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領		15:45～17:00 実践研究		
第2週	11月22日(月)	11月23日(火)	11月24日(水)	11月25日(木)	11月26日(金)	11月27日(土)	11月28日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	勤労感謝の日	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 総合的な学習の時間 (小・中・高)		9:15～11:45 (小・中)生徒指導 嶋崎政男 (高)道徳教育 横山利弘	9:15～11:45 リスクマネジメント	9:15～17:00 リスクマネジメント		
午前2 10:30～11:45	黒上晴夫			飯野真幸	石川慶子		
午後1 13:00～14:15			13:00～15:30 学校評価	13:00～17:00 リスクマネジメント			
午後2 14:15～15:30			小松郁夫	石川慶子			
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 実践研究				
第3週	11月29日(月)	11月30日(火)	12月1日(水)	12月2日(木)	12月3日(金)	12月4日(土)	12月5日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント (小・中学校)	9:15～17:00 学校組織マネジメント	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義)	9:15～15:30 学習指導 (小・中学校)	9:15～15:30 生徒指導		
午前2 10:30～11:45	蛭田政弘 (高校) 大杉昭英		情報教育 小泉カー ボランティア教育 興梶 寛 健康教育 川畑哲朗 環境教育 阿部 治	角屋重樹 (高校) 二井正浩	河村茂雄		
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第4週	12月6日(月)	12月7日(火)	12月8日(水)	12月9日(木)	12月10日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:30 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育	9:45～17:00 学校管理運営演習	9:45～17:00 学校管理運営演習	9:45～17:00 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 小川三夫		
午前2 10:30～11:45	梅野正信				11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育						
午後2 14:15～15:30	中井 滋						
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究			15:30～17:00 地方教育行政制度			

I 研修概要

研 修 名	事務職員研修（小・中学校）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校の組織運営の一翼を担う事務職員として必要な、特色ある教育活動の推進、学校事務体制のマネジメント等に関する専門的な知識・技能等を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受 講 対 象	小学校及び中学校の事務長又はそれに準じる事務職員で、原則として学校事務職員の経験が20年以上であり、各地域の学校管理運営、学校事務の改善充実、教育改革の推進の取組の中核的な役割が期待される者							
開 催 期 日	平成23年2月14日（月）～平成23年2月18日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	180	人	受講者数	174	人	参加率	96.7%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 360人、受講者数 319人、参加率 88.6%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	145	29	0	0	0	0	174
割合 (%)	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	174	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・地元ではふれることができない最先端の情報や、とても有意義な経験をたくさんいただきましたので、今後、研修の内容を活かせるよう勤務したいと思います。 ・全国各地の皆さんと情報交換でき、自分の勤務地にいるだけではわからないものの見方、考え方や自分と違った視点で物事を再考する重要性がよくわかり、とても刺激を受けました。 ・地域にかえて、他の事務職員に伝えるとともに、若手事務職員の育成に生かしていきたいと思います。 ・今後は、行政職員として教員とは違った観点で、教育活動をとらえ、その専門性を発揮しながら学校経営に参画し、生きる力を育む教育環境整備に取り組んでいきたいです。 ・日々の事務処理だけをしていたことを反省し、今後は事務職員としてのビジョンを持ち、学校経営に参画できる事務職員となれるよう努力していきたいです。 ・地区単位、県単位では直接お話しをうかがうのは難しい著名な先生方の講義を受けることができ、これからの仕事に大変役立つとともに、私自身の大きな財産になることと思います。 ・学校運営上の取組の課題をPDCAの手法を使って解決する方法を考えていくという研修は、大変勉強になりました。 ・初任者研修以来、こうしたまとまった研修は初めてであり、とても勉強になり、よい機会となりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の行政説明に関するコマを変更して、「学校教育の情報化」に関するコマを設定した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事務職員研修（小・中学校）」を「学校組織マネジメント指導者養成研修」に移行して実施する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成22年度 事務職員研修(小・中学校)日程表

		9:50	10:20	10:50	12:00	13:00	14:00	14:10	15:30	15:45	17:00				
2月14日(月)	受付		開講式	オリエンション	課題協議1 「学校教育の情報化について」 <small>玉川大学教職大学院</small> 教授 堀田 龍也 目的:教育の情報化ビジョンに即した、学校教育の情報化の在り方について理解を深める。	屋 休 食 憩	課題協議2 「財政制度について」 文部科学省初等中等教育局 尾崎 春樹 審議官 目的:財政制度の現状及び課題について理解を深める	休 憩	課題協議3 「新学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局 視学官 吉川 成夫 目的:新学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方について理解を深める	休 憩	演習1 「自校の取組」 目的:他校の特色ある取組について理解する				
2月15日(火)	受付	9:00	課題協議4 「信頼される開かれた学校づくりのために」 玉川大学教職大学院 教授 小松 郁夫 目的:学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえるとともに、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める			屋 休 食 憩	講義・演習2 「学校におけるリスクマネジメント」 バームコンサルティング グループ 代表 伊原 正俊 目的:学校における危機管理の手法について理解を深める		班別演習		17:00				
2月16日(水)	受付	9:00	10:50	11:00	12:00	13:00	事例発表 「特色ある学校運営の取組」 事例発表① 滋賀県栗東市立治田東小学校 事務主査 森島 満喜子 事例発表② 福島県田村市立滝根中学校 主査 佐藤 ヒロ子 目的:各地域で取り組まれている教育改革に係る学校運営の事例を知る			休 憩	演習3 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 事例発表者による 指導・助言 目的:教育改革に係る学校運営における学校事務職員の役割について課題をもつ	屋 休 食 憩	講義・演習4-① 「学校組織マネジメント」 兵庫教育大学 准教授 笠沙 知章 目的:学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について具体的に理解を深める		17:00
2月17日(木)	受付	9:00	講義・演習4-② 「学校組織マネジメント」 兵庫教育大学 准教授 笠沙 知章 目的:学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について具体的に理解を深める。			屋 休 食 憩	演習5 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 文部科学省初等中等教育局 視学官 日置 光久 目的:学校運営における課題に対する検討方法の一例を学ぶとともに、今後の学校事務職員の役割を整理する				17:00				
2月18日(金)	受付	9:00	11:20	11:30	12:00	12:15	演習6 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 文部科学省初等中等教育局 視学官 日置 光久 発表 班別協議 目的:学校運営における課題に対する検討方法の一例を学ぶとともに、今後の学校事務職員の役割について理解を深める			休 憩	課題協議5 「研修を生かした学校運営の充実を図る方策」 目的:研修内容を整理し、学校運営を支える学校事務職員の役割について理解する	閉 講 式			

I 研修概要

研 修 名	事務職員研修（高等学校）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校の組織運営の一翼を担う事務職員として必要な、特色ある教育活動の推進、学校事務体制のマネジメント等に関する専門的な知識・技能等を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。							
受 講 対 象	高等学校及び特別支援学校の事務長及び同等の事務職員で、各地域の学校事務の改善充実の取組の中核的な役割が期待される者							
開 催 期 日	平成23年1月17日（月）～平成23年1月21日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	180	人	受講者数	145	人	参加率	80.6%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 360人、受講者数 319人、参加率 88.6%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	95	48	0	0	2	0	145
割合 (%)	65.5	33.1	0.0	0.0	1.4	0.0	
	143	98.6					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の一翼を担う事務（長）職員として、専門的な知識技能を集中講義によって、各地域の同職の人と協議できたことは大変有意義だった。 ・今までバラバラで考えていた新学習指導要領、学校評価、組織マネジメントを関連づけることができました。 ・学校組織マネジメントの講義から学校運営ビジョンの展開が具体的に考えられたことや、班別の演習が非常に参考となり、今後の事務業務に活かしていきたいです。 ・学校や事務室を少しでもよくし、児童、生徒が毎日学校に来るのが楽しくあるために、研修をして伝えていかななくてはいけないことがあると考えました。 ・各都道府県レベルではこのような研修機会がなく、今後とも是非続けてもらいたいです。 ・他県の方々と交流することができ、本県との違いや参考とすべき点を感じることができた。 ・開始当初は何かと不安な部分もありましたが、日を経るごとに環境のすばらしさや円滑な研修日程等により、適応していくことができました。 ・「学校運営」の具体的な取り組みについて、先進的な方法等をより深くご教授いただけるとありがたいです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の行政説明に関するコマを変更して、「学校教育の情報化」に関するコマを設定した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事務職員研修（高等学校）」を「学校組織マネジメント指導者養成研修」に移行して実施する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 事務職員研修（高等学校）日程表

1月17日 (月)	9:50	10:20	10:50	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	課題協議1 「学校教育の情報化について」 白鷗大学 教授 赤堀 侃司 目的：教育の情報化ビジョンに即した、学校教育の情報化の在り方について理解を深める。	昼 休 食 憩	課題協議2 「新学習指導要領とこれからの学校運営」 文部科学省初等中等教育局 視学官 太田 光春 目的：新学習指導要領の理念や内容を踏まえ、今後の学校運営の在り方について理解を深める	休 憩	演習1 「自校の取組」 目的：他校の特色ある取組について理解する
1月18日 (火)	9:00	11:45	12:45	17:00				
	受付	課題協議3 「信頼される開かれた学校づくりのために」 玉川大学教職大学院 教授 小松 郁夫 目的：学校評価ガイドラインの改訂の趣旨を踏まえるとともに、学校評価を生かした学校運営の在り方について、具体的な事例を通して理解を深める	昼 休 食 憩	講義・演習2 「学校におけるリスクマネジメント」 パームコンサルティング グループ 代表 伊原 正俊 目的：学校における危機管理の手法について理解を深める	班別演習			
1月19日 (水)	9:00	10:50	11:00	12:00	13:00			
	受付	事例発表 「学校運営の課題と改善策について」 9:50 10:00 事例発表① 茨城県立友部高等学校 主査兼事務長 小澤 京 事例発表② 東京都立工芸高等学校 経営企画室長 染谷 嘉彦 事例発表③ 栃木県立富屋特別支援学校 事務長 関根 俊男 目的：特色ある学校運営の事例を知るとともに、事務長に期待されていることを確認する	休 憩	演習3 「学校運営を支える事務長の役割」 事例発表者による 指導・助言 目的：学校を運営する上で、事務長に求められている役割について課題をもつ	昼 休 食 憩	講義・演習4-① 「学校組織マネジメント」 兵庫教育大学 教授 浅野 良一 目的：学校組織マネジメントによる学校業務の検討方法について具体的に理解を深める		
1月20日 (木)	9:00	12:00	13:00	17:00				
	受付	講義・演習4-② 「学校組織マネジメント」 兵庫教育大学 准教授 笹沙 知章 目的：学校組織マネジメントによる学校業務の検討方法について具体的に理解を深める	昼 休 食 憩	演習5 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 視学官 太田 光春 目的：学校運営における課題に対する検討方法の一例を学ぶとともに、事務長の役割を整理する				
1月21日 (金)	9:00	11:20	11:30	12:00	12:15			
	受付	演習6 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 視学官 太田 光春 発表 班別協議 目的：学校運営における課題に対する検討方法の一例を学ぶとともに、事務長の役割について理解を深める	休 憩	課題協議4 「研修を生かした学校運営の充実を図る方策」 目的：研修内容を整理し、学校運営の充実を図る方策について理解する	閉 講 式	※演習1, 3, 5, 6については原則として以下に分かれて実施 1. 特色ある学校の運営(普通科) 2. 特色ある学校の運営(専門学科) 3. 特色ある学校の運営(総合学科) 4. 特色ある学校の運営(特別支援学校)		

I 研修概要

研修名	教職員等海外派遣研修（英語教育：2ヶ月）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	各地域において英語教育を推進する中核的教員を育成するため、優れた研究課題を有する者を海外に派遣し、英語教育に関する指導方法等についての実践的な研究、大学等での専門的な授業及び実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の新任校（園）長、教頭及び教諭 ・都道府県教育委員会、政令指定都市教育委員会、中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 							
開催期日	別紙のとおり				別紙のとおり			
受講人数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	30	人	参加率	100.0%
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 30 人、 受講者数 30 人、 参加率 100.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	28	2	0	0	0	0	30
割合 (%)	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会では、前年度参加者から大学研修等の概要説明や研修成果活用の実践報告を聞くことにより、研修に臨む上での心構えや海外研修をイメージすることができた。また、他の参加者との交流や意見交換できたことで、海外派遣研修出発までの準備をする上で役立った。 ・大学研修は理論・実践のバランスがとても良く、実際に日本での日々の授業に役立てられるもので全てが参考になった。 ・2ヶ月間という短期ならではの集中的な研修スケジュールでしたが、今後の授業や英語教員として役立てることのできる事例がたくさんあり、学びの多い有意義な研修だった。 ・大学研修はとても実践的であり、講師の先生方も熱心かつ内容もすばらしかった。また、各都道府県から参加した先生方との交流や英語教育に関する情報を共有できることは本研修のもう一つの魅力であり、大変良い勉強になりました。 ・担当教員から研修生の個別課題や研修の進捗状況に応じた個別の指導・助言を受けながら研修を進めることができた。効果的で充実した研修ができました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰国報告会に変えて新たに全員参加の事後研修会を実施し、研修成果の共有を図った。 ・研修成果活用の実践報告書を作成し、全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び教育センターに配付した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会の内容を見直し、課題設定を明確にするなど、より高い研修の成果が得られるように工夫する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 教職員等海外派遣研修

英語教育:2ヶ月

派遣国	派遣先機関	参加人数	事前研修会	派遣期間	事後研修会
イギリス	バーミンガム大学	6	5/13～5/14 教員研修センター (茨城県つくば市)	7/16～9/13	12/2～12/3 教員研修センター (茨城県つくば市)
	エクセター大学	11		6/26～8/23	
アメリカ	デンバー大学	13		7/18～9/14	
計		30			

I 研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第1回）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、業務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として有効に機能することが求められている。本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事・管理主事等及び教育センターの指導主事・研修主事等で、学校組織マネジメントの普及・充実または学校組織マネジメント研修の企画・実施を担当する者並びにそれに準ずる者 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、事務長、事務職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開 催 期 日	平成22年10月4日（月）～平成22年10月8日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	133	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 220 人、受講者数 246 人、参加率 111.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	109	24	0	0	0	0	133
割合 (%)	82.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	133	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・大人数での受講であったが、後方の席であっても周囲にモニターが配置されるなど、配慮が行き届いていたと思います。教材の準備等、細かい部分までしっかり対応して頂き、ありがとうございます。 ・どの講座も大変役立つ内容である。講座のねらいが明確になっているため、受講者としても理解を一層深めることができる ・手探りの（経験による勘）の管理職の手法から、民間企業の戦略的な手法を取り入れる学校経営に変わるべきで、その意味で有意義であったと思う ・これまでの断片的な知識が体系化されたり、新しい発想や知識を学ぶことができました。 ・マネジメントの考え方が新鮮で興味を持って各講義を聞くことができました。 ・学校経営の基本について、マネジメントの重要性など大変分かりやすく、しかも密度の濃い講義でした。 ・今回の研修（5日間）を包括した内容であり、全体像をつかむことができた。 ・現場の実状を知った上での分かりやすい講義で、業務に生かせる内容であった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントをより多面的な視点から実践できるように、「特色ある学校づくりの為の財務マネジメント」の講義を入れた。 ・「メンタルヘルスマネジメント」の講義時間を増やし、前半を講義、後半を演習（ロールプレー）とした。 ・民間の視点からのマネジメントを取り入れるため、民間のコンサルタントによる講義を充実させた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「メンタルヘルスマネジメント」の講義時間を分割して、前半を医師による現状分析を行い、後半は、大学教員を講師として前半講義内容を踏まえて、学校におけるマネジメントのあり方を検討する。 ・実践発表の事例を精選し、改善点・問題点をより深く考察できるようにする。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第1回)日程

平成22年10月4日(月)～平成22年10月8日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

8:30 9:00 9:30 10:00 10:30 11:00 11:30 12:00 12:30 13:00 13:30 14:00 14:30 15:00 15:30 16:00 16:30 17:00

第1日 10/4		受付	オリエンテーション	開講式	講義 教育改革の動向と 学校経営 文部科学省初等中 等教育局視学官 宮崎 活志	昼食・休憩	講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー教員にとっての マネジメントの課題～ 国土館大学教授 北神 正行	休憩	実践発表 マネジメントの改善 (1)地域のリソースを活かした マネジメント (2)校務の情報化による業務 改善 国土館大学教授 北神 正行	諸連絡
第2日 10/5	演習 学校コンサルティングの 実際(1)	休憩	講義 リーダーシップと マネジメント ～民間の組織経営に 学ぶ～ 株式会社イマージェン ス代表取締役社長 桑畑 英紀		昼食・休憩	講義・演習 メンタルヘルスマネ ジメント 三楽病院精神神経科部 長 真金 薫子			諸連絡	
第3日 10/6	演習 学校の戦略マップを 作る(1) 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一				昼食・休憩	演習 学校の戦略マップを 作る(2) 兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一			諸連絡	
第4日 10/7	オリエン テーション	講義・演習 特色ある学校づく りのための財務マ ネジメント 兵庫教育大学准教 授 笠沙 知章			昼食・休憩	講義・演習 学校経営の改善に 活かす技法 ～問題解決の方策 を探るための論理 的思考法～			諸連絡	
第5日 10/8	オリエン テーション	演習・講義 学校コンサルティング の実際(2) ～研修講師となる ために～ 群馬県立女子大学 講師 飯野 眞幸		閉講式						

I 研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第2回）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、業務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として有効に機能することが求められている。本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事・管理主事等及び教育センターの指導主事・研修主事等で、学校組織マネジメントの普及・充実または学校組織マネジメント研修の企画・実施を担当する者並びにそれに準ずる者 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、事務長、事務職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開催期日	平成22年10月25日（月）～平成22年10月29日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	113	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 220 人、受講者数 246 人、参加率 111.8%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	97	14	0	0	0	2	113
割合 (%)	85.8	12.4	0.0	0.0	0.0	1.8	
	111	98.2					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 一流の講師の先生方の講義・演習は大変わかりやすかった。 各講座の一流講師による講義・演習の受講は、今後の教育研修を充実させていく上で刺激であり、理論武装となる。 県内では学ぶ機会の少なかった研修内容で、大変興味深かった。 有名な講師陣を揃えていただき、大変勉強になりました。 準備が十分であり、内容も運営も素晴らしかったです。 講師の官民、講義・演習のバランスなどがよくできていたと思います。 研修内容は自分にとって必要なものばかりであった。やや忙しい講義・演習が多かったように思う。個別に考えさせる時間をもう少し長く、グループの時間は少し忙しかつたですが良好です。 できれば、戦略マップ作りにもっと時間をかけたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校組織マネジメントをより多面的な視点から実践できるように、「特色ある学校づくりの為の財務マネジメント」の講義を入れた。 「メンタルヘルスマネジメント」の講義時間を増やし、前半を講義、後半を演習（ロールプレー）とした。 民間の視点からのマネジメントを取り入れるため、民間のコンサルタントによる講義を充実させた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「メンタルヘルスマネジメント」の講義時間を分割して、前半を医師による現状分析を行い、後半は、大学教員を講師として前半講義内容を踏まえて、学校におけるマネジメントのあり方を検討する。 実践発表の事例を精選し、改善点・問題点をより深く考察できるようにする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度学校組織マネジメント指導者養成研修(第2回)日程

平成22年10月25日(月)～平成22年10月29日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	
第1日 10/25			受付	オリエンテーション	開講式	講義 教育改革の動向と 学校経営 文部科学省初等中 等教育局視学官 永井 克昇		昼食・休憩		講義 学校経営の基本 ～管理職とリーダー教員にとっての マネジメントの課題～ 国土館大学教授 北神 正行	休憩	実践発表 マネジメントの改善 (1)地域のリソースを活かした マネジメント (2)校務の情報化による業務 改善 国土館大学教授 北神 正行						諸連絡	
第2日 10/26			休憩	講義 リーダーシップとマネジメント ～民間の組織経営に学ぶ～ 株式会社イメージンス代表取締役社長 桑畑 英紀				昼食・休憩		講義・演習 メンタルヘルスマネジメント 三楽病院精神神経科部長 真金 薫子									諸連絡
第3日 10/27				演習 学校の戦略マップを作る(1) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一				昼食・休憩		演習 学校の戦略マップを作る(2) 兵庫教育大学大学院教授 浅野 良一									諸連絡
第4日 10/28				講義・演習 特色ある学校づくりのための財務マネジメント 兵庫教育大学准教授 笠沙 知章				昼食・休憩		講義・演習 学校経営の改善に活かす技法 ～問題解決の方策を探るための論理的思考法～									諸連絡
第5日 10/29				演習・講義 学校コンサルティングの実際(2) ～研修講師となるために～ 群馬県立女子大学講師 飯野 真幸				閉講式											

I 研修概要

研 修 名	学校評価指導者養成研修（東部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	組織的・継続的に教育活動その他の学校運営の改善を図ることを目的とした学校評価を円滑に推進するため、第三者評価の観点を含めた自己評価、学校関係者評価の生かし方等について、必要な知識及び技能を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成22年10月12日（火）～平成22年10月15日（金）				4日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	102	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※ 全体受講定員 220人、受講者数 210人、参加率 95.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	78	21	0	0	2	1	102
割合 (%)	76.5	20.6	0.0	0.0	2.0	1.0	
	99	97.1					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習を通して常に自分で考えながら、最初の学校評価について学ぶ事が出来、大いに勉強になった研修であった。 ・講義と演習のバランスが良く取れており、最新の話題と他県や様々な立場の方々との情報交換がバランスよく出来た。4日間貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。 ・講義よりも参加型の演習が重視されていることは能動的に参加することとなり大変ありがたい。今後とも目的意識を持って主体的に研修に参加できるような企画をお願い致します。大変有意義な研修でした。 ・学校評価について理解の不十分だった点が随分スッキリすることが出来ました。また、ややもすれば、煩雑と捉えがちな学校評価も焦点化したアンケートにしたり、実施時期を年間スケジュールから位置付けたりすることで、実施しやすいものになると思えました。 ・学校評価について大切なポイントが自分の中でハッキリと整理されてきました。また、ワークショップ型の研修、成果物の作成により成就感や達成感を得る事が出来ました。 ・学校評価についての知見を得たこともあるが、他県の先生方、指導主事の方々との交流、ワークショップ等の協働作業の中で、新たに知ったこと、気付かされたことが多かった。 ・4日間しっかりと研修を受ける機会に恵まれたこと自体が、初めての経験であったが、担当している学校評価という業務について、深く考える事が出来た。横浜では既に経営方針と学校評価を連動させた仕組みを今年度からスタートしている。この仕組みが廻るようにするためにも、本研修で得た知識を情報として、各学校に伝えたいと思う。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例発表には第三者評価を実施している地域・学校を選定した。 ・評価結果の生かし方、改善へのつなぎ部分に焦点を当てる演習を設けた。 ・演習の最終ゴールに向け、PDCAサイクルを回すことを意識して検討すること、自己評価・学校関係者評価の手法の見直しに偏ることなく、学校評価全体を充実する観点から検討することを留意させることで、第三者評価的な学びもできるようにした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23年度より委託研修として実施する。 ・演習内容および作成資料の検討。 ・演習のゴールイメージを明確に示すなど運営面を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 学校評価指導者養成研修（東部ブロック）
日 程 表

第1日目

10月12日 (火)	10:00	10:30	11:00	12:15	13:15	14:45	15:00	17:00
	受 付	開 講 式	課題協議 1 「これからの学校評価に求められていること」 文部科学省初等中等教育局 視学官 日置 光久 ◎目的：学校評価ガイドライン（平成22年改訂）を踏まえ、学校評価の意義と目的を理解するとともに、現状と課題について整理する	休 休 み	課題協議 2 「学校経営の充実を図る学校評価」 玉川大学教職大学院 教授 小松 郁夫 ◎目的：学校評価が学校経営に果たすべき役割及び相互の関係性の在り方について理解する	休 憩	演習 1 「各地域における学校評価の取組」 ◎目的：各地域における学校評価の取組について情報交換することにより、課題を共有する	

第2日目

10月13日 (水)	9:00	10:20	10:35	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00
	課題協議 3 「学校改革に求められるリーダーシップ」 国土館大学 教授 北神 正行 ◎目的：学校評価を生かした学校運営を円滑に進めるために、管理職等に求められるリーダーシップについて理解を深める	休 憩	事例発表・協議 「学校評価を生かした学校改善の取組～信頼される学校づくりをめざして～」 広島市教育委員会主任指導主事 中堀 恵 広島市立観音中学校長 向井 康昭 広島市立観音中学校 学校協力者会議委員 池永幸子 ◎目的：先行事例の取組から、学校評価を生かした学校改善の手法、課題への対応策等の実際について理解を深める	休 休 み		演習 2 「学校評価の手法とその生かし方Ⅰ～現状と課題の明確化～」 ◎目的：事例検討を通して、学校評価の手法に係る現状と課題を把握する		

第3日目

10月14日 (木)	9:00	12:00	13:00	17:00
	演習 3 「学校評価の手法とその生かし方Ⅱ～評価結果の分析とその活用方法を学ぶ（第三者評価の観点も含めて）～」 <指導助言者> 小学校部会 国立教育政策研究所主任研究官 植田 みどり 中学校部会 兵庫教育大学准教授 大野 裕己 高等学校部会 山梨大学教授 日永 龍彦 ◎目的：学校評価の手法についての知識を得るとともにその生かし方を学ぶ	休 憩	休 休 み	演習 4 「効果的な学校評価を展開するために～研修成果の活用に向けた資料作成～」 <指導助言者> 小学校部会 国立教育政策研究所主任研究官 植田 みどり 中学校部会 兵庫教育大学准教授 大野 裕己 高等学校部会 山梨大学教授 日永 龍彦 ◎目的：効果的な学校評価を展開するために本研修成果の活用方法を学ぶ

第4日目

10月15日 (金)	9:00	11:10	11:20	12:20	12:35
	演習 5 「学校評価の充実に向けて－全体発表・協議－」 <指導助言者> 山梨大学教授 日永 龍彦 ◎目的：学校評価の充実を図るための方策について理解を深める	休 憩	課題協議 4 「研修講師となるために」 文部科学省 初等中等教育局視学官 宮崎 活志 ◎目的：学校評価に関する研修講師となるための課題を整理する	開 講 式	

I 研修概要

研修名	学校評価指導者養成研修（西部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	組織的・継続的に教育活動その他の学校運営の改善を図ることを目的とした学校評価を円滑に推進するため、第三者評価の観点を含めた自己評価、学校関係者評価の生かし方等について、必要な知識及び技能を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年11月16日（火）～平成22年11月19日（金）				4日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	108	人	参加率	※
開催場所	エル・おおさか（大阪府大阪市）							

※ 全体受講定員 220 人、受講者数 210 人、参加率 95.5%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	72	34	0	0	2	0	108
割合 (%)	66.7	31.5	0.0	0.0	1.9	0.0	
	106						
	98.1						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 協議と演習の2本柱で、それらがうまく関連付けられ、無理なく段階を踏みながら理解を深め実践することが出来ました。大変練られたプログラムでした。 4日間の研修が、こんなに愉しく過せたことに驚いています。今後の自身の活用路を考える事が楽しみになるような研修でした。 かなり有意義だった。「学校評価」のコアと周辺への理解が深まった。 具体的な題材をもとに協議・演習が組まれており、色々な視点で勉強が出来た。 実践～理論まで、演習・講義を通して視野が広がったように思う。全体像が見渡せたことで、指導・助言の際、的確な説明が出来ると思う。 非常に良い研修でした。グループの先生方とも仲良くなれ、今後も連絡を取り合ってお互いが相談できる関係となれた点は、研修内容で学んだことと共に、大変良かったと思います。 他県・他校の先生方と情報交換が出来たことが大きな成果である。学校評価を学校改善につなげるための工夫やその取り組みについて、参考となる事例が多く、自校の学校評価に生かしていきたい。また、講義や演習を通して、学校評価を進めていくためのポイントや自校の取り組みの問題点が見えてきた。 一流の講師の先生方による講義、有意義な情報交換ができた演習、資料作成等、これまでの自身の学校評価に対する認識がより深まりました。今後は積極的に広げ、より有効な活用なども吸収していきたいと思えます。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例発表には第三者評価を実施している地域・学校を選定した。 評価結果の生かし方、改善へのつなぎ部分に焦点を当てる演習を設けた。 演習の最終ゴールに向け、PDCAサイクルを回すことを意識して検討すること、自己評価・学校関係者評価の手法の見直しに偏ることなく、学校評価全体を充実する観点から検討することを留意させることで、第三者評価的な学びもできるようにした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 23年度より委託研修として実施する。 演習内容および作成資料の検討。 演習のゴールイメージを明確に示すなど運営面を工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 学校評価指導者養成研修（西部ブロック）
日 程 表

第1日目

11月16日 (火)	10:00	10:30	11:00	12:15	13:15	14:45	15:00	17:00
	受 付	開 講 式	課題協議 1 「これからの学校評価に求められていること」 文部科学省初等中等教育局 視学官 日置 光久 ◎目的：学校評価ガイドライン（平成22年改訂）を踏まえ、学校評価の意義と目的を理解するとともに、現状と課題について整理する	休 休 み	課題協議 2 「学校経営の充実を図る学校評価」 玉川大学教職大学院 教授 小松 郁夫 ◎目的：学校評価が学校経営に果たすべき役割及び相互の関係性の在り方について理解する	休 憩	演習 1 「各地域における学校評価の取組」 ◎目的：各地域における学校評価の取組について情報交換することにより、課題を共有する	

第2日目

11月17日 (水)	9:00	10:20	10:35	12:30	13:30	14:45	15:00	17:00
	課題協議 3 「学校改革に求められるリーダーシップ」 国土館大学 教授 北神 正行 ◎目的：学校評価を生かした学校運営を円滑に進めるために、管理職等に求められるリーダーシップについて理解を深める	休 憩	事例発表・協議 「学校評価を生かした学校改善の取組～信頼される学校づくりをめざして～」 矢掛町教育委員会指導主幹 岡野 浩美 埼玉県教育委員会主任管理主事 日吉 亨 矢掛町立矢掛小学校長 藤原 立志 埼玉県立不動岡高等学校教頭 久保島 昌一 川崎医療福祉大学准教授 諏訪 英広 ◎目的：先行事例の取組から、学校評価を生かした学校改善の手法、課題への対応策等の実際について理解を深める	休 休 み	演習 2 「学校評価の手法とその生かし方Ⅰ～現状と課題の明確化～」 ◎目的：事例検討を通して、学校評価の手法に係る現状と課題を把握する			

第3日目

11月18日 (木)	9:00	12:00	13:00	17:00
	演習 3 「学校評価の手法とその生かし方Ⅱ～評価結果の分析とその活用方法を学ぶ（第三者評価の観点も含めて）～」 <指導助言者> 小学校部会 国立教育政策研究所主任研究官 植田 みどり 中学校部会 兵庫教育大学准教授 大野 裕己 高等学校・特別支援学校部会 山梨大学教授 日永 龍彦 ◎目的：学校評価の手法についての知識を得るとともにその生かし方を学ぶ	休 憩	休 休 み	演習 4 「効果的な学校評価を展開するために～研修成果の活用に向けた資料作成～」 <指導助言者> 小学校部会 国立教育政策研究所主任研究官 植田 みどり 中学校部会 兵庫教育大学准教授 大野 裕己 高等学校・特別支援学校部会 山梨大学教授 日永 龍彦 ◎目的：効果的な学校評価を展開するために本研修成果の活用方法を学ぶ

第4日目

11月19日 (金)	9:00	11:10	11:20	12:20	12:35
	演習 5 「学校評価の充実に向けて－全体発表・協議－」 <指導助言者> 兵庫教育大学准教授 大野 裕己 ◎目的：学校評価の充実を図るための方策について理解を深める	休 憩	課題協議 4 「研修講師となるために」 文部科学省 初等中等教育局 主任視学官 田中 孝一 ◎目的：学校評価に関する研修講師となるための課題を整理する	開 講 式	

I 研修概要

研 修 名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修（総合コース）						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	<p>学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるため、学校は地域や学校の実態等に即し、学校の特色を生かした適切な教育課程を編成、実施していくことが重要となる。</p> <p>このため、学校においてカリキュラム・マネジメントを効果的に展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等、カリキュラム・マネジメントを円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。</p>						
受 講 対 象	<p>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者</p> <p>・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者</p>						
開 催 期 日	平成22年12月13日（月）～平成22年12月17日（金）				5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	160	人	受講者数	165	参加率	103.1%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)						

※ 全体受講定員 380人、受講者数 304人、参加率 80.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	133	32	0	0	0	0	165
割合 (%)	80.6	19.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	165						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントの意義、活用方法、期待される成果などが明らかになり、自校での活用を積極的に進めていきたい。 ・概論から入り、ワークショップで深め、最後に振り返るという構成で、無理なくカリキュラムマネジメントについて学ぶことが出来ました。時間的にも適当であり有意義でした。即実践に活用できそうです。 ・演習重視の良いプログラムであった。グループは様々な立場（役職）の方で集まったので、多様な視点からのプレゼン作成が出来た。5日間の日程であったが、大変有意義な研修となった。 ・2日目、3日目、4日目とかなりハードに感じたが、大変勉強になった。様々なWS型研修の手法、カリマネモデルを使つての研修は、色々な場面で役に立つと思う。大変充実した研修でした。 ・学校改善を行うために、一番大切なことは教職員の意識を変えることであり、そのための手法としてワークショップを取り入れた研修は必要であると強く感じた。生徒が、教職員が、達成感・充実感・満足感が得られる明るい学校づくりを推進したい。 ・実践的な研修内容が多く充実した研修が出来た。理論を実践的なワークショップを通して理解するという学びの有効性が良く分かった。是非、今後の研修において活用していきたい。 ・カリキュラムマネジメントの意義とその具体的な手法について学ぶことが出来る充実した研修であったと思います。WS型研修についても今までの研修の中でも受け、企画してきたが、より効果的な仕組み方など、そのノウハウを学ぶことが出来良かったと思います。5日間という集中講義であるため、内容も盛りだくさんで、時間的な設定にも若干厳しいものがありましたが、内容については大変充実していたと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初日の講義日程・内容を見直し、課題協議1でカリマネの意義等の概要、課題協議2で学校現場で何をどうするのか具体的な示唆を行ってもらった。 ・2～3日目の講義時間を長くして欲しいというアンケート意見を踏まえ、開始時間を30分早めた。 ・3日目最後に「カリキュラムマネジメント研修の企画と運営」において3日目のまとめと翌日の演習に繋がりやすい内容を行った。 ・4日目の演習内容の進め方等について講師から丁寧に説明してもらい、PCは各班に2台ずつ貸し出しを行った。 ・5日目の演習において、講師に発表の講評および指導助言を行ってもらった。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23年度より委託研修として実施する。 ・2～3日目は時間を延ばしたものの、それ以上に内容が詰めこまれており精選が必要。 ・3日目演習は部会発表で終了しているの、各部会の情報共有(成果物のポスターセッション等)の工夫を行う。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修（総合コース）

日 程 表

第1日目		10:00	10:30	11:00	12:15	13:15	15:10	15:30	17:00
12月13日(月)		受付	開講式	課題協議1 「これからの学校教育～カリキュラム・マネジメントの観点から～」 大阪教育大学長 長尾彰夫 ◎目的：カリキュラム・マネジメントの意義とその必要性、また実践するうえでの現状と課題について理解する	昼休み	課題協議2 「カリキュラム・マネジメントの基本とその役割」 筑波大学大学院教授 田中統治 ◎目的：カリキュラム・マネジメントとは何か、学校運営における役割について具体的な理解を深める	休憩	演習1 「各地域におけるカリキュラム・マネジメントの取組」 ◎目的：各地域の取組を知るとともに、課題を共有する	

第2日目		8:30	10:00	10:15	12:00	13:00	15:05	15:20	17:00
12月14日(火)	課題協議3 「学校におけるカリキュラム・マネジメントの展開」 中村学園大学講師 田村知子 ◎目的：カリキュラム・マネジメントを展開するために効果的な校内体制や研修などの方策について知識・理解を得る	休憩	事例発表・協議 「学校の特徴を生かしたカリキュラム・マネジメントの実践と課題」 (言語活動) 東村山市立大岱小学校教諭 神村淳一 (道徳教育) 川崎市立生田中学校総括教諭 内園貴子 (総合的な学習の時間) たつの市立小宅小学校 教諭 石堂 裕 (キャリア教育) 神奈川県立田奈高等学校 教頭 岡野 親 ◎目的：先行事例を通して、学校の特徴を生かしたカリキュラムの編成とその適正なマネジメントによる学校改善の手法等について学ぶとともに、課題をもつ	昼休み	班別協議 鳴門教育大学大学院教授 村川雅弘 中村学園大学講師 田村知子	休憩	課題協議4 「カリキュラム・マネジメントを促進するための研修の手法」 鳴門教育大学大学院教授 村川雅弘 ◎目的：各校においてカリキュラム・マネジメントを実行するための研修手法及びその効果についての知識・理解を得る		

第3日目		8:30	10:30	10:45	12:00	13:00	16:10	17:00
12月15日(水)	講義・演習2 「カリキュラム・マネジメントの実際」 <全体の指導助言者> 鳴門教育大学大学院教授 村川雅弘 中村学園大学講師 田村知子 ◎目的：各部会におけるカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、事例検討を通して必要な視点を学ぶ <部会講師・指導助言者> A部会(言語活動) 富山哲也 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 B部会(道徳教育) 赤堀博行 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 C部会(総合的な学習の時間) 鳴門教育大学大学院教授 村川雅弘 D部会(キャリア教育) 文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導調査官 藤田晃之	休憩		昼休み	班別演習	部会発表	課題協議5 「カリキュラム・マネジメント研修の企画と運営」 鳴門教育大学大学院教授 村川雅弘 中村学園大学講師 田村知子 ◎目的：カリキュラム・マネジメントのスキルとマインドを習得するための研修の企画・立案、運営方法等の知識・理解を得る	

第4日目		9:00	12:00	13:00	17:00
12月16日(木)	演習3-1 「カリキュラム・マネジメントを推進するために 一研修成果の活用に向けた資料作成一」 班別演習 奈良教育大学准教授 赤沢早人 ◎目的：カリキュラム・マネジメントを推進するために本研修成果の効果的な活用方法を学ぶ		昼休み		部会発表

第5日目		9:00	10:45	11:00	12:00	12:15
12月17日(金)	演習3-2 「カリキュラム・マネジメントを推進するために-全体発表・協議-」 奈良教育大学准教授 赤沢早人 ◎目的：カリキュラム・マネジメントを推進するための方策について理解を深める	休憩	課題協議6 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局視学官 永井克昇 ◎目的：研修講師となるための課題を整理する	閉講式		

* 日程等については変更することがあります。

I 研修概要

研 修 名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修（専門コース・第1回）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	<p>学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるため、特に各教科等における情報機器を活用したわかる授業や効果的な指導方法の開発等、地域や学校の実態に即した適切な教育課程を編成、実施していくことが重要となる。</p> <p>このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成等、教育活動の質の改善を円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。</p>							
受 講 対 象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者</p> <p>小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において情報機器を活用した指導者養成研修等の指導者や本研修内容を踏まえた研修講師等として次のような活動を行う予定である者</p>							
開 催 期 日	平成22年11月9日（火）～平成22年11月12日（金）			4日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	76	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 380 人、受講者数 304 人、参加率 80.0%
 (全体計画人数)
 ※ 専門コース 220 人、受講者数 139 人、参加率 63.2%
 受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	60	16	0	0	0	0	76
割合 (%)	78.9	21.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	76	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ICT教育についての多くの知識・技能を身につけることができた。また、多くの先生方と出会い、他府県での取組を聞くことができ、大変参考になった。 様々な県の先生方と情報交換する中で本区の課題も明確になった。今後の研修に生かすとともに、さらにICT機器の活用が進むよう努力していきたい。 これまで現場で授業・校務とICTを利用してきたが、この研修を通して体系的に学ぶことができ、新たな発見もたくさんあった。また、使用した研修テキストがとてもわかりやすく、幅広い知識等を学ぶことができた。 喫緊の課題としての情報教育について、すばらしい先生方よりお話を聞くことができ、充実した研修でした。講義・演習・協議とバランスよく、今後研修を実施する立場として大変参考になりました。この経験を伝えていきたいと考えております。研修資料の様々なデータも含め、大切にに使わせていただきたいと思います。 「教育の情報化に関する手引き」を基に作成された「研修テキスト」がとてもわかりやすく、これからの情報研修会に積極的に使っていきたい。この「研修会テキスト」を全国の全ての教員に持たせ、研修会を各県で実施していけたらよいと思う。 記念すべき第1回の研修に参加する事ができ、大変貴重な機会であった。特に、基本テキストの編集に携わった先生方からの講義があり、パソコンを使った演習形式による研修はまさしく実践力を育むものであった。自県に戻り、今回の研修成果を先生方に還元できるよう報告したいと思っています。 専門コースは初めてのこととお聞きしましたが、ポイントが絞られている分、大変有意義に研修させていただきました。 体系的な内容と具体的実践例が盛り込まれていたこと、様々な職の立場の対象者が織り交ぜられていたことで、情報交換がよかったです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成22年度から新たに本コースを設置 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度から新たに「学校教育の情報化指導者養成研修」として実施
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修(専門コース・第1回)日程

平成22年11月 9日(火)～11月12日(金) 3泊4日 会場:教員研修センター

		8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	
11/9 (火)	受付					講義 「情報教育に関わる改革の動向とカリキュラム・マネジメント」 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇 ◎ 目的:情報化推進の動向、概論、カリキュラム・マネジメントの意義、本研修のねらい等を理解する。	オリエンテーション		休憩	講義 「教育の情報化の推進」 -「教育の情報化に関する手引」の理解- 尚美学園大学 教授 小泉 カー ◎ 目的:教育の情報化に関する手引等を踏まえ、ICTを取り入れた特色ある教育課程編成の推進等を理解する。		休憩	講義・演習 「ICTの種類と特性の理解」 -パソコン、プロジェクタ、電子黒板、その他の操作と特性の理解- 茨城県つくば市教育委員会 指導主事 毛利 ◎ 目的:ICTの意義、特性を理解し、演習を通して効果的な使用方法等の認識を深める。						
		講 堂							食 堂 棟 3 階 レセプションホール										
11/10 (水)	協議 ＜小学校部会＞ ～事前課題に関する協議等～	休憩	講義 「教科指導におけるICT活用」 奈良教育大学 准教授 伊藤 剛和 京都市立梅小路小学校 教頭 稲葉 弘和 石岡市立東成井小学校 教諭 今泉 英樹 川西市教育情報センター 指導主事 坪田 城達 小野市立小野南中学校 教諭 古井 順子 ◎ 目的:教科指導におけるICTを活用したわかる授業の展開や授業改善の視点を理解する。		休憩	演習 ＜小学校部会＞ 「教科指導におけるICT活用の指導計画作成」 奈良教育大学 准教授 伊藤 剛和 京都市立梅小路小学校 教頭 稲葉 弘和 石岡市立東成井小学校 教諭 今泉 英樹 協議 ＜小学校部会＞ 発表・協議		休憩	演習 ＜中学・高校部会＞ 「教科指導におけるICT活用の指導計画作成」 奈良教育大学 准教授 伊藤 剛和 川西市教育情報センター 指導主事 坪田 城達 小野市立小野南中学校 教諭 古井 順子 ◎ 目的:ICTを効果的に活用した授業改善のあり方を理解する。		休憩	協議 ＜中学・高校部会＞ 発表・協議							
	協議 ＜中学・高校部会＞ ～事前課題に関する協議等～ ◎ 目的:各地域の学校の情報化の現状と課題を把握する。		小:特別研修棟A・B 中高:食堂棟レセ						小:特別研修棟A・B 中高:食堂棟3階 レセプションホール										
11/11 (木)	オリエンテーション	講 堂	講義 「教科指導における情報教育の推進」 奈良教育大学 准教授 伊藤 剛和 京都市立梅小路小学校 教頭 稲葉 弘和 石岡市立東成井小学校 教諭 今泉 英樹 川西市教育情報センター 指導主事 坪田 城達 小野市立小野南中学校 教諭 古井 順子 徳島県立徳島商業高等学校 教諭 川上 教夫 ◎ 目的:各教科等における情報教育の推進、情報を扱うスキルの向上等を教育課程に位置付け、授業計画への具現化を図る方策を理解する。		休憩	講義・演習 「情報モラル教育と情報安全教育」 ～課題等協議～ 研修の実際 研修計画の作成と協議 奈良教育大学 准教授 伊藤 剛和 東京都青少年・治安対策本部 連絡調整担当課長 古宮 伸浩 徳島県立徳島商業高等学校 教諭 川上 教夫 ◎ 目的:情報モラルや情報安全に関する指導のあり方を理解し、具体的な研修事例を通して、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進方策や学校の指導計画への位置づけについて検討する。		休憩	小:特別研修棟A・B 中高:食堂棟3階 レセプションホール										
	小:特別研修棟A・B 中高:食堂棟レセ																		
11/12 (金)	オリエンテーション	講 堂	講義・演習 「効果的な教員研修の実施に向けて」 目白大学 教授 原 克彦 奈良教育大学 准教授 伊藤 剛和 徳島県立徳島商業高等学校 教諭 川上 教夫 ◎ 目的:これまでの演習、協議を踏まえ、効果的な教員研修のあり方を検討する。		休憩	講義 「研修講師となるために」 目白大学 教授 原 克彦 ◎ 目的:研修のまとめをし、研修講師となるための力量と意欲を高める。		閉講式	小:特別研修棟A・B 中高:食堂棟レセ										
	小:特別研修棟A・B 中高:食堂棟レセ																		

I 研修概要

研修名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修（専門コース・第2回）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	<p>学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるため、特に各教科等における情報機器を活用したわかる授業や効果的な指導方法の開発等、地域や学校の実態に即した適切な教育課程を編成、実施していくことが重要となる。</p> <p>このため、ICTを活用したわかる授業を展開するための手だて、特色ある教育課程の編成等、教育活動の質の改善を円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。</p>							
受講対象	<p>都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者</p> <p>小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において情報機器を活用した指導者養成研修等の指導者や本研修内容を踏まえた研修講師等として次のような活動を行う予定である者</p>							
開催期日	平成23年1月24日（月）～平成23年1月27日（木）				4日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	63	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 380 人、受講者数 304 人、参加率 80.0%

※ 専門コース受講定員 220 人、受講者数 139 人、参加率 63.2%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	53	10	0	0	0	0	63
割合 (%)	84.1	15.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	63	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた環境下で充実かつ有意義な研修を受けることができました。国の情報教育の動向や課題、教員として取り組むべきことがはっきりと見えてきました。所属校に戻り次第実践し推進していきます。そして、他の教員・市教委・県に広く広めていきます。 ・これまで初任研・臨任研あるいは一般の教員に対する研修で情報教育の講座を担当していた私にとって大変有意義な研修となった。素晴らしい講師の方々のお話や全国から集まった先生方から貴重な話を伺うことができた。もっと早くこのような研修に来れる機会があるとよかったと感じた。 ・講義と演習がバランスよく研修に組み込まれていて、教育の情報化に関する知識・技能を少なからず身につけることができたと思います。 ・情報教育について、これまでの流れ・今後の動向などを聞くことができ、大変有意義でした。また、小・中・高における詳しい実践を全国レベルの先生方から聞き、今後の研修の中で紹介していきたいと考えます。 ・研修内容もそうだが、何より他県・地域の状況等々が交流などを通して知ることができたことがとても刺激になり有意義でした。 ・担当する業務に大変役に立つ内容でした。具体的な生かし方について、職場に戻り報告の上十分検討していきます。 ・今回学ぶチャンスを頂いたことで、本市の中で行われている教育の情報化について進めていくための方向性の確認ができたと思います。 ・全国各地の指導者の方たちと交流を深めることができ、多くの情報交換ができたことは大変有意義でした。本県にはない事例もあり、ぜひ帰ったら取り組んでみたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度から新たに本コースを設置 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度から新たに「学校教育の情報化指導者養成研修」として実施
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 カリキュラム・マネジメント指導者養成研修(専門コース・第2回)日程

平成22年11月 9日(火)～11月12日(金) 3泊4日 会場:教員研修センター

		8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00				
1/24 (月)	受付	開講式	講義 「情報教育に関わる改革の動向とカリキュラム・マネジメント」 文部科学省初等中等教育局 視学官 永井 克昇 ◎ 目的:情報化推進の動向、概論、カリキュラム・マネジメントの意義、本研修のねらい等を理解する。					オリエンテーション	講義 「教育の情報化の推進」 -「教育の情報化に関する手引」の理解- 尚美学園大学 教授 小泉 カー ◎ 目的:教育の情報化に関する手引等を踏まえ、ICTを取り入れた特色ある教育課程編成の推進等を理解する。					講義・演習 「ICTの種類と特性の理解」 -パソコン、プロジェクタ、電子黒板、その他の操作と特性の理解- 茨城県つくば市教育委員会 指導主事 毛利 靖 ◎ 目的:ICTの意義、特性を理解し、演習を通して効果的な使用方法等の認識を深める。								
			講 堂							食堂棟3階 レセプションホール												
1/25 (火)	協議	協議 <小学校部会> ~事前課題に関する協議等~					講義 「教科指導におけるICT活用」 奈良教育大学 准教授 伊藤 剛和 川崎市立はるひ野小学校 教頭 井部 良一 尼崎市立園田北小学校 教頭 米田 浩 川西市教育情報センター 指導主事 坪田 城達 丹波市教育委員会 指導主事 酒井 宏 ◎ 目的:教科指導におけるICTを活用したわかる授業の展開や授業改善の視点を理解する。					休憩	演習 <小学校部会> 「教科指導におけるICT活用の指導計画作成」 奈良教育大学 准教授 伊藤 剛和 川崎市立はるひ野小学校 教頭 井部 良一 尼崎市立園田北小学校 教頭 米田 浩					協議 <小学校部会> 発表・協議				
		協議 <中学・高校部会> ~事前課題に関する協議等~ ◎ 目的:各地域の学校の情報化の現状と課題を把握する。											演習 <中学・高校部会> 「教科指導におけるICT活用の指導計画作成」 奈良教育大学 准教授 伊藤 剛和 川西市教育情報センター 指導主事 坪田 城達 丹波市教育委員会 指導主事 酒井 宏 ◎ 目的:ICTを効果的に活用した授業改善のあり方を理解する。					協議 <中学・高校部会> 発表・協議				
		小:特別研修棟A・B 中高:食堂棟レセブ					食堂棟3階 レセプションホール						小:特別研修棟A・B 中高:食堂棟3階 レセプションホール									
1/26 (水)	オリエンテーション	講義 「教科指導における情報教育の推進」 奈良教育大学 准教授 伊藤 剛和 川崎市立はるひ野小学校 教頭 井部 良一 尼崎市立園田北小学校 教頭 米田 浩 川西市教育情報センター 指導主事 坪田 城達 丹波市教育委員会 指導主事 酒井 宏 徳島県立徳島商業高等学校 教諭 川上 教夫 ◎ 目的:各教科等における情報教育の推進、情報を扱うスキルの向上等を教育課程に位置付け、授業計画への具現化を図る方を理解する。					実践発表 <小学校部会> 実践発表 <中学・高校部会>					休憩	講義・演習 「情報モラル教育と情報安全教育」 奈良教育大学 准教授 伊藤 剛和 東京都青少年・治安対策本部 連絡調整担当課長 古宮 伸浩 徳島県立徳島商業高等学校 教諭 川上 教夫 ◎ 目的:情報モラルや情報安全に関する指導のあり方を理解し、具体的な研修事例を通して、発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進方や学校の指導計画への位置づけについて検討する。					研修の実際 ~課題等協議~ 研修計画の作成と協議				
		講 堂					食堂棟3階 レセプションホール						食堂棟3階 レセプションホール					小:特別研修棟A・B 中高:食堂棟レセブ				
1/27 (木)	オリエンテーション	講義・演習(事例発表を含む) 「効果的な教員研修の実施に向けて」 目白大学 教授 原 克彦 奈良教育大学 准教授 伊藤 剛和 徳島県立徳島商業高等学校 教諭 川上 教夫 ◎ 目的:これまでの演習、協議を踏まえ、効果的な教員研修のあり方を検討する。					全体発表					休憩	講義 「研修講師となるために」 目白大学 教授 原 克彦 ◎ 目的:研修のまとめをし、研修講師となるための力量と意欲を高める。					閉講式				
		講 堂					小:特別研修棟A・B 中高:食堂棟レセブ						講 堂					講 堂				

I 研修概要

研 修 名	国語力向上指導者養成研修（東部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	学習指導要領の改訂を踏まえて、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、各都道府県等における研修の講師や各学校への指導・助言を行う指導者を育成する。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成22年8月25日（水）～平成22年8月27日（金）			3日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	118	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 220人、受講者数 233人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	100	18	0	0	0	0	118
割合 (%)	84.7	15.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	118	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の地域では、まだまだ授業の中に言語活動を取り入れた事例が少なく、まして学校全体で取り組んでいる学校はまれである。教師の言語活動に関する知識も不足している状況であるため、大変参考になった。今後地域の中で今回学んだことを広めていきたい。 ・研修の内容が充実していたのはもちろんですが、全国から目的をもって先生方が集まり、課題協議や演習を通して言語活動の充実を軸として交流できたことは貴重な時間であったと考えます。 ・言語活動の充実を柱とする今回の学習指導要領改訂の経緯について、学習評価の改善とあわせ、時間を増やした方が、研修のねらいを確認できたのではないかと考えられる。 ・アメリカにおける国語科教育の状況や国内の各学校種による取組事例など興味深く、大変参考になった。 ・校種別の協議は、共通理解できる部分が多く、意義がある。 ・コミュニケーションをとり、話し合うことで、自分の言語活動への理解と解釈が深まった。 ・異校種（中学・高校）混合グループということもあり、実態が違うことの良さと、改善することもあるように感じた。自分の校種を深く学ぶという点では物足りなかったが、違う校種を知るよい機会となった。 ・英語、家庭、芸術、体育、情報・・・といった教科の先生方も交えて考えていくべきだと思った。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの演習の成果を共有するために、ポスターセッション方式を取り入れた。 ・事例発表の内容を深めるために事例協議の時間を設けた。 ・「研修講師となるために」の時間を充実させ、各講師から講評を行ってもらった。 ・演習の成果を振り返るための時間を設けた。 ・西部ブロックでも各班用にPCや拡大印刷機を準備し、演習が円滑に行えるようにした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各講義の流れやつながりについて研修のはじめに時間を設けて説明することで、各講義で受講者に学びとってもらいたいことを認識してもらおう。 ・各地域において言語活動の充実を図るための課題を共有化する協議の時間を設ける。 ・協議の時間が少ないというアンケートの要望により、初日の終了時間を延長する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	国語力向上指導者養成研修（西部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂を踏まえて、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、各都道府県等における研修の講師や各学校への指導・助言を行う指導者を育成する。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年8月4日（水）～平成22年8月6日（金）					3日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	115	人	参加率	※
開催場所	福岡国際会議場（福岡県福岡市）							

※ 全体受講定員 220 人、受講者数 233 人、参加率 105.9%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	96	18	0	0	0	1	115
割合 (%)	83.5	15.7	0.0	0.0	0.0	0.9	
	114						
	99.1						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の全面実施を前に、よい時期に研修が受けられてよかった。1日目の研修を受け、2日目にアクションプランをグループで作りに上げていく作業の中で実感として言語活動の充実に向けて、していくこと（アクション）がわかった。研修したことをしっかりと広め、深めるための指導にあたりたいと思う。 ・講義→演習というすすめ方は理解しやすく、取り組みやすかった。緊張感を持って取り組むことができ、大変勉強になりました。 ・国語力、言語力、言語活動の内容の再整理に始まり、域内の取り組みを広い視野でとらえ直すこと、実際の授業の中で役立てられる視点など、大変役に立ちました。域内に戻り、学校・子どもたちへ、お返ししていきたいと思えます。 ・普段はなかなか話をすることも無い他県の先生方といろいろと情報交換をすることができ、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。 ・授業の目標を達成するために、言語活動もねらいをもって取り入れなければならないと思いました。 ・各校、各域、各県で言語の力や国語科等を意識しながら、多様な取組がなされていて参考になりました。 ・課題から、取り組む改善点とその改善のプロセスを具体的に考えることは、「言語活動の充実」を自分なりに捉え直すという点で大変有意義だった。短時間でありながら、宮崎視学官に適確なアドバイスを受け、とても勉強になった。 ・班で協力して発表したのがよかった。発表しているうちに自分の中に自分たちが考えたプランについて疑問点が浮かび上がり、そのことを話し合うことで深まったように思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの演習の成果を共有するために、ポスターセッション方式を取り入れた。 ・事例発表の内容を深めるために事例協議の時間を設けた。 ・「研修講師となるために」の時間を充実させ、各講師から講評を行ってもらった。 ・演習の成果を振り返るための時間を設けた。 ・西部ブロックでも各班用にPCや拡大印刷機を準備し、演習が円滑に行えるようにした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各講義の流れやつながりについて研修のはじめに時間を設けて説明することで、各講義で受講者に学びとってもらいたいことを認識してもらう。 ・各地域において言語活動の充実に図るための課題を共有化する協議の時間を設ける。 ・協議の時間が少ないというアンケートの要望により、初日の終了時間を延長する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 国語力向上指導者養成研修～各教科等における言語活動の充実に向けて～ [西部ブロック] 日程表

第1日目

8月4日 (水)	9:30	10:00	10:30	11:10	11:20	14:45	15:00	17:00
	受付	開講式	課題協議1 「言語活動の充実の在り方及び研修の進め方」 文部科学省初等中等教育局主任視学官 田中孝一 ◎目的：言語活動の充実に関する現状と課題、意義・目的を踏まえた本研修のねらいの共有及び3日間の研修内容を知り研修を受講するにあたっての心構えを理解する。	課題協議2 「国内外における言語活動の充実に関する取組について」 1. 諸外国における取組 つくば国際大学教授 入部（石垣）明子 2. 国内における取組 ・事例発表 ー小学校 宮崎大学教育文化学部附属小学校 中倉信博、日高恵一 ー中学校 熊本県甲佐町立甲佐中学校 西本仁史 ー高等学校 滋賀県立彦根東高等学校 饗場清文、村中隆之 ・質疑応答 ・講評 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 富山哲也 ◎目的：言語活動の充実に関する諸外国の取組を知り、視野を広めるとともに、国内の先進校の取組を知り、各地域・学校で今後実践していくための方法について理解を深める。	昼休み	休憩	事例協議 「各学校種での言語活動の充実について」 ①小学校部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 水戸部修治 ②中学校部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 富山哲也 ③高等学校部会 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 西辻正副 ※各部会には、上記講師の他、課題協議2の事例発表者が指導助言者として参加 ◎目的：各学校段階における言語活動の充実方策について理解を深める。	

第2日目

8月5日 (木)	9:00	9:30	9:40	17:00				
	課題協議3 「カリキュラム改善のための手法」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 水戸部修治 ◎目的：言語活動の充実に向けたカリキュラム等を作成する際の手だてを理解する。	休憩・移動	コース別演習 【学校全体のアクションプラン作成コース】 ー初等分科会 文部科学省初等中等教育局視学官 宮崎活志 岩手県盛岡市立月が丘小学校校長 藤川ひとみ ー中等分科会 横浜国立大学教授 高木展郎 広島県廿日市市立大野東中学校校長 門戸千幸 ノートルダム清心女子大学准教授 大滝一登 ◎目的：言語活動の充実各学校全体で取り組むために必要な事項を整理し、推進方策等についての知識・方法を得る。	昼休み	【各教科等での学習指導計画作成コース】 ー国語 文部科学省初等中等教育局教科調査官 水戸部修治、富山哲也、西辻正副 ー社会 文部科学省初等中等教育局教科調査官 寺田登 ー算数・数学 文部科学省初等中等教育局教科調査官 笠井健一 ー理科 文部科学省初等中等教育局教科調査官 村山哲哉 ー総合的な学習の時間 愛知教育大学准教授 久野弘幸 ◎目的：言語活動を充実するための方策や指導の工夫などについての知識・方法を得る。			

第3日目

8月6日 (金)	9:00	11:30	12:30	14:00
	全体会 「コース別演習の発表」 ※2日目の演習担当講師 ◎目的：第2日目のコース別演習での成果を発表し、言語活動の充実方策について理解を深める。	昼休み	研究協議 「研修講師となるために」 ※2日目の演習担当講師 ◎目的：各自が本研修の成果等をもとに、研修講師となるための知見を深める。	閉講式

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年6月7日（月）～平成22年6月11日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	220	人	受講者数	225	人	参加率	102.3%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

※ 全体受講定員 880 人、受講者数 925 人、参加率 105.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	190	32	0	0	2	1	225
割合 (%)	84.4	14.2	0.0	0.0	0.9	0.4	
	222	98.7					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ますます役割が大きくなっている道徳教育について、教科調査官の講義や模擬授業まで行った演習を通して具体的に学ばせていただき、たいへん有意義な5日間となりました。本研修で得られた成果を学校で生かすとともに、成果の普及に努め、地域の教育の充実にも役立てればと考えております。 ・新学習指導要領実施に伴い、教科指導の充実が目が向いている状況で、道徳教育の重要性について研修することができた。学校で生き生きと活動する子どもたちを育成するために、道徳の時間や教育活動全体で行う道徳教育の重要なことを確認できた。大変ありがたい内容であった。 ・全国の先生方と交流ができ、他の都道府県の実態や優れた取り組みを知ることができ、大変有意義であった。今後学校に戻り、校内研究を進めていく上で、大いに活用したいと思う。 ・発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳の時間の授業づくり、推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開など、時間をかけじっくりと学ぶ機会となった。 ・5日間の課題研究、演習を通して道徳教育、その推進について全体像を理解する事が出来た。又、全研修を通して小中高等異校種、地域を越えて多くの先生方と交流を深める事ができた。本当に意義のある研修でした。 ・一流の講師の先生方、全国から素晴らしい実践を積まれた先生方との情報交換は有難く、これからの実践に役に立つものばかりでした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を見直した。 ・演習において、小中高合同と高校部会だけでなく、小中高合同の班構成を設け、異校種の情報交換ができるようにした。 ・特別講演として課題協議4「人間としての在り方生き方を考える」を新設した。 ・4日目小中部会について、アンケートを踏まえ、演習時間および模擬授業発表時間を増加した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1（小中高合同）および演習3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直す。 ・事例発表・協議を前半と後半に分け、後半を部会別に行うことで協議を深めやすくする。 ・模擬授業を4日目～5日目の2日間にかけて行う。発表時間を15分増加する。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）
日 程 表

第1日目

6月7日 (月)	10:00	10:30	11:50	12:50	14:40	15:00	17:00
		受付	開講式 文部科学省 初等中等教育局 視学官 三好仁司	オリエン テーシ ョン	昼休 み	課題協議1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	休憩 演習1 「道徳教育推進上の課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達段階に応じた指導内容の重点化について課題をもつ

第2日目

6月8日 (火)	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	15:15	15:30	17:00
	課題協議2 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 【授業づくりの要点1】 東京学芸大学教授 永田繁雄 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める	休憩	課題協議3 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 【授業づくりの要点2】 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解を深める	昼休 み	シンポジウム 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 小学校：川口市立青木中央小学校教諭 井上千春 中学校：川崎市立生田中学校総括教諭 内園貴子 集団活動：熊本市立大江小学校教諭 田口広明 ◎目的：具体的事例を通して、道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	休憩	課題協議4 「人間としての在り方生き方を考える」 児童文学作家 上條さなえ ◎目的：人間としての在り方生き方を見つめなおし、児童生徒とともによりよい生き方を求める姿勢を育む	

第3日目

6月9日 (水)	9:00	11:30	12:30	14:00	14:15	17:00		
	小・中学校部会 演習2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり（体験活動、「心のノート」の生かしも含めて）」 【授業づくりの要点3】 ◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成について理解を深めるとともに、課題とその解決策を探る	休憩	小・中学校部会協議 「「道徳の時間」の充実を図るために」 【授業づくりの要点4】 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀博行 ◎目的：「道徳の時間」について理解を深め、授業改善への視座を得る	休憩	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）とその評価」 ◎目的：魅力的な教材の開発と活用等、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法及び評価の在り方について学ぶ			
高等学校部会	9:00	10:15	10:30	11:30	12:30	14:10	14:30	17:00
	高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 澤田浩一 ◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深める	休憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 広島県立三次高等学校 教諭 森多浩文 ◎目的：具体的事例を通して、高等学校における道徳教育の充実に向けた新たな視点を学ぶとともに、課題をもつ	昼休 み	演習4 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 ＜指導助言者＞ 高1：文京学院大学教授 小泉博明 高3：くらしき作陽大学教授 秋山博正 ◎目的：全体計画案の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習5 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」 演習まとめ		

第4日目

6月10日 (木)	9:00	12:00	13:00	14:00	14:15	17:00
	小・中学校部会 演習6 「子どもの心に響く道徳教育の実践Ⅰ－学習指導案の作成・検討－」 ◎目的：「道徳の時間」における学習指導案作成等に取り組むことを通じて、創意工夫を生かした授業づくりの具体的な在り方学ぶ	休憩	昼休 み	模倣授業・協議 「子どもの心に響く道徳教育の実践Ⅱ－模倣授業の発表・協議－」 ＜指導助言者＞ 第1分科会 高知市立行川中学校長 田邊重任 第2分科会 春日部市教育委員会学校教育専門員 山西 実 第3分科会 (財)総合初等教育研究所室長 馬場喜久雄 第4分科会 前東京都台東区立富士小学校長 池田日佐子 (小中部会) ◎目的：作成した学習指導案等をもとに模倣授業を試み、「道徳の時間」の授業における創意工夫の在り方等について理解を深める (高等学校) ◎目的：小・中学校における「道徳の時間」の授業の実践について理解を深める		
高等学校部会	9:00	11:50	12:50			
	演習7 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 ＜指導助言者＞ 演習4・5同様	休憩	発表・講評			

第5日目

6月11日 (金)	9:00	10:10	10:20	12:00		
	研究協議 「道徳教育の充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀博行 澤田浩一 ◎目的：道徳教育指導者となるための理解を深める	休憩	課題協議5 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀博行 澤田浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式	＜小・中学校部会：演習2・3指導助言者＞ 1班：鴻巣市立鴻巣南小学校長 小淵雄司 2班：茨城大学教育学部附属小学校副校長 飯村久美子 3班：本宮市立本宮第二中学校長 熊坂 洋 4班：大阪市教育委員会総務部主任指導主事 服部敬一 5班：埼玉県教育局生徒指導課指導主事 浅見哲也 6班：羽村市教育委員会指導室指導主事 齋藤賢二 7班：兵庫県教育委員会義務教育課主任指導主事 馬場 勝 8班：甲府市立東中学校長 樋口孝治 9班：石川県教育委員会学校指導課指導主事 日向正志 10班：墨田区教育委員会指導室統括指導主事 月田行俊 11班：久喜市教育委員会指導課指導主事 堀内俊吾 12班：相模原市教育委員会学校教育課指導主事 馬場尚子	

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）北海道・東北ブロック							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年8月9日（月）～平成22年8月11日（水）				3日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	115	人	参加率	※
開催場所	ホテルルイズ（岩手県盛岡市）							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 880 人、受講者数 925 人、参加率 105.1%

※ ブロック別受講定員 660 人、受講者数 700 人、参加率 106.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	86	25	1	0	3	0	115
割合 (%)	74.8	21.7	0.9	0.0	2.6	0.0	
	111	96.5					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・3日間ではありましたが、とても中身の濃い研修をすることが出来ました。この研修でしか聞く事の出来ない情報であったり、他県や異校種の話も参考になるものばかりでした。また、今まで分からないまま過ぎてきたことをしっかりと学ぶ事が出来、2学期からの学級作り、授業作り、そして、道徳推進教師として、自校や町内の学校、管内の先生方に伝えていく中で生かしていきたいと思えます。そして何より、一人でも多くの子ども達が命いっぱい輝けるよう尽力したいと思います。</p> <p>・新指導要領の概要を知り、“道徳教育を要とする”事の意味を理解することが出来たと共に、今後学校全体で取り組む内容や道徳教育推進担当の役割が具体的にイメージできた3日間でした。機会を作って全校職員に伝達し、本校の子ども達のために努めてまいりたいと思っております。</p> <p>・初日、教科調査官のお話の後、演習を重ねたことによって、お話の内容が具体的なものになったり、課題を共有し、協議することができたり、大変有意義だった。事例発表の先生方のお話を聞き、自分の学校で実践できる内容を見出すことができ、展望が持てた。最終日には、総括的なお話をいただき、本研修の意義を改めて認識することが出来た。</p> <p>・道徳教育の大切さを再認識することが出来ました。また、道徳の授業の充実（体験活動、言語活動、発問等）、演習や協議で勉強出来ました。全体計画、年間計画の作成については、教えていただいた点に留意し、先生方と協力して作成していきたいと思えます。講師の先生方の熱意が伝わってくるお話にも刺激を頂きました。</p> <p>・道徳教育が、学校教育の中で非常に重要な役割を持っていることを再認識しました。先生方の共通理解や必要度など、この研修で学んだ事を、どの様に伝え、広めていくかについては、これから整理しなければならないと思えますが、是非、多くの先生方が進んで道徳の授業に取り組んでくれるように促していきたいと思えます。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初日リエンション時間の確保と、遠方から来る受講者に配慮し、初日開始時刻を遅らせ行政説明を課題協議1に含めて実施した。 ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を見直した。 ・演習において、小中合同のみでなく小中高合同の班構成を設け、異校種の情報交換ができるようにした。 ・発表・協議の時間が不足しているとのアンケート意見を踏まえ、小中部会の事例発表、および演習の発表・協議時間を増加した。 ・高校部会の事例発表および演習の時間配分を見直した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1（小中高合同）および演習3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直す。 ・運営面において、演習の進め方を工夫する。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（北海道・東北ブロック）
日 程 表

第1日目

8月9日 (月)	9:30	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00
		受 付	開 講 式	課題協議 1 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	休 休 み	課題協議 2 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	休 憩	演習 1 「道徳教育推進上の課題—発達の段階に応じた指導内容の重点化—」 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

第2日目

8月10日 (火)	小・中学校部会	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:00	14:10	15:50	16:00	17:00
		事例発表 - 協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 青森市立沖館小学校 教諭 奥崎健二 西和賀町立湯田中学校 教諭 栗谷昭博	休 憩	演習 2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり(体験活動、「心の/」の生かし方も含めて)」 【指導助言者】 県南教育事務所指導主事 本田 岳雄 沿岸南部教育事務所指導主事 武藤 美由紀 盛岡教育事務所指導主事 及川 公子 宮古教育事務所主任指導主事 松葉 覚	休 憩	演習 2 発表・協議	休 憩	演習 3 「道徳の授業づくり(魅力的な教材の開発と活用を含めて)とその評価」	休 憩	発表・協議	
		◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実にに向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題、解決策等について知識・方法を得る									
8月10日 (火)	高等学校部会	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45			15:45	16:00	17:00
		高校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 鳴門教育大学教授 兼松儀郎	休 憩	事例発表 - 協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 宮城県名取高等学校 教諭 井上健一	休 憩	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 【指導助言者】 鳴門教育大学教授 兼松儀郎 【助言者】 宮城県名取高等学校教諭 井上健一	休 憩	演習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	休 憩	発表 - 協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」	
◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画案の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る											

第3日目

8月11日 (水)	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30		
	課題協議 3 「心を育てる道徳教育の具体的な展開」 京都市教育委員会指導部長 柴原弘志 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める	休 憩	課題協議 4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 澤田浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉 講 式			

* 日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）関東・甲信越ブロック							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年8月11日（水）～平成22年8月13日（金）				3日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	151	人	参加率	※
開催場所	大宮ソニックシティ（埼玉県さいたま市）							

※	全体受講定員 (全体計画人数)	880人	、	受講者数	925人	、	参加率	105.1%
※	ブロック別 受講定員	660人	、	受講者数	700人	、	参加率	106.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	103	46	0	0	2	0	151
割合 (%)	68.2	30.5	0.0	0.0	1.3	0.0	
	149	98.7					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加している者たちは、ある程度、道徳に対する取組は前向きだと思う。それを学校等で他の教員に広めるために、頭を悩まされていることも事実だと思う。道徳の大切さ、良さを伝えるため、これからも努力していきけるパワーになったと思う。 ・3日間、大変充実した協議内容と演習でした。全体計画の別業もできていないような学校なので、これからこの研修で得たものをもとに作成しようと思います。道徳の授業をととも大切に、学級経営の核にして今までやってきました。さらなる道徳の授業を充実させようという思いで一杯になりました。 ・普段ではなかなか話を聞くことのできない他都県の先生方や講師の方、指導・助言して下さった先生方の話を聞くことができたことが、何より大きな成果だった。道徳についての基本的な考え方や位置付けを再確認できたり、これからの参考になりそうなことがたくさん学べた。自分を中心となって学校へ持ち帰り、子どもたちのために道徳教育をより充実させていきたい。 ・道徳教育の他県の取組状況を知ることができ、また、各校が抱える課題を共有し、検討することができたことが大変有意義であったと感じる大きな点です。また、本県及び他県の熱心な取組をしている先生方に触れ合うことができ、良い影響を受けることができました。この研修を通して得た情報・課題・意識を中心に、自校・自県で基本とし教科の枠を越えて普及・活用に努めていきたいと考えます。 ・他県の多くの道徳実践を知ること、今後の自分が行わなければならない事が少しずつ見えてきたように感じました。時間不足を理由にしないで、これから研修を生かした授業を行っていきたい。 ・道徳教育を推進していく役割を担う者として、今後自校で自分がすべき課題がより明確になりました。演習での他の先生方との協議、そして、講師の先生の講話は大変勉強になり、有意義な研修となりました。本研修で学んだことを、自校での実践に生かしていきたいと思っております。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初日オリエンテーション時間の確保と、遠方から来る受講者に配慮し、初日開始時刻を遅らせ行政説明を課題協議1に含めて実施した。 ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を見直した。 ・演習において、小中合同のみでなく小中高合同の班構成を設け、異校種の情報交換ができるようにした。 ・発表・協議の時間が不足しているとのアンケート意見を踏まえ、小中部会の事例発表、および演習の発表・協議時間を増加した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1（小中高合同）および演習3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直す。 ・運営面において、演習の進め方を工夫する。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（関東・甲信越ブロック）
日 程 表

第1日目

8月11日 (水)	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00
	受 付	開 講 式	課 題 直 協 議 1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	休 休 み	課 題 直 協 議 2 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 香川大学教育学部 教授 七條正典 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める	休 憩	演 習 1 「道徳教育推進上の課題—発達の段階に応じた指導内容の重点化—」 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ

第2日目

8月12日 (木)	小・中学校部会	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:00	14:10	15:50	16:00	17:00
		事 例 発 表 ・ 協 議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 さいたま市立仲町小学校 教諭 中野 緑 甲府市立北東中学校 教諭 滝澤規之	休 憩	演 習 2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり(体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて)」 【指導助言者】 さいたま市立教育委員会主任指導主事 内野多美子 与謝野町立市場小学校長 杉本 淳	休 休 み	演 習 2 発表・協議	休 憩	演 習 3 「道徳の授業づくり(魅力的な教材の開発と活用を含めて)とその評価」	休 憩	発 表 ・ 協 議	
高等学校部会	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	15:45	16:00	17:00			
	高 校 部 会 協 議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文京学院大学 教授 小泉博明	休 憩	事 例 発 表 ・ 協 議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 群馬県立富岡東高等学校 教務主任 木内信夫	休 休 み	演 習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 【指導助言者】 文京学院大学教授 小泉博明 【助言者】 群馬県立富岡東高等学校 教務主任 木内信夫	休 憩	演 習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	休 憩	発 表 ・ 協 議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」		
◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題、解決策等について知識・方法を得る											
◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画案の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る											

第3日目

8月13日 (金)	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30
	課 題 直 協 議 3 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	休 憩	課 題 直 協 議 4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 澤田浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	開 講 式	

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）東海・北陸ブロック							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成22年11月10日（水）～平成22年11月12日（金）				3日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	119	人	参加率	※
開 催 場 所	三重県総合文化センター（三重県津市）							

※ 全体受講定員 880 人、受講者数 925 人、参加率 105.1%
 (全体計画人数)
 ※ ブロック別 660 人、受講者数 700 人、参加率 106.1%
 受講定員

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	80	35	0	0	4	0	119
割合 (%)	67.2	29.4	0.0	0.0	3.4	0.0	
	115	96.6					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・課題協議については、本研修の主旨に沿った、内容の深い協議であった。新学習指導要領に示されている道徳の時間、道徳教育について、事例をあげながらわかりやすく伝えていただいた。演習では、各県各校種の先生方の取り組みが交流され、討議を行なうことで深まりつつあったが、時間が短いため十分に話が深まるまでにはいかなかったように思われる。討議の柱をしっかりと立てることで、焦点をしばった話し合いができればよいと思った。研修講師となるために、多くのプログラムを準備されて、理解を十分に図ることができたと感じている。道徳の授業を行うために、教師としての人間性を高めていくことの必要性をさらに感じた。3日間、ありがとうございました。 ・教職員14年目の未熟な自分にとって、道徳教育の重要性、位置づけ、日本国が期待していることから、すごく勉強になる研修会でした。いろんな先生方（特に課題協議でお話をいただいた先生方）の話で、感動し、教育の可能性、はやく今自分の目の前にいる生徒に実践したい。本校の先生方、地域の先生方に伝えたいと思えました。今回、このような機会をいただき、1人の教職員として幸せに感じていますし、ぜひ石川県に広まっていけばいいと思っています。 ・高校で道徳教育をどのように実施していけばよいのかということの手がかりがつかめました。研修で学んだことを実際の学校現場ですべて実行することはできないかもしれませんが、道徳教育を充実させるために、行動していきたいと思えます。 ・道徳教育全体に関わる理論と実践、また他県との交流ができて、有意義な三日間でした。研修内容の構成が適切であり、講師の先生方が素晴らしく、自分自身の道徳教育に関する資質や能力の向上に直結しました。今後、さらに自分で学びを深め、道徳教育の推進に尽くしたいと思いをもちました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初日リエンション時間の確保と、遠方から来る受講者に配慮し、初日開始時刻を遅らせ行政説明を課題協議1に含めて実施した。 ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を見直した。 ・演習において、小中高合同のみでなく小中高合同の班構成を設け、異校種の情報交換ができるようにした。 ・発表・協議の時間が不足しているとのアンケート意見を踏まえ、小中部会の事例発表、および演習の発表・協議時間を増加した。 ・高校部会の事例発表および演習の時間配分を見直した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1（小中高合同）および演習3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直す。 ・運営面において、演習の進め方を工夫する。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（東海・北陸ブロック）
日 程 表

第1日目

11月10日 (水)	10:00 10:40		12:10		13:10		14:40 15:00		17:00	
	受 付	開 講 式	課題協議 1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	休 休 み	課題協議 2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	休 憩	演習 1 「道徳教育推進上の課題—発達の段階に応じた指導内容の重点化—」 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ			

第2日目

11月11日 (木)	小・中学校部会	9:00 10:20 10:30		12:00		13:00		14:00 14:10		15:50 16:00		17:00	
		事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 四日市市立泊山小学校 教諭 坂崎 直弘 教諭 田代 亜衣	休 憩	演習 2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり(体験活動、「心のノート」の生かし方も含めて)」 【指導助言】演習2（小・中合同部会）、演習3（小・中別部会） 三重県教育委員会指導主事 黒川 一秀 三重県教育委員会指導主事 吉田 陽基	休 憩	演習 2 発表・協議	休 憩	演習 3 「道徳の授業づくり(魅力的な教材の開発と活用を含めて)とその評価」	休 憩	発表・協議			
◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題、解決策等について知識・方法を得る													
11月11日 (木)	高等学校部会	9:00 10:30 10:45		11:45		12:45		15:45 16:00		17:00			
		高校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	休 憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 愛知県立岩津高等学校 教諭 加藤 英樹	休 憩	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」	休 憩	演習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	休 憩	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」			
◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画案の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る													

第3日目

11月12日 (金)	9:00 10:30 10:45		12:15 12:30								
	課題協議 3 「心を育てる道徳教育の具体的な展開」 兵庫教育大学教授 谷田 増幸 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める	休 憩	課題協議 4 「研修講師となるために」 兵庫教育大学教授 谷田 増幸 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	開 講 式							

* 日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）近畿ブロック							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年8月17日（火）～平成22年8月19日（木）				3日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	125	人	参加率	※
開催場所	ガーデンホテルハナヨ（和歌山県田辺市）							

※	全体受講定員 (全体計画人数)	880人	、	受講者数	925人	、	参加率	105.1%
※	ブロック別 受講定員	660人	、	受講者数	700人	、	参加率	106.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	57	65	1	0	2	0	125
割合 (%)	45.6	52.0	0.8	0.0	1.6	0.0	
	122	97.6					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・3日間集中して受講することで、全体像をつかむことができた。指導主事として今後指導や助言等に生かしていきたいと思う。 ・大変有意義な研修会であった。道徳教育について、理念や実践について学ぶことができ、道徳教育の必要性を強く感じた。又、道徳教育について、自分自身の考えを深めることができた。本校では、道徳教育は、ほど遠い存在であるが、教員の意識改革を少しずつ始めたい。近畿ブロックの先生方と情報交換できたことも良かった。 ・道徳教育について総論的にとらえられたこと。（深いものであることが分かりました。）道徳教育の枠組、各教科・領域との関わり、道徳の時間の充実、全ての教育活動を通して進めること、そのための体制づくり等、たくさん学ぶことができ、これからもっともっと勉強していかなければいけないと感じました。また、今回学習したことを足場に学びを進めるとともに、現在の仕事の中で生かしていきたいと思えます。 ・様々なテーマで話を聞けたり、十分な時間をとって協議ができたので、とても有意義な3日間となりました。今回学んだことを学校に持ち帰り、ぜひ実践したいです。そして、教師間で共通の意識を持って道徳に取り組めるよう、しっかり伝えたいと思えます。 ・とても分かり易く説明していただき、とても勉強になりました。グループ協議でも、それぞれの学校の取り組み、その中で子ども達の現状は似ていると感じました。近畿ブロックということで、府県によって環境が違ったり、学校の規模にも違いがありましたが、意見交換ができて、とてもよかったです。 ・道徳教育について、指導要領解説では分からないことがよく分かりました。また、各地区、各校の取り組みが交流でき、自校でも生かせる点がたくさんあることが分かり、今後に生かしていけると思いました。道徳教育の充実が教育活動の充実につながっていくことを意識して日々取り組んでいきます。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初日カエンセッション時間の確保と、遠方から来る受講者に配慮し、初日開始時刻を遅らせ行政説明を課題協議1に含めて実施した。 ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を見直した。 ・演習において、小中高合同のみでなく小中高合同の班構成を設け、異校種の情報交換ができるようにした。 ・発表・協議の時間が不足しているとのアンケート意見を踏まえ、小中部会の事例発表、および演習の発表・協議時間を増加した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1（小中高合同）および演習3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直す。 ・運営面において、演習の進め方を工夫する。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（近畿ブロック）
日 程 表

第1日目

8月17日 (火)	9:30	10:15	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	17:00
	受 付	開 講 式	課 題 協 議 1 「今、求められる道徳教育の充実を 目指して」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 赤堀博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏ま え、道徳教育の現状と課題について 理解するとともに、推進の在り方 について理解を深める	休 休 み	課 題 協 議 2 「体験活動や実践活動を通じた道徳 教育」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした 道徳教育の意義や役割について理解 する	休 憩	演 習 1 「道徳教育推進上の課題—発達の段階に応じた 指導内容の重点化—」 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を 踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ	

第2日目

8 月 18 日 (水)	小・中 学 校 部 会	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:00	14:10	15:50	16:00	17:00	
		事 例 発 表 ・ 協 議 「学校教育全体を通じて行 う道徳教育の実践と課題」 千葉県立鶴沢小学校 教務主任 橋本弘子 紀美野町立上野中学校 教諭 樋上育保	休 憩	演 習 2 「道徳教育推進教師を中心とした協力 ・指導体制の充実と計画づくり(体験活 動、「心のノート」の生かし方も含めて)」	休 休 み	演 習 2 発表・協議	休 憩	演 習 3 「道徳の授業づくり(魅力的な 教材の開発と活用を含めて)と その評価」	休 憩	発 表 ・ 協 議		
		【指導助言者】 海南市立大東小学校長 伊東靖貢 田辺市立稲城小学校長 撫養明美 かつらぎ町立四郷小学校教頭 田中秀和 印南町立印南中学校長 土井淳司										
		◎目的：道徳教育推進のための協力・指導体制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとも に、課題、解決策等について知識・方法を得る										
高 等 学 校 部 会	9:00	10:30	10:45	11:45	12:45	15:45	16:00	17:00				
	高 校 部 会 協 議 「人間としての在り方生き方 に関する教育の展開」 広島県教育委員会 指導主事 播磨寛宗	休 憩	事 例 発 表 ・ 協 議 「人間としての在り方生き方 に関する教育の実践と課題」 香川県立志度高等学校 教頭 高儀雅俊	休 休 み	演 習 2 「学校の教育活動全体を通じ て行う人間としての在り方生 き方に関する教育の展開」	休 憩	演 習 3 「人間としての在り方生き 方に関する教育の各教科等 における具体的な教材研究 ・実践」	休 憩	発 表 ・ 協 議 「高等学校における人間と しての在り方生き方に関す る教育の充実に向けて」			
		【指導助言者】 広島県教育委員会指導主事 播磨寛宗 【助言者】 香川県立志度高等学校教頭 高儀雅俊										
		◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画案の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る										

第3日目

8月19日 (木)	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30
	課 題 協 議 3 「心を育てる道徳教育の具体的 展開」 國學院大學 教授 田沼茂紀 ◎目的：道徳教育全般について、 具体的な理解を深める	休 憩	課 題 協 議 4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 澤田浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師 を育成するために、道徳教育につ いての理解を深め、各自が本研修の成 果等をまとめる	開 講 式	

I 研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）中国・四国ブロック							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年10月25日（月）～平成22年10月27日（水）				3日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	81	人	参加率	※
開催場所	山口県健康づくりセンター（山口県山口市）							

※	全体受講定員 (全体計画人数)	880人	、	受講者数	925人	、	参加率	105.1%
※	ブロック別 受講定員	660人	、	受講者数	700人	、	参加率	106.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	55	24	2	0	0	0	81
割合 (%)	67.9	29.6	2.5	0.0	0.0	0.0	
	79	97.5					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習グループがテーマにより、小のみ、小・中合同等にわけてあり、普段なかなか聞く機会のない高校中学の道徳教育の現状や指導・課題等についてお話がうかがえ、視野を広げる上でも大変よかった。 ・道徳推進教師となったものの、具体的な役割や自校内での働き方についてはよくわかっていないというのが実際のところだった中、様々な学校の取り組みや各先生方の工夫ある実践を学ぶことができ、自分の今後の方向性を考えるきっかけとなった。また、道徳教育に、いかに全校体制で力を入れていくかという点において、本校は教職員集団の意識改革が大変重要だと痛感している。本研修での学習を自分なりに還元し、できることから取り組むことで、推進教師の役割を自分なりに形にしていきたいと感じている。 ・内容が盛りだくさんで充実していました。根本に立ち返り、道徳についてじっくりと考えることができました。ありがとうございました。講師陣が最高でした。このように直接にお話が伺え、とても学びになりました。地域に帰りしっかりと道徳教育の充実に努めます。 ・今まであまり意識せずに行っていた道徳の授業の指導が、本研修を通してはつきりと理論づけられたように思う。講師の先生方が素晴らしい方ばかりで、内容がわかりやすく理解できた。方法も講義・グループ討議等があり、有意義であった。 ・演習のグループの組み合わせを3回とも変えてあったので、色々な学校の様子を知ることができ、大変参考になりました。研修ノートや資料集も冊子にまとめてあったので、今後も活用しやすいです。 ・自分の視野の狭さを痛感しました。他県の取組、そして指導者の方々の話をうかがい、大変勉強になりました。気合を入れて自己研修すると共に、子どもたちをしっかりと育て、学校全体の道徳教育の向上に尽力していきたいと思いました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初日朝エンターテインメント時間の確保と、遠方から来る受講者に配慮し、初日開始時刻を遅らせ行政説明を課題協議1に含めて実施した。 ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を見直した。 ・演習において、小中合同のみでなく小中高合同の班構成を設け、異校種の情報交換ができるようにした。 ・発表・協議の時間が不足しているとのアンケート意見を踏まえ、小中部会の事例発表、および演習の発表・協議時間を増加した。 ・高校部会の事例発表および演習の時間配分を見直した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1（小中高合同）および演習3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直す。 ・運営面において、演習の進め方を工夫する。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（中国・四国ブロック） 日程表

第1日目

10月25日 (月)	9:30	10:00	10:40	12:10	13:10	14:40	15:00	17:00
	受 付	開 講 式	課題直協議 1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、 道徳教育の現状と課題について理解す るとともに、推進の在り方について理解 を深める	休 休 み	課題直協議 2 「心を育てる道徳教育の具体的展開」 東京学芸大学 教授 永田 繁雄 ◎目的：道徳教育全般について、具 体的な理解を深める	休 憩	演習 1 「道徳教育推進上の課題一発達の段階に応じた 指導内容の重点化一」 ※小・中・高合同部会 【指導助言】文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀 博行 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を 踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ	

第2日目

10月26日 (火)	小・中 学校部会	9:00	10:20	10:30	12:00	13:00	14:00	14:10	15:50	16:00	17:00
		受 付	事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行 う道徳教育の実践と課題」 萩市立育英小学校 教諭 池永 智宏 呉市立音戸中学校 教諭 呉田 幹雄	休 憩	演習 2 「道徳教育推進教師を中心とした協力 ・指導体制の充実と計画づくり(体験活 動、「心のノト」の生かし方も含めて)」 ※小・中合同部会 【指導助言】演習2（小・中合同部会）、演習3（小・中別部会） 宇部市立恩田小学校 教頭 田中敬二（小中1部会、小A部会） 平生町教育委員会 指導主事 大塚ゆかり（小中3部会、中A部会） 山陽小野田市教育委員会 指導主事 下瀬昌巳（小中2部会、小B部会） 宇部市教育委員会 指導主事 岡村一利（小中4部会、中B部会）	休 憩	演習 2 発表・協議	休 憩	演習 3 「道徳の授業づくり(魅力的な 教材の開発と活用を含めて)と その評価」 ※小・中別部会	休 憩	演習 3 発表・協議
受 付	高校部会協議 「人間としての在り方生き方に 関する教育の展開」 くらしき作陽大学 教授 秋山 博正	休 憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方 に関する教育の実践と課題」 福岡県立山門高等学校 教諭 南里 加壽子	休 憩	演習 2 「学校の教育活動全体を通じ て行う人間としての在り方生 き方に関する教育の展開」	休 憩	演習 3 「人間としての在り方生き 方に関する教育の各教科等 における具体的な教材研究 ・実践」	休 憩	発表・協議 「高等学校における人間と しての在り方生き方に関す る教育の充実に向けて		
◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画案の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る											

第3日目

10月27日 (水)	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30	
	受 付	課題直協議 3 「体験活動や実践活動を通した 道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かし た道徳教育の意義や役割につい て理解する	休 憩	課題直協議 4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 澤田 浩一 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師 を育成するために、道徳教育につ いての理解を深め、各自が本研修の成 果等をまとめる	閉 講 式	
* 日程等について変更することがあります。						

I 研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）九州ブロック							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等、について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成22年10月25日（月）～平成22年10月27日（水）				3日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	109	人	参加率	※
開 催 場 所	ニューウエルシティ宮崎（宮崎県宮崎市）							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 880 人、受講者数 925 人、参加率 105.1%
 ※ ブロック別受講定員 660 人、受講者数 700 人、参加率 106.1%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	83	25	1	0	0	0	109
割合 (%)	76.1	22.9	0.9	0.0	0.0	0.0	
	108	99.1					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県の道徳教育地域指導者研修に参加していますが、今回の研修で学んだものが、すぐに生かせるものばかりで、参加して良かったという思いでいっぱいです。演習が全て楽しく、たくさんの先生方の実践を知り、たくさんお土産をもって帰ることができます。 ・調査官のお話や他県の先生方の実践を聞く貴重な時間となりました。現場をはなれて、道徳について考え、本校の研究の今後の方向性について、考えるヒントをいただきました。 ・道徳教育推進教師の役割が明確になった。そしてその仕事の重要度も理解できたと思う。講話的なものもあり、実践発表あり、そして各グループでの演習と、いろいろ工夫した研修を考えてくださってありがとうございました。 ・3日間長いと思っていましたが、あっという間でした。私自身に足りないこと、学校全体として取り組んでいかなければならないことが、とてもよくわかりました。道徳の面白さを知ったとともに、道徳って何だろうと深く考えるきっかけになりました。 ・私は、道徳の授業をするのが好きで、その大切さも認識しつつあるつもりでした。今回の研修では、様々な見方から、道徳について知ることができ、自分自身の知識・意識を高めることができました。私はまだまだ未熟なので、グループ討議の際に、多くの実践経験をお持ちの先生方のお話を伺うことができたのは、とてもありがたく思いました。また、講師の先生方の講義も、私の心に届くお話で、感動しました。 ・道徳教育の基本理論を確認することができた。また、他県の実状も知るよい機会となった。さらに、小学校だけでなく、中・高校をみすえた考えをもつことができた。具体的な実践発表もあり、今後の教育活動に生かしていきたいと思った。 ・高等学校において、道徳教育が明確化されたので、今後学校に持ち帰り、現場で生かせるような多くの事例、あるいは考え方・方針の目安等を得ることができ、有意義であったと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初日リベンジ時間確保と、遠方から来る受講者に配慮し、初日開始時刻を遅らせ行政説明を課題協議1に含めて実施した。 ・演習1の事前課題において「発達の段階に応じた指導内容の重点化」にまで協議が至るような項目を見直した。 ・演習において、小中高合同のみでなく小中高合同の班構成を設け、異校種の情報交換ができるようにした。 ・発表・協議の時間が不足しているとのアンケート意見を踏まえ、小中部会の事例発表、および演習の発表・協議時間を増加した。 ・高校部会の事例発表および演習の時間配分を見直した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1（小中高合同）および演習3（小中）においてより協議が深まるよう、事前課題を見直す。 ・運営面において、演習の進め方を工夫する。 ・課題協議（特に「研修講師となるために」）の内容を精選する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）（九州ブロック）
日 程 表

第1日目

10月25日 (月)	10:00 10:40		12:10		13:10		14:40 15:00		17:00
	受 付	開 講 式	課題直協議 1 「今、求められる道徳教育の充実を目指して」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 澤田浩一 ◎目的：学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解するとともに、推進の在り方について理解を深める	休 休 み	課題直協議 2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：特別活動の特質を生かした道徳教育の意義や役割について理解する	休 憩	演習 1 「道徳教育推進上の課題—発達の段階に応じた指導内容の重点化—」 ◎目的：実践事例に学ぶとともに、発達の段階を踏まえた指導内容の重点化について課題をもつ		

第2日目

10月26日 (火)	小・中学校部会	9:00 10:20 10:30		12:00		13:00		14:00 14:10		15:50 16:00		17:00
		事例発表・協議 「学校教育全体を通じて行う道徳教育の実践と課題」 延岡市立北方小学校 指導教諭 木村淳子 長島町立長島中学校 教諭 寛山大樹	休 憩	演習 2 「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導體制の充実と計画づくり(体験活動、「心の/ト」の生かし方も含めて)」 ◎目的：道徳教育推進のための協力・指導體制の構築と全体計画等の作成および、「道徳の時間」の充実に向けた創意工夫ある指導方法や評価の在り方について理解を深めるとともに、課題、解決策等について知識・方法を得る	休 休 み	演習 2 発表・協議	休 憩	演習 3 「道徳の授業づくり(魅力的な教材の開発と活用を含めて)とその評価」	休 憩	発表・協議		
【指導助言】演習2(小・中合同部会)、演習3(小・中別部会) 日向市立大王谷小学校 教頭 島根 直人 宮崎県教育庁学校政策課 指導主事 平野 博康 宮崎県教育研修センター 副主幹 田代 和浩 宮崎県教育情報研修センター 指導主事 杉山 茂												
10月26日 (火)	高等学校部会	9:00 10:30 10:45		11:45		12:45		15:45 16:00		17:00		
		高校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 宮城県小田田農林高等学校 教頭 片岡 実	休 憩	事例発表・協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 兵庫県立神戸北高等学校 教頭 澤田洋一	休 休 み	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」	休 憩	演習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	休 憩	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」		
◎目的：高等学校における道徳教育の在り方について理解を深めるとともに、全体計画案の作成を念頭に置き、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る												

第3日目

10月27日 (水)	9:00 10:30 10:45		12:15 12:30	
	課題直協議 3 「心を育てる道徳教育の具体的な展開」 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 赤堀博行 ◎目的：道徳教育全般について、具体的な理解を深める	休 憩	課題直協議 4 「研修講師となるために」 兵庫教育大学 教授 谷田増幸 ◎目的：各地域で道徳教育推進教師を育成するために、道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉 講 式

* 日程等について変更することがあります。

I 研修概要

研修名	環境教育指導者養成研修（東部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	「国連持続可能な開発のための教育の10年」及び学習指導要領の改訂を踏まえた環境教育を推進する際に留意すべき事項（外部資源の活用の在り方等）について必要な知識等の修得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、本研修内容を踏まえての各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年9月28日（火）～平成22年10月1日（金）				4日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	56	人	参加率	※
開催場所	国立青少年教育振興機構 国立赤城青少年交流の家（群馬県前橋市）							

※ 全体受講定員 110人、受講者数 98人、参加率 89.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	44	11	0	0	1	0	56
割合 (%)	78.6	19.6	0.0	0.0	1.8	0.0	
	55	98.2					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・理論的な面と実践的な面の双方からESDを研修できたことは、今後の自分の仕事に十分に生かせる内容になっていたと考える。 ・ESDについての認識を深めることが出来、受講前よりも自信を持って教職員に説明が出来ると思っています。 ・講師の方々のお話、他県の先生方との交流など、普段お聞きすることができない話を多く聞くことができ、有意義な時間を過ごすことが出来た。 ・今回の山本先生のように学校とNPO連携の可能性や意義について、もっとNPOの側から語ってもらえたらと思った。 ・今までには気付かなかった新たな視点で環境について考える事が出来ました。 ・環境教育を実践する上での迷いが解決出来て、指導者としての責任を感じると共にモチベーションの向上につながった。 ・自己の役割について認識することができ、今後微力ではありますが、地域に貢献していきたいと思えます。 ・高等学校向けのプログラムをもっと増やして欲しいと思えます。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育を通じた地域・社会貢献に関する講義を設定した。 ・3日目に1日かけて行っていた演習を午前はNPO等の関係者による学校種ごとの演習、午後は教育関係者による教科ごとの演習の2つに分けた。 ・これまで特定教科の指定がなかった事前課題で作成する指導計画について、教科「社会」「理科」及び「総合的な学習の時間」で作成することとした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・22年度限りで廃止

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	環境教育指導者養成研修（西部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	「国連持続可能な開発のための教育の10年」及び学習指導要領の改訂を踏まえた環境教育を推進する際に留意すべき事項（外部資源の活用の在り方等）について必要な知識等の修得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、本研修内容を踏まえての各都道府県等における研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年10月19日（火）～平成22年10月22日（金）			4日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	42	人	参加率	※
開催場所	国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家(広島県江田島市)							

※ 全体受講定員 110人、受講者数 98人、参加率 89.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	27	13	0	0	2	0	42
割合 (%)	64.3	31.0	0.0	0.0	4.8	0.0	
	40						
	95.2						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育とESDの関連性や、自然体験活動、そして実際にどのように学校現場で行っていくか、系統的に学ぶことができました。 ・講義、屋外活動などを組み込んだ内容の研修で、プログラムにおいてとても満足するものでした。 ・多くの講師陣を用意していただき、いろいろな視点・角度からあらためて環境教育の今後のあり方の方向性を指指していただきました。 ・今後、本校においてまずできることから始めていき、環境教育についての考え方を広げていきたい。 ・参加者や講師とされた先生の多様な考えに触れ、自分のこれまでの取組を4日間継続してみなおすことができた結果だと思いました。 ・講義では最新の情報を教えていただき、また全国で実施されている取組を知ることによって、自分の知識や感性が高まり、この学習したことを県へ還元できるようにしていきたいと思う。 ・これまで環境教育について全く取り組んでいなかったが、初めて聞く話ばかりで非常に有意義な時間が過ごせた。 ・全体的な目標や内容は理解できたが、スキルUPのための研修がもっと充実していればよかったかと思えます。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育を通じた地域・社会貢献に関する講義を設定した。 ・3日目に1日かけて行っていた演習を午前はNPO等の関係者による学校種ごとの演習、午後は教育関係者による教科ごとの演習の2つに分けた。 ・これまで特定教科の指定がなかった事前課題で作成する指導計画について、教科「社会」「理科」及び「総合的な学習の時間」で作成することとした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・22年度限りで廃止

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研 修 名	生徒指導指導者養成研修						
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ						
研 修 目 的	各都道府県、指定都市及び中核市において生徒指導又は教育相談を担当する指導主事等に対し、全国的かつ緊急に対応が必要ないじめ・不登校等の問題行動や、児童虐待等の生徒指導上の今日的諸課題について、最新の知見や全国的動向、研究成果、対応方策に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の生徒指導又は教育相談を担当する指導主事及び教諭であつて、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者						
開 催 期 日	平成22年6月14日(月)～平成22年6月29日(火)				16日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	123	参加率	111.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	109	14	0	0	0	0	123
割合 (%)	88.6	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	123						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関わる最新の情報、ベースとなる理論等、幅広く勉強させていただき、とても感謝しております。自分自身の今後の教員生活に役立つと共に、必ず復伝等により成果を広めていきたいと考えております。 ・事例研究は大変参考になりました。一人一人の発言を通じて、全国の動静を感じ取ることができる点が素晴らしいと感じます。 ・「不登校」という一つのテーマがあり、それに対して研修ができたのは良かったと思います。 ・たくさん内容・講義があって正直大変でしたが、ここで(国)ないと聞く機会がないだろうと思う講師の方々のお話を聞いたことは大変有意義なことでした。これからじっくり深めたいと思います ・生徒指導の最先端の情報と、日本のそれぞれの第一人者の先生方の講義、全国の志のある先生方とのふれあいや情報交換により生徒指導の理論と実践に関してゆるぎない信念を持つことができました。 ・ずっと現場にいる中、2週間、知識・考え方・思いを何人もの著名な先生方から聴くことが出来、大変勉強になりました。こうやって充電できたことを幸せに思います。明日からまた現場に帰って得たものを放電していきたいと思っています。 ・生徒指導の最新の知見について研修する機会がもてたことに感謝いたします。 ・演習を行ってくださった講義は実践的で大変勉強になった。Q-U、是非実施して、自分の学級経営の型を知り、対策を考えていきたいです。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導提要」に関する講義を新設し、その周知を図った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省からの指導のもとに、喫緊の課題である「自殺予防教育」「児童虐待」の問題についてその講義をプログラムに新たに組み入れる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度生徒指導指導者養成研修日程表

独立行政法人教員研修センター

< 日程と講座内容 >

期	日	曜	8:30	9:30	9:45	12:15	13:30	16:15	17:00
1	6月14日	月	受付 (9:30~9:50)	開講式 (10:00~10:30) 教員研修センター・文部科学省	生徒指導上の 諸問題への対応 (10:45~12:15) 文部科学省初等中等教育局 児童生徒課長 磯谷桂介	特別講演(13:30~15:00) 三味線奏者 杵屋五司郎 日吉静永	オリエンテーション① (15:15~16:15)	班別協議 (打ち合わせ①) (16:30~17:00)	
2	6月15日	火	オリエンテーション②	生徒指導提要の概要説明 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 総括研究官 藤平 敦		生徒指導の在り方 昭和学院短期大学教授 松田素行		班別協議 (打ち合わせ②) (16:30~17:00)	
3	6月16日	水	グループ別協議 (事例協議①)	生徒指導事例研究(1) 1班(小) 奈良教育大学大学院教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一 4班(中) 杉並区立中瀬中学校校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇		生徒指導事例研究(2) 1班(小) 奈良教育大学大学院教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一 4班(中) 杉並区立中瀬中学校校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇			
4	6月17日	木	グループ別協議 (事例協議②)	生徒指導事例研究(3) 1班(小) 奈良教育大学大学院教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一 4班(中) 杉並区立中瀬中学校校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇		生徒指導事例研究(4) 1班(小) 奈良教育大学大学院教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一 4班(中) 杉並区立中瀬中学校校長 藤川 章 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇			
5	6月18日	金	グループ別協議 (事例協議③)	望ましい学級集団づくり 早稲田大学教授 河村茂雄		望ましい学級集団づくり 早稲田大学教授 河村茂雄		グループ別協議 (事例協議④)	
6	6月19日	土							
7	6月20日	日							
8	6月21日	月	オリエンテーション③	生徒指導と心の教育 関西学院大学教授 横山利弘		生徒指導と心の教育 関西学院大学教授 横山利弘		班別協議 (事例協議⑤)	
9	6月22日	火	合同別協議 (課題討議①)	学校不適応児童生徒の課題と対応 東京理科大学教職課程指導室講師 清水井一		児童生徒の心とその課題への対応 文教大学教授 柳生和男		合同別協議 (課題討議②)	
10	6月23日	水	合同別協議 (課題討議③)	児童虐待の理解と対応 大正大学教授 玉井邦夫		情報モラルの理解と対応 NPO青少年メディア研究協会理事長 下田博次		合同別協議 (課題討議④)	
11	6月24日	木	合同別協議 (課題討議⑤)	選択	特別支援教育の理解と生徒指導 FR教育臨床研究所長 花輪敏男 性・薬物に関わる非行への対応 京都大学大学院准教授 木原雅子	選択	不登校児童生徒への指導と課題 開善塾教育相談研究所長 金澤純三 いじめ問題の理解と対応 広島大学大学院教授 栗原慎二	班別協議 (共有協議)	
12	6月25日	金	合同別協議 (課題討議⑥)	生徒指導と法 弁護士 清水幹裕		生徒指導と危機管理 群馬県立女子大学講師 飯野真幸		合同別協議 (課題討議⑦)	
13	6月26日	土							
14	6月27日	日							
15	6月28日	月	オリエンテーション④ 発表準備	研修成果の発表 指導助言 昭和学院短期大学教授 松田素行		指導講評・総括講義1 昭和学院短期大学教授 松田素行		班別協議 (振り返り)	
16	6月29日	火	班別協議・ オリエンテーション⑤	総括講義2 兵庫教育大学大学院教授 新井 肇		閉講式 (11:30~11:50)			

I 研修概要

研 修 名	人権教育指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	本研修では、人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するための必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの人権教育担当者並びにそれに準じる者（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校（園）長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者（人権教育の指導的立場を担う者））							
開 催 期 日	平成22年10月19日（火）～平成22年10月21日（木）				3日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	110	人	受講者数	128	人	参加率	116.4%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	90	36	1	0	1	0	128
割合 (%)	70.3	28.1	0.8	0.0	0.8	0.0	
	126	98.4					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・他県の先生方と触れ合う機会をいただき、さまざまなことを交流することができました。また、人権教育に関して視野を広げ、認識を深め、たくさんのお話を学ぶことができました。大変充実した研修となりました。 ・本研修に参加して、人権教育の大切さを再認識させられました。体験参加型の班による、人権教育充実に向けての成果物づくりは、とても有意義でした。 ・人権教育の指導方法に関する調査研究会委員の話を聞き、また、助言等を得られて得るものが多くあった。 ・人権教育、特に同和教育に関しては、西日本と東日本では認識や取り組みが異なることが改めてわかった。班編成が日本各地になっていて良かった。 ・様々な情報を得ることができた。又、演習でも各々の課題を交流し合う中で新しい視点も持てた。 ・素晴らしい講師の先生方のお話をうかがう時間がもう少しあると良かった。 ・先進校の具体的な取り組みを紹介していただき、私自身、多くの発見があった。また、小・中・高の3つの実践を聞くことで、校種間の連携を考えるヒントをいただいた。 ・単なる成果の発表に終わらず、さらに協議を行なうことで改善していくというプロセスを体験でき、参考になった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義以外の方法（アクティビティ）による人権教育について、受講者が実際に体験することができるような演習の時間を設けた。 ・調査結果などに鑑み、2日目の演習の課題を再構成した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習だけでなく、講義の時間を十分とれるように配慮する。 ・演習等の時間が短いというアンケートの意見を考慮し、研修の開始時間や終了時間を見直し、時間を十分取れるようにする。 ・研修の流れがスムーズになるよう、初日の事例発表についてはコース別演習の課題に対応するような内容の学校等を選定する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

I 研修概要

研修名	キャリア教育指導者養成研修（東部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、キャリア教育の推進のための具体的な手立てについて、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭 及び教諭であって、各地域においてキャリア教育の指導者や研修講師としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年5月31日（月）～平成22年6月4日（金）					5日間		
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	119	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 220 人、受講者数 226 人、参加率 102.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	89	29	0	0	1	0	119
割合 (%)	74.8	24.4	0.0	0.0	0.8	0.0	
	118	99.2					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>小中高が同じグループで演習を行ったり、効果的に演習が盛り込まれていたため、ただ知識だけではなく深く理解が進んだと思った。</p> <p>キャリア教育を行う上で、連携が上手くいっていないということなど課題は十分理解し、出来ることから取り組むこと、その方向性は見えてきた。解決策について、もっとハッキリ具体的に教えて頂きたいという思いがありましたが、ディスカッションによって解消された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の県を他県と比較することで、その特色やよい点、改善すべき点に気付くことができた。 ・今までキャリア教育という概念をあまり意識することなく授業を展開してきたが、今まで取り組んできた授業内容の中にも、キャリア教育の要素をたくさん見出すことができた。今後は、日々の実践の中で今まで以上にキャリア教育を意識し、ゆくゆくは、キャリア教育推進のための原動力的な立場で、努力していきたいと思う。 ・キャリア教育についての知識を得るだけでなく、演習によって、進め方を理解し、実践する力がついたように思う。また、研修で使用したデータを頂くことが出来、実際の講義の中で使うと、より分かり易いものになるようで、大変有難かった。 ・様々なグルーピングを工夫していただいて、よかった。演習などは、チームワークよく取り組めて有意義でした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を推進する上での課題や疑問点を明らかにし、研修で学びたい事項を確認できるような演習を、研修の最初に新設した。 ・発達段階に応じたキャリア教育の展開方策に関する講義を新設した。 ・各学校種段階で行っていた演習の成果発表について、全体で共有化するためにポスターセッション方式を取り入れた。 ・各演習において協議の時間を十分に取れるよう、各コマの時間設定を見直した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズに合わせて、研修の後半2日間をコースに分ける。 ・評価についての演習や講義を充実させる。 ・協議の班分け等、話し合いが円滑に進むように工夫する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 キャリア教育指導者養成研修【東部ブロック】

日 程 表

5月31日 (月)	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
		受 付	開 講 式	演習 1 「キャリア教育推進上の課題」 立教大学特任教授 渡辺 三枝子 ◎目的：各学校段階・各地域において、キャリア教育を推進する上での課題等を明らかにする	昼 休 み	課題協議 1 「キャリア教育の現状と課題」 文部科学省児童生徒課生涯指導調査官 藤田 晃之 ◎目的：キャリア教育が求められている背景とその重要性、実践上での課題などを確認することを通して、本研修の意義について理解する	休 憩	課題協議 2 「キャリア教育の全体計画と評価」 文部科学省児童生徒課生涯指導調査官 藤田 晃之 ◎目的：学校でキャリア教育を進めるために必要な計画作りや体制の構築と評価の在り方について理解する
6月 1日 (火)	9:00	10:15	10:30	12:30	13:30	[休憩]		17:00
	課題協議 3 「地域社会と学校の連携のために」 スクールアドバイザー ネットワーク 理事長 生重 幸恵 ◎目的：地域や企業と学校の連携に当たり、様々な協力の在り方について理解を深める	休 憩	課題協議 4 「各学校段階におけるキャリア教育の推進」 宮城県仙台市立茂庭台小学校教務主任 加藤 徹 徳島県小松島市立立江中学校校長 岡崎 能治 教諭 佐藤 貢 大阪府立松原高等学校長 易 寿也 ◎目的：各学校段階におけるキャリア教育の先進事例から、学校全体で取組を進めるために必要な事柄について理解する	昼 休 み	演習 2 「各学校段階におけるキャリア教育の推進とその改善方策」 (小学校部会) 千葉県四街道市立みそら小学校教頭 反町 京子 宮城県仙台市立茂庭台小学校教務主任 加藤 徹 (中学校部会) 東京都中野区立第九中学校主幹教諭 六反園留美 徳島県小松島市立立江中学校校長 岡崎 能治 教諭 佐藤 貢 (高等学校部会) 東京都立大学附属高等学校副校長 笹 のぶえ 大阪府立松原高等学校長 易 寿也 ◎目的：各学校段階において、キャリア教育を学校全体で取組を進めるために必要な事柄について整理し理解を深めるとともに、課題とその解決策を探る			
6月 2日 (水)	9:00	11:45		12:45	14:15	14:30	17:00	
	演習 3 「各学校段階を通じたキャリア教育の推進と連携の方策について」 上越教育大学准教授 白木 みどり ◎目的：小・中・高が連携・協力し、系統的なキャリア教育を推進するための具体的な方策について理解する	[休憩]	休 憩	課題協議 5 「発達段階に応じたキャリア教育の在り方について」 独立行政法人労働政策研究・研修機構 副主任研究員 下村 英雄 ◎目的：発達段階に応じたキャリア教育の在り方について理解する	休 憩	演習 4 「キャリアカウンセリングの基盤としてのコミュニケーションスキルの向上」 立教大学特任教授 渡辺 三枝子 東京都立町田総合高等学校主任教諭 本城 慎二 キャリアカウンセリング協会特別講師 橋本 幸晴 ◎目的：話す、聞く、観るの3つの立場におけるコミュニケーションスキルを学ぶことを通じて、教員のコミュニケーション能力の重要性について理解を深める		
6月 3日 (木)	9:00	9:50	12:00		13:00	17:00		
	課題協議 6 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 埼玉県ふじみ野市立大井中学校教頭 堀川 博基	演習 5 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 ◎目的：児童生徒の現状や身につけさせたい能力・態度を踏まえた指導計画作りを行うことを通じて、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な手立てを理解する	[休憩]		[休憩]	全体発表・講評 埼玉県ふじみ野市立大井中学校教頭 堀川 博基 文部科学省児童生徒課生涯指導調査官 藤田 晃之		
6月 4日 (金)	9:00	12:00		13:00	15:00	15:15		
	演習 6 「キャリア教育を展開するために」 京都市教育委員会開講小中学校教育企画推進室 室長 初田 幸隆 ◎目的：各地域でキャリア教育を展開するため、本研修成果の活用内容・方法についてまとめる	休 休 み		研究協議 「研修講師となるために」 文部科学省児童生徒課生涯指導調査官 藤田 晃之 立教大学特任教授 渡辺 三枝子 京都市教育委員会開講小中学校教育企画推進室 室長 初田 幸隆 ◎目的：キャリア教育のコーディネーター、研修講師となるため、課題を整理し、キャリア教育に関する理解を深める	閉 講 式			

I 研修概要

研修名	キャリア教育指導者養成研修（西部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育の在り方、キャリア教育の推進のための具体的な手立てについて、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭 及び教諭であって、各地域においてキャリア教育の指導者や研修講師としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年6月28日（月）～平成22年7月2日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	107	人	参加率	※
開催場所	エルおおさか（大阪府大阪市）							

※ 全体受講定員 220 人、受講者数 226 人、参加率 102.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	90	17	0	0	0	0	107
割合 (%)	84.1	15.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	107	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・講座形式よりもグループ演習が多かったが、それが意欲や今後の取り組みにつながれると感じた。 ・地域や校種を越えて、キャリア教育の最新の情報に触れることができた。本研修を受けて、どうやって本県にもち帰り、普及と周知を図るか、努力したいと思う。 ・キャリア教育の基礎的な内容から少し深い内容まで、多様な講師の先生方からご教示頂き大変有意義な5日間となった。 ・キャリア教育の現状や課題を様々な側面から教えていただき、とても参考になった。また、参加者の立場に立った構成で、演習を適切なタイミングに配して受講しやすかった。 ・様々なグルーピングでの演習が設定されており、とてもよかった。 ・特別支援教育コーディネーターでもあり、特別支援学校のキャリア教育について勉強できたことも有意義だった。 ・内容はわかりやすいものでしたが、評価の具体的な内容をもう少し学びたかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を推進する上での課題や疑問点を明らかにし、研修で学びたい事項を確認できるような演習を、研修の最初に新設した。 ・発達段階に応じたキャリア教育の展開方策に関する講義を新設した。 ・各学校種段階で行っていた演習の成果発表について、全体で共有化するためにポスターセッション方式を取り入れた。 ・各演習において協議の時間を十分に取れるよう、各コマの時間設定を見直した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズに合わせ、研修の後半2日間をコースに分ける。 ・評価についての演習や講義を充実させる。 ・協議の班分け等、話し合いが円滑に進むように工夫する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 キャリア教育指導者養成研修【西部ブロック】

日 程 表

6月28日	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	15:00	15:15	17:00
		受 付	開 講 式	演習 1 「キャリア教育推進上の課題」 道手門学院大学教授 三川 俊樹 ◎目的：各学校段階・各地域において、キャリア教育を推進する上での課題等を明らかにする	昼 休 み	課題協議 1 「キャリア教育の現状と課題」 文部科学省児童生徒課生徒指導調査官 藤田 晃之 ◎目的：キャリア教育が求められている背景とその重要性、実践上での課題などを確認することを通して、本研修の意義について理解する		課題協議 2 「キャリア教育の全体計画と評価」 関西大学教授 川崎 友嗣 ◎目的：学校でキャリア教育を進めるために必要な計画作りや体制の構築と評価の在り方について理解する
6月29日	9:00	10:15	10:30	12:30	13:30	[休憩]		17:00
	課題協議 3 「地域社会と学校の連携のために」 スクールアドバイザーネットワーク理事長 生重 幸恵 ◎目的：地域や企業と学校の連携に当たり、様々な協力の在り方について理解を深める		課題協議 4 「各学校段階におけるキャリア教育の推進」 長崎県壱岐市立八幡小学校長 中嶋 邦治 大阪府東大阪市立意岐部中学校首席 福岡 ひろみ 福岡県立城南高等学校主幹教諭 下田 浩一 ◎目的：各学校段階におけるキャリア教育の先進事例から、学校全体で取組を進めるために必要な事柄について理解する	昼 休 み	演習 2 「各学校段階におけるキャリア教育の推進とその改善方策」 (小学校部会) 香川県二豊市立吉津小学校教頭 高橋 恵 長崎県壱岐市立八幡小学校長 中嶋 邦治 (中学校部会) 兵庫県教育委員会義務教育課 指導主事 西田健次郎 大阪府東大阪市立意岐部中学校首席 福岡 ひろみ (高等学校部会) 大分県教育庁高校教育課 指導主事 小池 楠男 福岡県立城南高等学校主幹教諭 下田 浩一 ◎目的：各学校段階において、キャリア教育を学校全体で取組を進めるために必要な事柄について整理し理解を深めるとともに、課題とその解決策を探る			
6月30日	9:00	11:45		12:45	14:15	14:30	17:00	
	演習 3 「各学校段階を通じたキャリア教育の推進と連携の方策について」 上越教育大学准教授 白木 みどり ◎目的：小・中・高が連携・協力し、系統的なキャリア教育を推進するための具体的な方策について理解する	[休憩]		昼 休 み	課題協議 5 「発達段階に応じたキャリア教育の在り方について」 文部科学省児童生徒課生徒指導調査官 藤田 晃之 ◎目的：発達段階に応じたキャリア教育の在り方について理解する	演習 4 「キャリアアカウンセリングの基盤としてのコミュニケーションスキルの向上」 立教大学特任教授 渡辺 三枝子 東京都立町田総合高等学校主任教諭 本城 慎二 高知県立岡豊高等学校教諭 阿野田 由紀 ◎目的：話す、聞く、観るの3つの立場におけるコミュニケーションスキルを学ぶことを通して、教員のコミュニケーション能力の重要性について理解を深める		
7月 1日	9:00	9:50	12:00		13:00	[休憩] 全体発表・講評		
	課題協議 6 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 埼玉県ふじみ野市立大井中学校教頭 堀川 博基 ◎目的：児童生徒の現状や身につけさせたい能力・態度を踏まえた指導計画作りを行うことを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な手立てを理解する	演習 5 「キャリア教育推進のためのプログラム開発」 埼玉県ふじみ野市立大井中学校教頭 堀川 博基 ◎目的：児童生徒の現状や身につけさせたい能力・態度を踏まえた指導計画作りを行うことを通して、キャリア教育推進のためのプログラム開発に必要な手立てを理解する	[休憩]					
7月 2日	9:00	12:00		13:00	15:00		15:15	
	演習 6 「キャリア教育を展開するために」 京都市教育委員会開講小中学校教育企画推進室 室長 初田 幸隆 ◎目的：各地域でキャリア教育を展開するため、本研修成果の活用内容・方法についてまとめる	[休憩]		昼 休 み	研究協議 「研修講師となるために」 文部科学省児童生徒課生徒指導調査官 藤田 晃之 道手門学院大学教授 三川 俊樹 京都市教育委員会開講小中学校教育企画推進室 室長 初田 幸隆 ◎目的：キャリア教育のコーディネーター、研修講師となるため、課題を整理し、キャリア教育に関する理解を深める	閉 講 式		

I 研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（北海道・東北ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導者主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、小学校における英語活動等国際理解活動拠点校及び地域における中核教員研修を受講した教員など、各地域において小学校外国語活動を推進する指導者や研修講師としての活動を予定している者 							
開 催 期 日	平成22年10月6日（水）～平成22年10月8日（金）				3日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	48	人	参加率	※
開 催 場 所	メトロポリタン秋田（秋田県秋田市）							

※ 全体受講定員 220人、受講者数 311人、参加率 141.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	42	2	0	0	4	0	48
割合 (%)	87.5	4.2	0.0	0.0	8.3	0.0	
	44	91.7					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・教育行政関係者と、学校現場の先生方が一緒になって、具体的な課題について考えることができる研修であり、大変有意義な3日間でした。 ・今後、地域において取り組んでいかなければならない課題が明確になった。 ・教諭のみならず、指導主事ともグループを組んだことで、行政的な仕組みもわかり参考になった。 ・事前提出資料をもとに、方策について説明していただいたので、読んだだけでは分からないところまで聞くことができた。 ・授業の流し方を実際に提示して頂いたおかげで、授業に対する具体的イメージをもつことが非常に良かった。 ・「コミュニケーション」という外国語活動の核となる部分についてわかりやすく教えていただき参考になりました。 ・外国語活動は他教科の指導と同じでいいんだということ、やはり学級経営が大切なこと、外国語活動をツールにして学級づくりができることなど多くを学ばせていただいた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズに合わせて受講する演習を選択できるようにした。 ・協議の時間を多くとれるよう、時間の配分を見直した。 ・学校現場での指導経験のある方に講師をお願いした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語の全面施行に伴い生じた課題の解決方策を考えるような内容になるよう、研修全体を見直す。 ・東部と西部の2ブロックでの実施とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修

北海道・東北ブロック（秋田県）日程表

第1日目

10月6日	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	15:30	15:45	17:00
	受付	開講式	<p>課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子</p> <p>◎目的：小学校外国語活動の全体像（外国語活動が求められた背景、意義、地域における課題、国際理解活動等）について理解する。</p>	<p>昼休み</p>	<p>班別演習1 「外国語活動を推進する上での課題」</p> <p>独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤 広幸</p> <p>◎目的：個々の情報の交換により、外国語活動を推進する上での課題を明らかにし、その解決方法を探りながら課題を整理する。</p>	<p>休憩</p>	<p>課題協議2 「外国語活動を円滑に進めるために」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子</p> <p>◎目的：外国語活動を推進する上で生じる様々な課題に対する具体的な解決方法を理解する。</p>	

第2日目

10月7日	9:00	9:10	10:40	10:55	12:25	13:30	15:00	15:15	17:00
	<p>演習1 「外国語活動の授業実践」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤 広幸 岐阜県教育委員会指導主事 北岡 順子 ALT Matthew Hirakawa</p> <p>◎『英語ノート』の様々な活用や担任の指導、T.Tの指導について、個々の課題・状況に役立つ知識・方法を得る。</p>	<p>休憩</p>	<p>演習2 「外国語活動の授業実践」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤 広幸 岐阜県教育委員会指導主事 北岡 順子 ALT Matthew Hirakawa</p> <p>◎『英語ノート』の様々な活用や担任の指導、T.Tの指導について、個々の課題・状況に役立つ知識・方法を得る。</p>	<p>昼休み</p>	<p>課題協議3 「コミュニケーション活動の在り方」</p> <p>北海道教育大学 萬谷 隆一</p> <p>◎目的：外国語活動の目標にあるコミュニケーション能力の素地を養う方法について言語習得理論を踏まえながら、理解を深める。</p>	<p>休憩</p>	<p>事例協議 「授業実践に学ぶ」</p> <p>北海道教育大学 萬谷 隆一 八戸市立市野沢小学校 日向端 聖</p> <p>◎目的：他校での授業の実践を知り、自校の取組に生かす。</p>		

第3日目

10月8日	9:00	9:10	12:00	13:00	14:30	14:40	15:30	15:50
	<p>班別演習2 「具体的な授業実践 班別演習」</p> <p>北海道教育大学 萬谷 隆一 岐阜県教育委員会指導主事 北岡 順子 横浜市教育委員会主任指導主事 鈴木 薫</p> <p>◎目的：実際に英語ノートを利用した授業を行うことで、課題を発見する。</p>	<p>昼休み</p>	<p>班別演習3 「具体的な授業実践 全体会」</p> <p>北海道教育大学 萬谷 隆一 岐阜県教育委員会指導主事 北岡 順子 横浜市教育委員会主任指導主事 鈴木 薫</p> <p>◎目的：優れた実践事例を知ることで、自分の実践を振り返る。</p>	<p>休憩</p>	<p>意見交換、質疑応答 「研修講師となるために」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子 北海道教育大学 萬谷 隆一 岐阜県教育委員会指導主事 北岡 順子 横浜市教育委員会主任指導主事 鈴木 薫</p> <p>◎目的：研修講師となるための知見を深める。</p>	<p>閉講式</p>		

I 研修概要

研修名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導者主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、小学校における英語活動等国際理解活動拠点校及び地域における中核教員研修を受講した教員など、各地域において小学校外国語活動を推進する指導者や研修講師としての活動を予定している者 							
開催期日	平成22年11月10日（水）～平成22年11月12日（金）				3日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	79	人	参加率	※
開催場所	高崎ビューホテル（群馬県高崎市）							

※ 全体受講定員 220 人、受講者数 311 人、参加率 141.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	68	11	0	0	0	0	79
割合 (%)	86.1	13.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	79	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・今回の研修を通して、新たな発見、他地域の先生方との交流、指導方法の仕方、課題への様々な工夫、学習指導要領の意義など、様々なことを学ぶ事が出来た。 ・全体を通してとても有意義でした。自分がやるべきこと、自分に出来る事が明確になり、ここで学んだ事は、是非広げていきたい、広げていかなくては、と感じました。 ・外国語活動を今後どの様に進めていけばいいのか、それをどの様に異校種間で共有し、広げていけばいいのかについて、理解を深めることが出来ました。 ・立場が違う参加者同士の意見交換は新鮮で、視点を変えることもでき、有意義でした。 ・現場で出来ること、行政が積極的に取り組むことを関連付けて分かり易く説明して頂き、何をすべきかという道筋が見えました。 ・理論を基にした授業の必要性を感じました。多少難しい面も有りましたが、講義で学んだ内容を研修会等で参考にしたいと思います。 ・授業を作るヒント、見る視点などについてよく分かった。 ・授業者に対して、意見を言ったり、質問していく際に、どんな心構えが大切となってくるのか分かった。校内で研修を進める際の参考となった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズに合わせて受講する演習を選択できるようにした。 ・協議の時間を多くとれるよう、時間の配分を見直した。 ・学校現場での指導経験のある方に講師をお願いした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語の全面施行に伴い生じた課題の解決方策を考えるような内容になるよう、研修全体を見直す。 ・東部と西部の2ブロックでの実施とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修

関東・甲信越ブロック（群馬県）日程表

第1日目

11月10日	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	15:30	15:45	17:00
	受付	開講式	<p>課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子</p> <p>◎目的：小学校外国語活動の全体像（外国語活動が求められた背景、意義、地域における課題、国際理解活動等）について理解する。</p>	<p>昼休み</p>	<p>班別演習1 「外国語活動を推進する上での課題」</p> <p>独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤 広幸</p> <p>◎目的：個々の情報の交換により、外国語活動を推進する上での課題を明らかにし、その解決方法を探りながら課題を整理する。</p>	<p>休憩</p>	<p>課題協議2 「外国語活動を円滑に進めるために」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子</p> <p>◎目的：外国語活動を推進する上で生じる様々な課題に対する具体的な解決方法を理解する。</p>	

第2日目

11月11日	9:00	9:10	10:40	10:55	12:25	13:30	15:00	15:15	17:00
	<p>演習1 「外国語活動の授業実践」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤広幸 江津市立渡津小学校教諭 加藤君江 ALT Matthew Hirakawa</p> <p>◎『英語ノート』の様々な活用や担任の指導、T.Tの指導について、個々の課題・状況に役立つ知識・方法を得る。</p>	<p>休憩</p>	<p>演習2 「外国語活動の授業実践」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤広幸 江津市立渡津小学校教諭 加藤君江 ALT Matthew Hirakawa</p> <p>◎『英語ノート』の様々な活用や担任の指導、T.Tの指導について、個々の課題・状況に役立つ知識・方法を得る。</p>	<p>昼休み</p>	<p>課題協議3 「コミュニケーション活動の在り方」</p> <p>琉球大学 大城 賢</p> <p>◎目的：外国語活動の目標にあるコミュニケーション能力の素地を養う方法について言語習得理論を踏まえながら、理解を深める。</p>	<p>休憩</p>	<p>事例協議 「授業実践に学ぶ」</p> <p>琉球大学 大城 賢 身延町立身延小学校 小林 努</p> <p>◎目的：他校での授業の実践を知り、自校の取組に生かす。</p>		

第3日目

11月12日	9:00	9:10	12:00	13:00	14:30	14:40	15:30	15:50
	<p>班別演習2 「具体的な授業実践 班別演習」</p> <p>琉球大学 大城 賢 佐賀県教育センター係長 宗 誠 横浜市教育委員会主任指導主事 高橋 秀吉</p> <p>◎目的：実際に英語ノートを利用した授業を行うことで、課題を発見する。</p>	<p>昼休み</p>	<p>班別演習3 「具体的な授業実践 全体会」</p> <p>佐賀県教育センター係長 宗 誠 横浜市教育委員会主任指導主事 高橋 秀吉 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤広幸</p> <p>◎目的：優れた実践事例を知ること、自分の実践を振り返る。</p>	<p>休憩</p>	<p>意見交換、質疑応答 「研修講師となるために」</p> <p>佐賀県教育センター係長 宗 誠 横浜市教育委員会主任指導主事 高橋 秀吉 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤広幸</p> <p>◎目的：研修講師となるための知見を深める。</p>	<p>閉講式</p>		

I 研修概要

研修名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（東海北陸ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導者主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、小学校における英語活動等国際理解活動拠点校及び地域における中核教員研修を受講した教員など、各地域において小学校外国語活動を推進する指導者や研修講師としての活動を予定している者 							
開催期日	平成22年12月1日（水）～平成22年12月3日（金）				3日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	50	人	参加率	※
開催場所	ANA クラウンホテルプラザ金沢（石川県金沢市）							

※ 全体受講定員 220 人、受講者数 311 人、参加率 141.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	43	5	0	0	1	1	50
割合 (%)	86.0	10.0	0.0	0.0	2.0	2.0	
	48	96.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・班別での研修も多く、他県の先生方と意見交換、共同作業ができたことも有意義でした。 ・実践と理論、話し合い、演習がそれぞれ充実していました。 ・具体的な例を挙げて説明していただき大変分かりやすく、外国語活動の目標、評価に対する考え方を具体的に学ぶことができた。 ・他地域の様子がわかり、自校のかかえる課題解決への方策が見えた。 ・先進的取り組みの学校の実践を紹介していただき、将来の外国語活動の姿を見ることができようにも思います。 ・講義をお聞きして納得したと思っても、それを実際の活動にするのは大変難しい事と分かりました。時間が足りなくて少し残念だった。 ・講師の先生方の言葉から、外国語活動をよりよいものとしていくポイントを学ぶことができた。これまでの自分を振り返ることができた。 ・研修に参加する前と後で大きく意識が変わりました。研修講師として今の自分にできることに精一杯取り組んでいきたいと前向きな気持ちをもつことができました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズに合わせて受講する演習を選択できるようにした。 ・協議の時間を多くとれるよう、時間の配分を見直した。 ・学校現場での指導経験のある方に講師をお願いした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語の全面施行に伴い生じた課題の解決方策を考えるような内容になるよう、研修全体を見直す。 ・東部と西部の2ブロックでの実施とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成22年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修

東海・北陸ブロック（石川県）日程表

第1日目

12月1日	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	15:30	15:45	17:00
	受付	開講式	<p>課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子</p> <p>◎目的：小学校外国語活動の全体像（外国語活動が求められた背景、意義、地域における課題、国際理解活動等）について理解する。</p>	<p>休み</p>	<p>班別演習1 「外国語活動を推進する上での課題」</p> <p>独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤 広幸</p> <p>◎目的：個々の情報の交換により、外国語活動を推進する上での課題を明らかにし、その解決方法を探りながら課題を整理する。</p>	<p>休憩</p>	<p>課題協議2 「外国語活動を円滑に進めるために」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子</p> <p>◎目的：外国語活動を推進する上で生じる様々な課題に対する具体的な解決方法を理解する。</p>	

第2日目

12月2日	9:00	9:10	10:40	10:55	12:25	13:30	15:00	15:15	17:00
	<p>演習1 「外国語活動の授業実践」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 江津市立渡津小学校教諭 加藤君江 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤広幸 ALT Joseph Douglas Deal</p> <p>◎『英語ノート』の様々な活用や担任の指導、T.Tの指導について、個々の課題・状況に役立つ知識・方法を得る。</p>	<p>休憩</p>	<p>演習2 「外国語活動の授業実践」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 江津市立渡津小学校教諭 加藤君江 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤広幸 ALT Joseph Douglas Deal</p> <p>◎『英語ノート』の様々な活用や担任の指導、T.Tの指導について、個々の課題・状況に役立つ知識・方法を得る。</p>	<p>休み</p>	<p>課題協議3 「コミュニケーション活動の在り方」</p> <p>北海道教育大学 萬谷 隆一</p> <p>◎目的：外国語活動の目標にあるコミュニケーション能力の素地を養う方法について言語習得理論を踏まえながら、理解を深める。</p>	<p>休憩</p>	<p>事例協議 「授業実践に学ぶ」</p> <p>北海道教育大学 萬谷 隆一 大垣市立中川小学校 高見 美智子</p> <p>◎目的：他校での授業の実践を知り、自校の取組に生かす。</p>		

第3日目

12月3日	9:00	9:10	12:00	13:00	14:30	14:40	15:30	15:50
	<p>班別演習2 「具体的な授業実践 班別演習」</p> <p>北海道教育大学 萬谷 隆一 佐賀県教育センター係長 宗 誠 横浜市教育委員会指導主事 関口 和弘</p> <p>◎目的：実際に英語ノートを利用した授業を行うことで、課題を発見する。</p>	<p>休み</p>	<p>班別演習3 「具体的な授業実践 全体会」</p> <p>北海道教育大学 萬谷 隆一 佐賀県教育センター係長 宗 誠 横浜市教育委員会指導主事 関口 和弘</p> <p>◎目的：優れた実践事例を知ることで、自分の実践を振り返る。</p>	<p>休憩</p>	<p>意見交換、質疑応答 「研修講師となるために」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子 北海道教育大学 萬谷 隆一 佐賀県教育センター係長 宗 誠 横浜市教育委員会指導主事 関口 和弘</p> <p>◎目的：研修講師となるための知見を深める。</p>	<p>閉講式</p>		

I 研修概要

研修名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（近畿四国ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導者主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、小学校における英語活動等国際理解活動拠点校及び地域における中核教員研修を受講した教員など、各地域において小学校外国語活動を推進する指導者や研修講師としての活動を予定している者 							
開催期日	平成22年11月17日（水）～平成22年11月19日（金）				3日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	67	人	参加率	※
開催場所	ホテルグランドパレス徳島（徳島県徳島市）							

※ 全体受講定員 220人、受講者数 311人、参加率 141.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	47	17	1	0	2	0	67
割合 (%)	70.1	25.4	1.5	0.0	3.0	0.0	
	64	95.5					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における外国語活動のねらい、趣旨から実践・運営上のポイント等について理解することができました。特に実践上の課題の改善方策を参加の先生方と協議できたことは大変有意義でした。 ・研修を通して、たくさんのことを学んだだけでなく、自分の取り組みを振り返り、具体的に改善すべき事ややるべき事がわかりました。 ・最新の動き、情報を知れてよかった。 ・他の班の発表を聞き、課題は共通だが、その中に新たに気付いたことも多かった。 ・担任としての役割や、校内体制のあり方、行政サイドとして、それぞれが具体的にどのような努力をしていけばよいのかの基本的な考え方を知ることができた。 ・日頃行っているコミュニケーション活動のあり方を理論的に学ぶことにより、感覚的ではなく、頭できちんと整理ができました。 ・実際の授業を見て、場面ごとに良かった所その利用について協議することによって、即実践につながる学びとなりました。 ・研修講師となるための心がまえをたくさん学ぶことができました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズに合わせて受講する演習を選択できるようにした。 ・協議の時間を多くとれるよう、時間の配分を見直した。 ・学校現場での指導経験のある方に講師をお願いした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語の全面施行に伴い生じた課題の解決方策を考えるような内容になるよう、研修全体を見直す。 ・東部と西部の2ブロックでの実施とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修

近畿・四国ブロック（徳島県）日程表

第1日目

11月17日	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	15:30	15:45	17:00
	受付	開講式	<p>課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子</p> <p>◎目的：小学校外国語活動の全体像（外国語活動が求められた背景、意義、地域における課題、国際理解活動等）について理解する。</p>	<p>昼休み</p>	<p>班別演習1 「外国語活動を推進する上での課題」</p> <p>独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤 広幸</p> <p>◎目的：個々の情報の交換により、外国語活動を推進する上での課題を明らかにし、その解決方法を探りながら課題を整理する。</p>	<p>休憩</p>	<p>課題協議2 「外国語活動を円滑に進めるために」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子</p> <p>◎目的：外国語活動を推進する上で生じる様々な課題に対する具体的な解決方法を理解する。</p>	

第2日目

11月18日	9:00	9:10	10:40	10:55	12:40	13:45	15:15	15:30	17:00
	連絡事項	<p>課題協議3 「コミュニケーション活動の在り方」</p> <p>北海道教育大学 萬谷 隆一</p> <p>◎目的：外国語活動の目標にあるコミュニケーション能力の素地を養う方法について言語習得理論を踏まえながら、理解を深める。</p>	<p>休憩</p>	<p>事例協議 「授業実践に学ぶ」</p> <p>北海道教育大学 萬谷 隆一 高知市立神田小学校 佃 典高</p> <p>◎目的：他校での授業の実践を知り、自校の取組に生かす。</p>	<p>昼休み</p>	<p>演習1 「外国語活動の授業実践」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤広幸 岐阜県教育委員会指導主事 北岡順子 ALT Palsenbarg Melissa</p> <p>◎『英語ノート』の様々な活用や担任の指導、T Tの指導について、個々の課題・状況に役立つ知識・方法を得る。</p>	<p>休憩</p>	<p>演習2 「外国語活動の授業実践」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山木綿子 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤広幸 岐阜県教育委員会指導主事 北岡順子 ALT Palsenbarg Melissa</p> <p>◎『英語ノート』の様々な活用や担任の指導、T Tの指導について、個々の課題・状況に役立つ知識・方法を得る。</p>	

第3日目

11月19日	9:00	9:10	12:00	13:00	14:30	14:40	15:30	15:50
	連絡事項	<p>班別演習2 「具体的な授業実践 班別演習」</p> <p>佐賀県教育センター係長 宗 誠 岐阜県教育委員会指導主事 北岡 順子 横浜市教育委員会主任指導主事 鈴木 薫</p> <p>◎目的：実際に英語ノートを利用した授業を行うことで、課題を発見する。</p>	<p>昼休み</p>	<p>班別演習3 「具体的な授業実践 全体会」</p> <p>佐賀県教育センター係長 宗 誠 岐阜県教育委員会指導主事 北岡 順子 横浜市教育委員会主任指導主事 鈴木 薫</p> <p>◎目的：優れた実践事例を知ること、自分の実践を振り返る。</p>	<p>休憩</p>	<p>意見交換、質疑応答 「研修講師となるために」</p> <p>佐賀県教育センター係長 宗 誠 岐阜県教育委員会指導主事 北岡 順子 横浜市教育委員会主任指導主事 鈴木 薫</p> <p>◎目的：研修講師となるための知見を深める。</p>	<p>閉講式</p>	

I 研修概要

研修名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（中国九州ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導者主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、小学校における英語活動等国際理解活動拠点校及び地域における中核教員研修を受講した教員など、各地域において小学校外国語活動を推進する指導者や研修講師としての活動を予定している者 							
開催期日	平成22年10月27日（水）～平成22年10月29日（金）				3日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	67	人	参加率	※
開催場所	セントヒル長崎（長崎県長崎市）							

※ 全体受講定員 220人、受講者数 311人、参加率 141.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	57	7	0	0	2	1	67
割合 (%)	85.1	10.4	0.0	0.0	3.0	1.5	
	64	95.5					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・理論から実践、そして指導助言のポイントまで折り込まれたプログラム構成と充実した内容で短期間の研修ながら大変有意義なものであった。 ・1日目、2日目の研修内容を、3日目の演習時に振り返り、生かしているか考えることができました。また、どのような視点で授業をみるのかも学ぶことができました。ストーリー性のある研修で、とても有意義な3日間を過ごすことができました。 ・指導者になるためには、背景や意義を正しく理解するだけでなく、具体的に伝えられるようにならないといけないと感じました。 ・日頃、このような討議の場が少ないため、情報交換及び一緒に解決方法を探ることを行い、課題の共有とアイデアを頂けたことがよかった。 ・指導者として現場の不安感・負担感を軽減させるような具体的な方向性を示すことが大切であり、これからの仕事に生かしていきたいと思えます。 ・研修の内容を生かして活動内容を考えることができたことと、協同して授業を作る体験ができた。また、小グループごとの発表、講評の流れなど運営面でも参考になった。 ・演習ではプログラムを作るだけでなく、実践をどのように整理してプレゼン(説明)すると良いのかという点についても勉強になる所がたくさんありました。 ・日頃の研修会での指導が無意識で行っていること、見落としていることについて指導いただけたのでよかった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズに合わせて受講する演習を選択できるようにした。 ・協議の時間を多くとれるよう、時間の配分を見直した。 ・学校現場での指導経験のある方に講師をお願いした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語の全面施行に伴い生じた課題の解決方策を考えるような内容になるよう、研修全体を見直す。 ・東部と西部の2ブロックでの実施とする。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修

中国・九州ブロック（長崎県）日程表

第1日目

10月27日	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	15:30	15:45	17:00
	受付	開講式	<p>課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子</p> <p>◎目的：小学校外国語活動の全体像（外国語活動が求められた背景、意義、地域における課題、国際理解活動等）について理解する。</p>	<p>昼休み</p>	<p>班別演習1 「外国語活動を推進する上での課題」</p> <p>独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤 広幸</p> <p>◎目的：個々の情報の交換により、外国語活動を推進する上での課題を明らかにし、その解決方法を探りながら課題を整理する。</p>	<p>休憩</p>	<p>課題協議2 「外国語活動を円滑に進めるために」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子</p> <p>◎目的：外国語活動を推進する上で生じる様々な課題に対する具体的な解決方法を理解する。</p>	

第2日目

10月28日	9:00	9:10	10:40	10:55	12:25	13:30	15:00	15:15	17:00
	<p>演習1 「外国語活動の授業実践」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤 広幸 岐阜県教育委員会指導主事 北岡 順子 ALT Matthew Hirakawa</p> <p>◎『英語ノート』の様々な活用や担任の指導、T.Tの指導について、個々の課題・状況に役立つ知識・方法を得る。</p>	<p>休憩</p>	<p>演習2 「外国語活動の授業実践」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子 独立行政法人教員研修センター主任指導主事 佐藤 広幸 岐阜県教育委員会指導主事 北岡 順子 ALT Matthew Hirakawa</p> <p>◎『英語ノート』の様々な活用や担任の指導、T.Tの指導について、個々の課題・状況に役立つ知識・方法を得る。</p>	<p>昼休み</p>	<p>課題協議3 「コミュニケーション活動の在り方」</p> <p>北海道教育大学 萬谷 隆一</p> <p>◎目的：外国語活動の目標にあるコミュニケーション能力の素地を養う方法について言語習得理論を踏まえながら、理解を深める。</p>	<p>休憩</p>	<p>事例協議 「授業実践に学ぶ」</p> <p>北海道教育大学 萬谷 隆一 宮古島市立平良第一小学校 平良 優</p> <p>◎目的：他校での授業の実践を知り、自校の取組に生かす。</p>		

第3日目

10月29日	9:00	9:10	12:00	13:00	14:30	14:40	15:30	15:50
	<p>班別演習2 「具体的な授業実践 班別演習」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子 北海道教育大学 萬谷 隆一 佐賀県教育センター係長 宗 誠</p> <p>◎目的：実際に英語ノートを利用した授業を行うことで、課題を発見する。</p>	<p>昼休み</p>	<p>班別演習3 「具体的な授業実践 全体会」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子 北海道教育大学 萬谷 隆一 佐賀県教育センター係長 宗 誠</p> <p>◎目的：優れた実践事例を知ることで、自分の実践を振り返る。</p>	<p>休憩</p>	<p>意見交換、質疑応答 「研修講師となるために」</p> <p>文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子 北海道教育大学 萬谷 隆一 佐賀県教育センター係長 宗 誠</p> <p>◎目的：研修講師となるための知見を深める。</p>	<p>閉講式</p>		

I 研修概要

研修名	外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)						
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研修目的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手(ALT)に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。						
受講対象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJETプログラムに招致した外国語指導助手(ALT)						
開催期日	(4月期) 平成22年4月15日(木)				1日間		
	(A日程) 平成22年7月26日(月)～平成22年7月27日(火)				2日間		
	(B日程) 平成22年8月2日(月)～平成22年8月3日(火)				2日間		
	(第2次) 平成22年8月26日(木)				1日間		
受講人数	計画人数	4月期	1,500人	受講者数	20人	参加率	—
		A日程			651人		—
		B日程			801人		—
		第2次			47人		—
		計			1,500人		計
開催場所	4月期=ルポール麹町(東京都千代田区) A日程、B日程、第2次=京王プラザホテル(東京都新宿区)						

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義 なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	62	95	49	21	0	1292	1519
割合(%)	4.1	6.3	3.2	1.4	0.0	85.1	
	157	10.3					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 日本の教育制度について理解することができ、価値のある内容であった。 これからALTとしてどのように進んでいけばよいかを示唆してくれるものであった。 日本人の英語教師の話を直接聞くことにより、彼らがALTに何を期待しているのか、また、チームティーチングにおけるALTの役割は何かを知ることができた。 JETのALT経験者の話はとても役立つものであり、どのように努力してどのような成果をあげたかについて具体的に知ることができた。 基調講演はとてもドライなものであり、あまり得るものがなかった。 聞きたい話があったのであるが、部屋が混雑していて後ろのほうに座っていたのであまり聞こえなかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 文部科学省と連携を図って講師を選定した。 パネルプレゼンテーションを工夫し、管理職・ALT・英語担当者の講師にそれぞれの立場から講義をしてもらった。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本での生活をよりよくするための講義ばかりではなく、英語指導そのものに関する講義やチームティーチングの在り方についての講義を増やす。 パネルプレゼンテーションの中に、小学校経験者のプレゼンテーションも入れる。 部屋が狭くて聞きたい講義が聴けないという状況をなくす。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度外国語指導助手研修（来日直後オリエンテーション4月期）

日 程

平成22年4月15日（木）

会場：ルポール麴町

開 会			
中国ALT		オセアニアALT	
13:00～ 13:30	【行政説明】 ○「日本の学校教育の特色と外国語教育の現状」 ○「外国語指導助手の役割とチーム・ティーチングの基本的な考え方」 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 向後 秀明	13:00～ 13:30	【基調講演】 ○「日本における外国語教育」 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 平木 裕
13:40～ 15:30	【講義】 ○「日本における中国語教育の現状」 神奈川県立横浜緑園総合高等学校 教諭 潮田 康之 ○「先輩ALTからの体験談・指導助言」 埼玉県立和光国際高等学校 ALT 燕 偉	13:40～ 14:30	【プレゼンテーション】 ○「成功できるALT：教室内外でのあり方」 元鳥取県ALT Steve Woerner ○「Yes, together we can! 生徒、ALTそしてJTEの協調」 愛知県立千種高等学校 教諭 城山 良子
		14:40～ 15:45	【講義】 ○チームティーチングと効果的な授業計画（教材の創造的な使い方と言語活動の計画） 北海道旭川北高等学校 教諭 松井 徹朗 北海高等学校 ALT Peter Goosselink
15:40～ 16:10	○取りまとめ団別ミーティング	15:55～ 16:55	○TOAプレゼンテーション
16:20～ 17:30	○国別ミーティング	17:00～ 17:30	○取りまとめ団体別ミーティング

平成22年度来日直後オリエンテーション A日程、B日程

A日程	B日程	時間	内容	
7月26日(月)	8月2日(月)	9:00 - 10:00	県別ミーティング ※出席確認・配置先確認、取りまとめ団体別ミーティングの案内	
		10:00 - 11:00	開会式・JETプログラムに関する重要事項の説明	
		11:00 - 12:00	講演	
		12:00 - 13:15	昼食	
		ALT分科会		
		13:15 - 13:45	文部科学省 基調講演 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 平木 裕 (A日程) 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 向後 秀明 (B日程)	
		13:45 - 14:45	文部科学省プレゼンテーション 愛知県立千種高等学校 教諭 城山 良子 (A日程) 遠軽町教育委員会 ALT Daly Simon (A日程) 岐阜県立東濃実業高等学校 教諭 亀谷 みゆき (B日程) 沖縄県立那覇高校 ALT Brown Laura (B日程) 大垣市立中川小学校 校長 高田 大嗣	
		15:00 - 15:45 16:00 - 16:45	文部科学省分科会(小学校訪問) 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 直山 木綿子 京都市教育委員会学校指導課 PA Matthew Hirakawa	
		17:00 - 17:45	CLAIR分科会 AJET分科会	
		12:00 - 13:15 15:15 - 18:00	AJETインフォメーション	
18:30 - 20:00	夕食会			
7月27日(火)	8月3日(火)	09:00 - 10:30	パネルディスカッション	
		10:45 - 11:35	文部科学省分科会 ○チームティーチングと効果的な授業計画 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 直山 木綿子 京都市教育委員会学校指導課 PA Matthew Hirakawa 高岡市立芳野中学校 教諭 豊原 正貴 高岡市立芳野中学校 ALT Kerrigan Paula 横浜市立富士見中学校 教諭 西村 秀之 北九州市企教中学校 教諭 佐野 志津香 北九州市教育委員会 ALT Amelia Hagen 山梨県立都留高校 教諭 小宮 麻里 (A日程) 山梨県立都留高校 ALT Tamari Hedani (A日程) 山梨県立韮崎高校 教諭 岡 由理 (B日程) 山梨県立韮崎高校 ALT Myriah Heddens (B日程) 北海道旭川北高等学校 教諭 松井 徹朗 北海高等学校 ALT Peter Goosselink 神奈川県立横浜国際高等学校 教諭 鈴木 典子 (A日程)	
		11:35 - 12:50	昼食	
		12:50 - 13:40	文部科学省分科会 ○教材の創造的な使い方と言語活動の計画 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 直山 木綿子 京都市教育委員会学校指導課 PA Matthew Hirakawa 高岡市立芳野中学校 教諭 豊原 正貴 高岡市立芳野中学校 ALT Kerrigan Paula 横浜市立富士見中学校 教諭 西村 秀之 北九州市企教中学校 教諭 佐野 志津香 北九州市教育委員会 ALT Amelia Hagen 山梨県立都留高校 教諭 小宮 麻里 (A日程) 山梨県立都留高校 ALT Tamari Hedani (A日程) 山梨県立韮崎高校 教諭 岡 由理 (B日程) 山梨県立韮崎高校 ALT Myriah Heddens (B日程) 北海道旭川北高等学校 教諭 松井 徹朗 北海高等学校 ALT Peter Goosselink 神奈川県立横浜国際高等学校 教諭 鈴木 典子 (A日程)	
		13:55 - 14:45	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング	
		15:00 - 15:50	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング	
		16:05 - 16:55	CLAIR分科会及び取りまとめ団体別ミーティング	
		17:45 - 20:00	取団への出発準備	

平成22年度来日直後オリエンテーション 第2次日程

日付	時間	内容
8月26日(木)	9:30 - 9:45	開会式
	9:45 - 10:20	CLAIR情報提供・AJET紹介
	10:30 - 11:30	基調講演
	11:30 - 12:30	昼食
	12:30 - 14:00	全体会
	ALT分科会	
	14:10 - 14:55	文部科学省 基調講演 文部科学省初等中等教育局国際教育課 教科調査官 向後 秀明
	14:55 - 15:05	休憩
	15:05 - 15:55	文部科学省分科会 ○チームティーチングと効果的な授業計画 多治見市立多治見中学校 教諭 尾石 光正 岐阜県立岐阜総合学園高等学校 ALT O' Donnell, Nicholas
	15:55 - 16:05	休憩
	16:05 - 16:55	文部科学省分科会 ○教材の創造的な使い方と言語活動の計画 多治見市立多治見中学校 教諭 尾石 光正 岐阜県立岐阜総合学園高等学校 ALT O' Donnell, Nicholas
	17:10 - 17:40	都道府県別ミーティング
	18:30 - 20:00	夕食会

I 研修概要

研修名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【管理者用コース】							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入態勢を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入体制の整備、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各地域・学校において本研修の成果を活用できる者。							
開催期日	平成22年7月26日（月）～平成22年7月27日（火）				2日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	53	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 110人、受講者数 146人、参加率 132.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義 なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	39	14	0	0	0	0	53
割合 (%)	73.6	26.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	53	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>・2日間の研修で多くの方々のお話を聞いたり交流したりする中で、学ぶべき点がたくさんありました。限られた時間の設定の中で盛りだくさんの内容だったのが、もったいないくらいです。職場に戻り、今回の研修を生かしていきたいと思えます。</p> <p>・何が大切か、必要なことは何か、様々な視点から考える事が出来た。</p> <p>・異文化を理解し互いに認め合っていくことは、教師と児童生徒、児童生徒同士の関係が大切だという認識が出来た。</p> <p>・全国からの先生方の課題が聞け、各校の実態での取り組み等、より具体的な話が大変興味深かったです。講師の先生方の思いが良く伝わってきました。参加する前より参加後の気持ちが豊かに変わってきました。</p> <p>・JSL教育の中心として活躍されている先生方の生の声を聞き、人柄に触れられたことは管理者としての重責と実行力を自省するのに十分であった。学んだ事を多くの人と共有していきたい。</p> <p>・講師の先生方にとって、全てを伝え切れなかったという（時間の制約による）消化不良気味な部分を感じられた。内容を絞ってお一人お一人の話をしっかりと聞かせていただくのと同時に、もっと質疑の時間が欲しかった。</p> <p>・班別学習の時間が多かったのですが、個人的には2日目はJSLカリキュラムを学ぶ講座の方へ行きたかったです。2日しか研修期間が取れませんでしたので、なるべく最新のスキルや考え方を学ぶ時間が多く欲しかったです。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師同士の事前打合せを実施した。 ・管理者でも日本語指導の経験が少ない受講者が多いため、現場ではどのような実践をしているのか知るための講義を設けた。 ・課題協議では、管理者としての果たすべき役割や責任を明確に自覚することができるようにするため、経験のある実践者の講義を実施した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション及び行政説明の時間を十分確保する。 ・課題協議の中で、移民受入れの理念、出入国管理、外国人登録、不就学への対応について入れる。 ・文部科学省のホームページの活用のしかたについての講義を入れる。（「かすたねっと」等） ・日本語能力の測定方法（JSLバンドスケール以外）についての講義を入れる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修

日 程 表

第1日目

7月26日 (月)	9:30	10:00	10:40	12:00	13:00	14:20	14:30	16:00	16:10	17:00	
	開講式・説明		開講式・説明	昼食	昼食	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
「外国人児童生徒教育の現状と課題」		「外国人児童生徒教育の現状と課題」		「外国人児童生徒の言語・文化的背景と日本語教育」		「日本語能力の把握と日本語指導」		「日本語能力の把握と日本語指導」		「情報交換による課題の整理」	
国立大学法人東京学芸大学 教授 吉谷 武志		国立大学法人東京学芸大学 教授 吉谷 武志		国立大学法人信州大学 准教授 徳井 厚子		早稲田大学 教授 川上 郁雄		早稲田大学 教授 川上 郁雄		早稲田大学 教授 川上 郁雄	
◎目的：外国人児童生徒教育における受入体制についての課題や、児童生徒への心理的側面からの支援の在り方等について理解を深める。		◎目的：外国人児童生徒教育における受入体制についての課題や、児童生徒への心理的側面からの支援の在り方等について理解を深める。		◎目的：文化的背景が異なることで生ずる教育上の課題や発達途中にある子どもたちにとって「日本語を学習する」ことが持つ意味を考える。		◎目的：日本語能力の測定方法とその結果を踏まえた指導方法を考える。		◎目的：日本語能力の測定方法とその結果を踏まえた指導方法を考える。		◎班別に情報交換を行うことで、2日目の研修に備える。	

第2日目

7月27日 (火)	9:00	9:10	10:50	11:05	12:10	13:20	14:20	14:30	15:20	15:35	16:35	16:50	
	管理用コース		管理用コース		管理用コース		管理用コース		管理用コース		管理用コース		
「外国人児童生徒教育の先進的な取り組み～教育・支援体制における連携と協働～」		「外国人児童生徒等受入体制1」		「外国人児童生徒等受入体制2」		「外国人児童生徒等受入体制2」		「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」		「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」		「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」	
愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一 太田市立九合小学校 校長 金村 長本 美濃加茂市教育委員会 主事 佐伯 好洋		愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一 太田市立九合小学校 校長 金村 長本 美濃加茂市教育委員会 主事 佐伯 好洋		愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一 太田市立九合小学校 校長 金村 長本 美濃加茂市教育委員会 主事 佐伯 好洋		愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一 太田市立九合小学校 校長 金村 長本 美濃加茂市教育委員会 主事 佐伯 好洋		愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一 太田市立九合小学校 校長 金村 長本 美濃加茂市教育委員会 主事 佐伯 好洋		愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一 太田市立九合小学校 校長 金村 長本 美濃加茂市教育委員会 主事 佐伯 好洋		愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一 太田市立九合小学校 校長 金村 長本 美濃加茂市教育委員会 主事 佐伯 好洋	
◎目的：外国人児童生徒の受入れについて、先進的な地域の取組について理解を深める。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	
日本語指導者同コース共通		日本語指導者同コース共通		日本語指導者同コース共通		日本語指導者同コース共通		日本語指導者同コース共通		日本語指導者同コース共通		日本語指導者同コース共通	
「学校における日本語教育プログラム～日本語初期指導から教科指導まで～」		「JSLカリキュラムの基本的な考え方（小学校編と中学校編）」		「JSLカリキュラムの基本的な考え方（小学校編と中学校編）」		「JSLカリキュラムの基本的な考え方（小学校編と中学校編）」		「JSLカリキュラムの基本的な考え方（小学校編と中学校編）」		「JSLカリキュラムの基本的な考え方（小学校編と中学校編）」		「JSLカリキュラムの基本的な考え方（小学校編と中学校編）」	
京都教育大学 准教授 浜田 麻里		国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	
◎目的：日本語指導における課題について解決への糸口を探る。		◎目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、使い方について理解を深める。		◎目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、使い方について理解を深める。		◎目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、使い方について理解を深める。		◎目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、使い方について理解を深める。		◎目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、使い方について理解を深める。		◎目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、使い方について理解を深める。	
事例協議		事例協議		事例協議		事例協議		事例協議		事例協議		事例協議	
「日本語指導の実践事例」		「日本語指導の実践事例」		「日本語指導の実践事例」		「日本語指導の実践事例」		「日本語指導の実践事例」		「日本語指導の実践事例」		「日本語指導の実践事例」	
港区立弁小学校 教諭 花島 健司		港区立弁小学校 教諭 花島 健司		港区立弁小学校 教諭 花島 健司		港区立弁小学校 教諭 花島 健司		港区立弁小学校 教諭 花島 健司		港区立弁小学校 教諭 花島 健司		港区立弁小学校 教諭 花島 健司	
◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践について、教材の在り方や工夫について考える。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践について、教材の在り方や工夫について考える。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践について、教材の在り方や工夫について考える。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践について、教材の在り方や工夫について考える。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践について、教材の在り方や工夫について考える。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践について、教材の在り方や工夫について考える。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践について、教材の在り方や工夫について考える。	

第3日目

7月28日 (水)	9:00	9:10	10:40	10:55	12:00	13:10	14:20	14:30	15:20	15:35	16:35	16:50	
	日本語初期指導コース		日本語初期指導コース		日本語初期指導コース		日本語初期指導コース		日本語初期指導コース		日本語初期指導コース		
「日本語初期指導の留意点」		「日本語初期指導の実践1」		「日本語初期指導の実践2」		「日本語初期指導の実践2」		「日本語初期指導の実践2」		「日本語初期指導の実践2」		「日本語初期指導の実践2」	
早稲田大学 教授 池上 摩希子		早稲田大学 教授 池上 摩希子		早稲田大学 教授 池上 摩希子		早稲田大学 教授 池上 摩希子		早稲田大学 教授 池上 摩希子		早稲田大学 教授 池上 摩希子		早稲田大学 教授 池上 摩希子	
◎目的：来日直後の児童生徒に日本語指導を行う際に、工夫すべき点等、より実践的な手法について理解を深める。		◎目的：日本語初期指導についての情報交換及び課題を共有し、授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。		◎目的：日本語初期指導についての情報交換及び課題を共有し、授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。		◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成し、模擬授業等を行うことを通じて、日本語初期指導について理解を深める。		◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成し、模擬授業等を行うことを通じて、日本語初期指導について理解を深める。		◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成し、模擬授業等を行うことを通じて、日本語初期指導について理解を深める。		◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成し、模擬授業等を行うことを通じて、日本語初期指導について理解を深める。	
教科指導実践コース		教科指導実践コース		教科指導実践コース		教科指導実践コース		教科指導実践コース		教科指導実践コース		教科指導実践コース	
「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」		「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」		「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」		「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」		「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」		「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」		「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」	
京都府立新田小学校 教諭 今澤 佛 (国語小) 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 (国語中) 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生 (算数) 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)	
◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。		◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。		◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。		◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。		◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。		◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。		◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手立てや支援を考える。	
事例協議		事例協議		事例協議		事例協議		事例協議		事例協議		事例協議	
「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」		「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」		「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」		「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」		「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」		「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」		「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」	
研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)	
◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導法を体得する。		◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導法を体得する。		◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導法を体得する。		◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導法を体得する。		◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導法を体得する。		◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導法を体得する。		◎目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導法を体得する。	

第4日目

7月29日 (木)	9:00	9:15	12:30	13:40	14:40	15:00	
	日本語指導者同コース共通		日本語指導者同コース共通		日本語指導者同コース共通		
「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」		「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」		「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」		「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」	
国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ	
◎目的：班別に情報交換を行うことで、2日目の研修に備える。		◎目的：班別に情報交換を行うことで、2日目の研修に備える。		◎目的：班別に情報交換を行うことで、2日目の研修に備える。		◎目的：班別に情報交換を行うことで、2日目の研修に備える。	
事例協議		事例協議		事例協議		事例協議	
「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」		「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」		「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」		「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」	
研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)		研究員 大菅 佐紀子 (国語小) 教諭 今澤 佛 (国語小) 教諭 佐々木 稔 (国語中) 教諭 前田 年生 (算数) 教諭 近田 由紀子 (社会)	
◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。		◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。		◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。		◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。	

I 研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【日本語指導者用コース】					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入態勢を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入体制の整備、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。					
受 講 対 象	・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者。 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各地域・学校において本研修の成果を活用できる者。					
開 催 期 日	平成22年7月26日（月）～平成22年7月29日（木）				4日間	
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	93	人
				参加率	※	
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

※ 全体受講定員（全体計画人数） 110人、 受講者数 146人、 参加率 132.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義 なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	65	26	0	0	2	0	93
割合 (%)	69.9	28.0	0.0	0.0	2.2	0.0	
	91	97.8					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・異校種の方と交流できたことで、より今の目の前の子ども達を理解することが出来ると思います。また、きちんと自身が背景や方法を学ぶことで、子どもへの指導に還元することが出来ます。もっと勉強、実践したいと思います。 ・J S Lについて学べることが良かったと思います。J S Lをこの研修に参加していない方々についても学べる機会があるといいなと思います。また、今回の研修で教えていただいたことは入口かと思しますのでそれらを生かしたいです。全国の先生方と知り合え、交流ができたこと、グループワークが出来たことが宝です。 ・仲間と共に活動することで、教育に対する姿勢、仲間、連帯感、授業の大切さ、教育の力という熱いものを学びました。我が校は、国際教室が誕生して18年の歴史があり公開研究もしたことがある学校ですので、システム、教材、教室環境が整っていますが、新たに「明日から取り組みたいもの」を幾つか見つけました。その強い動機を与えて下さったことに感謝申し上げます。 ・学ぶ内容に意義を持たせること、それが次に何につながるのかを意識させることがとても大切だと思った。これは外国人児童だけでなく、普段の通常学級でも生かしたいと思った。 ・新学期から外国人児童と関わるようになり、関わり方や学習の進め方に大いに不安や心配を抱えていました。研修をさせていただき、どれもこれも皆役に立つことばかりで、この夏休みに早速教材や教具を制作せねばと思いを新たにもしました。また、意図的にグループ作りをして頂き、担当者同士が互いの悩みを話して、解決の方法を考えたり指導案作りをしたりし、中身の濃い時間を過ごすことが出来ました。講師陣の先生方にも恵まれ、丁寧に御指導頂いたことが心に残りました。 ・有意義ではあったが、校種を考えて実施していただきたい

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初日の講義に日本語能力の測定について入れた。 ・自主教材紹介の時間を拡張した。 ・講義の重複がないようにした。 ・講師の事前打合せを実施した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション及び行政説明の時間を十分確保する。 ・講義の中で、移民受入れに対する理念、出入国管理、外国人登録、不就学について入れる。 ・文部科学省ホームページ（かすたねっと等）の活用について講義を入れる。 ・日本語能力の測定方法（J S Lバンドスケール以外）の講義を入れる。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修

日 程 表

第1日目

7月26日 (月)	9:30	10:00	10:40	12:00	13:00	14:20	14:30	16:00	16:10	17:00	
	開講式・行		開講式・行	昼食	昼食	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
受付		開講式・行		開講式・行		開講式・行		開講式・行		開講式・行	
講		講		講		講		講		講	
式・行		式・行		式・行		式・行		式・行		式・行	
政		政		政		政		政		政	
説		説		説		説		説		説	
明		明		明		明		明		明	
講義協賛1 「外国人児童生徒教育の現状と課題」 国立大学法人東京学芸大学 教授 吉谷 武志		講義協賛2 「外国人児童生徒の言語・文化的背景と日本語教育」 国立大学法人信州大学 准教授 徳井 厚子		講義協賛3 「日本語能力の把握と日本語指導」 早稲田大学 教授 川上 郁雄		講義協賛4 「外国人児童生徒教育の現状と課題」 国立大学法人東京学芸大学 教授 吉谷 武志		講義協賛5 「外国人児童生徒の言語・文化的背景と日本語教育」 国立大学法人信州大学 准教授 徳井 厚子		講義協賛6 「日本語能力の把握と日本語指導」 早稲田大学 教授 川上 郁雄	
◎目的：外国人児童生徒教育における受入体制についての課題や、児童生徒への心理的側面からの支援の在り方等について理解を深める。		◎目的：外国人児童生徒教育における受入体制についての課題や、児童生徒への心理的側面からの支援の在り方等について理解を深める。		◎目的：外国人児童生徒教育における受入体制についての課題や、児童生徒への心理的側面からの支援の在り方等について理解を深める。		◎目的：外国人児童生徒教育における受入体制についての課題や、児童生徒への心理的側面からの支援の在り方等について理解を深める。		◎目的：外国人児童生徒教育における受入体制についての課題や、児童生徒への心理的側面からの支援の在り方等について理解を深める。		◎目的：外国人児童生徒教育における受入体制についての課題や、児童生徒への心理的側面からの支援の在り方等について理解を深める。	

第2日目

7月27日 (火)	9:00	9:10	10:50	11:05	12:10	13:20	14:20	14:30	15:20	15:35	16:35	16:50	
	管理活用コース		管理活用コース		管理活用コース		管理活用コース		管理活用コース		管理活用コース		
事例協議 「外国人児童生徒教育の先進的な取り組み～教育・支援体制における連携と協働～」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一 太田市立九合小学校 校長 金村 長本 美濃加茂市教育委員会 主事 佐伯 好洋		事例協議 「外国人児童生徒等受入体制1」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一 太田市立九合小学校 校長 金村 長本 美濃加茂市教育委員会 主事 佐伯 好洋		事例協議 「外国人児童生徒等受入体制2」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一 太田市立九合小学校 校長 金村 長本 美濃加茂市教育委員会 主事 佐伯 好洋		事例協議 「外国人児童生徒等受入体制3」 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次 四日市市立笹川東小学校 校長 小井 誠一 太田市立九合小学校 校長 金村 長本 美濃加茂市教育委員会 主事 佐伯 好洋		事例協議 「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次		事例協議 「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次		事例協議 「外国人児童生徒教育における管理者としての役割」 鈴鹿市教育委員会 教育長 水井 健次	
◎目的：外国人児童生徒の受入れについて、先進的な地域の取組について理解を深める。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。		◎目的：外国人児童生徒等の受入れ体制について情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	
日本語指導者同コース共通 10:55 11:10		日本語指導者同コース共通 10:55 11:10		日本語指導者同コース共通 10:55 11:10		日本語指導者同コース共通 10:55 11:10		日本語指導者同コース共通 10:55 11:10		日本語指導者同コース共通 10:55 11:10		日本語指導者同コース共通 10:55 11:10	
課題協議4 「学校における日本語教育プログラム～日本語初期指導から教科指導まで～」 京都教育大学 准教授 浜田 麻里		課題協議5-1 「JSLカリキュラムの基本的な考え方（小学校編と中学校編）」 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		課題協議5-2 「JSLカリキュラムの基本的な考え方（小学校編と中学校編）」 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		事例協議 「日本語指導の実践事例」 港区立弁小学校 教諭 花島 健司 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子 北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子		事例協議 「日本語指導の実践事例」 港区立弁小学校 教諭 花島 健司 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子 北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子		事例協議 「日本語指導の実践事例」 港区立弁小学校 教諭 花島 健司 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子 北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子		事例協議 「日本語指導の実践事例」 港区立弁小学校 教諭 花島 健司 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子 北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子	
◎目的：日本語指導における課題について解決への糸口を探る。		◎目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、使い方について理解を深める。		◎目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、使い方について理解を深める。		◎目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、使い方について理解を深める。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践事例から、日本語指導の効果的にて、教材の在り方や工夫について考える。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践事例から、日本語指導の効果的にて、教材の在り方や工夫について考える。		◎目的：初期指導やJSLカリキュラムに則った日本語指導の先進的な実践事例から、日本語指導の効果的にて、教材の在り方や工夫について考える。	

第3日目

7月28日 (水)	9:00	9:10	10:40	10:55	12:00	13:10	17:00
	日本語初期指導コース		日本語初期指導コース		日本語初期指導コース		日本語初期指導コース
課題協議7 「日本語初期指導の留意点」 早稲田大学 教授 池上 摩希子		課題協議8 「日本語初期指導の実践1」 早稲田大学 教授 池上 摩希子 港区立弁小学校 教諭 花島 健司 北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子		課題協議9 「日本語初期指導の実践2」 早稲田大学 教授 池上 摩希子 港区立弁小学校 教諭 花島 健司 北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子		課題協議10 「日本語初期指導の実践3」 早稲田大学 教授 池上 摩希子 港区立弁小学校 教諭 花島 健司 北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子	
◎目的：来日直後の児童生徒に日本語指導を行う際に、工夫すべき点等、より実践的な手法について理解を深める。		◎目的：日本語初期指導についての情報交換及び課題を共有し、授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。		◎目的：日本語初期指導についての情報交換及び課題を共有し、授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。		◎目的：日本語初期指導に関する指導案を作成し、模擬授業等を行うことを通じて、日本語初期指導について理解を深める。	
教科指導実践コース		教科指導実践コース		教科指導実践コース		教科指導実践コース	
課題協議2 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）1」 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子（国語小） 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛（国語小） 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔（国語中） 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生（算数） 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子（社会）		課題協議3 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）2」 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子（国語小） 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛（国語小） 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔（国語中） 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生（算数） 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子（社会）		課題協議4 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）3」 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子（国語小） 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛（国語小） 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔（国語中） 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生（算数） 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子（社会）		課題協議5 「JSLカリキュラムの実践（教科志向型の指導案作成）4」 京都市総合教育センター 研究員 大菅 佐紀子（国語小） 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛（国語小） 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔（国語中） 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生（算数） 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子（社会）	
◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。		◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。		◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。		◎目的：教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSLカリキュラムの授業計画作成時に必要となる具体的な手だてや支援を考える。	

第4日目

7月29日 (木)	9:00	9:15	12:30	13:40	14:40	15:00	
	日本語指導者同コース共通		日本語指導者同コース共通		日本語指導者同コース共通		
課題協議4 「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」 ポスターセッション 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 港区立弁小学校 教諭 花島 健司 北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子		課題協議6 「研修を生かした日本語指導の充実を図る方策」 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ		課題協議7 「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」 ポスターセッション 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 港区立弁小学校 教諭 花島 健司 北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子		課題協議8 「日本語指導の実践～初期指導と教科志向型の授業～」 ポスターセッション 国立大学法人東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ 港区立弁小学校 教諭 花島 健司 北区立稲付中学校 教諭 小川 郁子 甲府市立新田小学校 教諭 今澤 佛 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 芦屋市立浜風小学校 教諭 前田 年生 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子	
◎目的：別班演習での成果を発表し合うことで、初期指導の授業およびJSLカリキュラムに則った授業についての理解を深める。		◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。		◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。		◎目的：日本語指導に関する研修成果を活用するための方策について理解を深める。	

I 研修概要

研 修 名	子育て支援指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	認定こども園、幼稚園等において子育て支援を推進するため、子育て支援の実施方法、子育て相談に関する手法等について必要な知識を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の企画・立案や各園への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 地方公共団体において認定こども園等の指導・助言を行う者。 認定こども園、幼稚園、保育所の教職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 							
開 催 期 日	平成22年7月7日（水）～平成22年7月9日（金）			3日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	60	人	受講者数	50	人	参加率	83.3%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	34	15	0	0	1	0	50
割合 (%)	68.0	30.0	0.0	0.0	2.0	0.0	
	49						
	98.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援に関して、知識も技能もなく困惑していたので、各都道府県の様子が分かり中身の濃い講義・演習でこれから更に勉強する方向が分かった。これからの業務の中でいかしたい。特に演習3は、やや大変であったが、協議の中で方策を立てることができ、意義のある研修方法である。3日間、全ての内容が自分にとって役に立つものであると思う。参加してよかった。ありがとうございました。 全ての協議・演習の内容が大変重要なものばかりで、とても意義深かったです。また、様々な地域の方々を知ることができ、他県の施策や実状をお聞きすることができ、講義以外の面でも充実していました。 子育て支援というテーマについて、様々な視点から考え直すことが出来よかった。幼保一元化というタイムリーな点についても学ぶことができた。 子育て支援は、単なるサービスではなく、親子共に育つことが大切であることが再認識されて良かった。引き続き、質の高い保育を求めていこうと思い、力を頂いた。やれることを具体的に1つずつ実践してみます。 それぞれの立場で研修したことで、いろんな視点から「子育て支援」が見えてきたように感じます。ただ、県から指導主事・現場の職員が一名ずつ受講することで、この事を持ち帰ってのつながりが、より深くなるのではと思いました。 子育て支援の難しさ、支援に必要な技法の幅広さを知ることが出来、課題の多さから取り組みに一層の努力が必要なことが分かった。講師として現場にどの様に伝えていくか考えるヒントが得られた。 子育て支援を指導・支援する立場として、今回の様な研修はとても有意義です。他都市の情報や国の情報も得られることも魅力です。仲間（ネットワーク）が出来たことも大変有意義でした。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修期間を3日間に短縮したことで内容が盛りだくさんになっていたため、初日の講義・演習を事例発表に絞った。 講義内容の精選を行い、家庭との連携、特に保護者との連携の観点から、子どもの発達を踏まえた子育て支援の在り方について理解を深めることを目的とした講義を設置した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 22年度限りで廃止

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 子育て支援指導者養成研修 日程表

	10:00	10:30	11:00	12:15	13:15	15:05	15:20	17:00
7月7日(水)		受付	開講式 オリエンテーション	課題協議1 「幼児教育を取り巻く状況と子育て支援の展開」 文部科学省初等中等教育局 幼児教育課子育て支援指導官 坂下 裕一 ◎目的:子育て支援の現状と課題について把握するとともに、今後の展開について理解する	昼休 ・ 食憩	事例発表・協議 「子育て支援事業の内容と展開方法」 高知県教育委員会幼保支援課 課長 門田 登志和 認定こども園 春野乳幼児保育園 園長 西岡 百合 ◎目的:具体的な取組事例を通して、幼稚園、保育所等で実施している子育て支援や関係機関との連携方策等について理解を深める	休 憩	演習1 「子育て支援に関する取組状況」 ◎目的:各地域における子育て支援の取組について情報を得るとともに、現状と課題を把握する

	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	17:00
7月8日(木)	受付	課題協議2 「民間から学ぶ子育て支援」 芸術教育研究所 所長 多田 千尋 ◎目的:民間で行われている子育て支援の実例から視野を広め、新たな視点を学ぶ	休 憩	課題協議3 「子どもの発達と子育て支援—保護者との連携を中心に—」 東京学芸大学 教授 岩立 京子 ◎目的:家庭との連携、特に保護者との連携の観点から、子どもの発達を踏まえた子育て支援の在り方について理解を深める	昼休 ・ 食憩	講義・演習2 「子育て相談とその手法」 東京学芸大学 教授 岩立 京子 (指導助言者) 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所 本蔵 達矢 ◎目的:子育て支援事業における相談事業の重要性を認識し、相談による支援の在り方について学ぶ

	9:00	12:00	13:00	15:00
7月9日(金)	受付	演習3 「課題を踏まえた子育て支援の充実を図る方策」 文部科学省初等中等教育局 幼児教育課子育て支援指導官 坂下 裕一 ◎目的:子育て支援の推進および充実を図るための手法等について学ぶ	昼休 ・ 食憩	課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 幼児教育課子育て支援指導官 坂下 裕一 ◎目的:子育て支援を推進するための方策について理解を深めるとともに、研修講師となるための課題を整理する

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（東部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	<p>子どもたちの体力水準が全体として低下していることや運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向などの指摘を踏まえ、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動を通して体を動かす楽しさや心地よさを味わわせることにより、運動意欲を高めるなどの取り組みが求められている。</p> <p>そのため、本研修においては、様々な動きの習得に関わる指導や運動の苦手な子どもに対する指導の手だてなど発達段階のまとまりや校種の接続を踏まえ、子どもの体力向上に資する指導法についての指導者として必要な知識や技術の習得を図ることとする。</p> <p>また、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることとする。</p>							
受 講 対 象	<p>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。</p> <p>・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教諭等であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。</p>							
開 催 期 日	平成22年5月25日（火）～平成22年5月28日（金）				4日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	280	人	参加率	※
開 催 場 所	神奈川県立音楽堂（神奈川県横浜市）他							

※ 全体受講定員 830人、受講者数 803人、参加率 96.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義						
人数 (人)	218	45	0	0	12	5	280	
割合 (%)	77.9	16.1	0.0	0.0	4.3	1.8		
	263	93.9						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を具現化するための具体的な活動が、今回の研修を通して確認できたことは有意義だった。研修前より指導内容の明確化を意識できるようになった気がする。 ・グループの中でいろいろな意見を出し合いながら話し合いを進めることができた。できない子への支援をもっと知りたかった。 ・教材に対する考え方、具体的な事例を示していただき、即実践に使うことができる内容だった。また、授業中だけでなく、単元の構想を立てる場合の考え方、留意点なども講習していただき、今後にとっても役立つものであった。 ・「研修講師となるために」により、研修を実施する側という意識であらためて考えることで、考えを深めたり、整理したりできた。 ・たくさんの事例の提示や資料、講演で改めて自分がやらなければならないことを再認識することができました。今回の研修を受けて、学んだことを伝えていける機会を大切にしていきたいと思う。 ・表現運動に対して苦手意識をもっていましたが、心を解放して踊る楽しさを体験することができてよかった。自分自身が、まずはできるようになることが子どもたちへの指導に必ず生きるものと思う。新要領の目指す方向性も教えていただき、とても勉強になった。 ・初めて経験する指導方法や具体的内容が多数あり、大変勉強になった。指導要領と日常の教育活動を関連づける考え方を今まであまり考えることがなかった。他県の先生方との交流は新鮮さがあった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動全体における取組や家庭・地域社会との連携について、受講者間において、特徴的な取組事例の共通理解を図り、年間指導計画等への活用を検討する時間を設定した。 (特に女子児童生徒等運動を苦手とする児童生徒への指導の工夫について) ・各部会においてそれぞれ検討された取組や論点について共通理解を図るため、最終日の全体会で各部会による発表を行った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中高を見通した体力向上の取組を図るため、校種の連携を意識した部会の構成へ見直す。 ・児童・生徒の発達段階に応じて事前課題として作成する単元計画構造図について、班別協議の時間を十分に確保するとともに研修後の効果的な活用を図れるよう配慮する。 ・引き続き子どもへの運動の楽しさ・面白さなど、学習指導を通じて運動意欲の向上が図られるよう更に研修内容を検討する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 子どもの体力向上指導者養成研修 日程 (東部ブロック)

			12:00	12:30	12:50	13:00		14:00		17:00	
5月25日					受 付	開 講 式	休 憩	全体会	部会別演習		
								「子どもの体力向上を 図るための指導者の役割」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	研究協議 「体力向上に向けた取組の工夫について」 ・女子児童生徒等に対する運動の習慣化の工夫		

	9:00		10:30		12:00		13:00		14:30		17:00
5月26日	部会別演習				昼 休	食 憩	部会別演習				
	「体ほぐし運動の趣旨を 生かした学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「体ほぐし運動の趣旨を 生かした学習指導の在り方②」 (演習・協議)				「体力を高めるために体を動かす 意識を持たせる学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「体力を高めるために体を動かす 意識を持たせる学習指導の在り方②」 (演習・協議)		

	9:00		10:30		12:00		13:00		14:30		17:00
5月27日	部会別演習				昼 休	食 憩	部会別演習				
	「運動の意欲を高めるための 学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「運動の意欲を高めるための 学習指導の在り方②」 (演習・協議)				「指導と評価の一体化に向けた 学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「指導と評価の一体化に向けた 学習指導の在り方②」 (演習・協議)		

	9:00		10:30		12:00		13:00		15:00
5月28日	部会別演習				昼 休	食 憩	全体会		閉 講 式
	「研修講師となるために①」 (演習・協議)		「研修講師となるために②」 (演習・協議)				「体力の向上に向けた取組の工夫について」 ・部会別発表及び学校の教育活動 全体で体力向上に取組むための 工夫の検討等		

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（中部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	<p>子どもたちの体力水準が全体として低下していることや運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向などの指摘を踏まえ、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動を通して体を動かす楽しさや心地よさを味わわせることにより、運動意欲を高めるなどの取り組みが求められている。</p> <p>そのため、本研修においては、様々な動きの習得に関わる指導や運動の苦手な子どもに対する指導の手だてなど発達段階のまとまりや校種の接続を踏まえ、子どもの体力向上に資する指導法についての指導者として必要な知識や技術の習得を図ることとする。</p> <p>また、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることとする。</p>							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教諭等であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 							
開 催 期 日	平成22年 5月18日（火）～平成22年 5月21日（金）			4日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	276	人	参加率	※
開 催 場 所	富山県教育文化会館（富山県富山市）他							

※ 全体受講定員 830人、受講者数 803人、参加率 96.7%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	199	62	1	0	12	2	276
割合 (%)	72.1	22.5	0.4	0.0	4.3	0.7	
	261						
	94.6						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・「苦手な子が笑顔になるように」するためにも、「できる、わかる、楽しむ」といったキーワードが大切であることが分かった。また、いつ、どこで、どの様に教えていくのかを実態や狙いに合わせ、単元を通して授業を構成し、1時間の授業を展開していく力を身につけていきたい。 ・一日一日が大変充実した内容で有意義だった。理論と実技を一体化させて教えていただいたことで、今回の学習指導要領の改訂の意図や改訂の内容を実際に現場での指導においてどう反映させていけばよいのか実例を通して学ぶことが出来た。地域に戻り受講者各々が学び得たことを伝え広めていくことは、とても意義のあることだと思う。 ・実技の伝達にとどまらず、学習指導要領の活用、学習の組み立て方のヒント等、幅広く生かせる内容だったと思う。またその観点がぶれない講師の指導に感謝したい。 ・初日の全体講義は、短時間だったが指導要領改訂のポイントについては理解できた。部会別協議につながる内容ではあったが、もう少し具体的な内容にまでふれて欲しかった。 ・体育の授業から学校教育活動全体そして家庭や地域と連携し、運動の楽しさやそれを伝えるための方策を共有をすることが大切であると感じた。 ・幼い頃から体育が苦手だったが、今回表現運動に参加し、動くことが楽しいと初めて感じる事が出来た。このような体験を普通の授業で積み重ねれば、動くことを好きな子が増えると思う。一人でも多くの子どもが楽しく取り組めるよう、普通の授業で生かしていきたいと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動全体における取組や家庭・地域社会との連携について、受講者間において、特徴的な取組事例の共通理解を図り、年間指導計画等への活用を検討する時間を設定した。 (特に女子児童生徒等運動を苦手とする児童生徒への指導の工夫について) ・各部会においてそれぞれ検討された取組や論点について共通理解を図るため、最終日の全体会で各部会による発表を行った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中高を見通した体力向上の取組を図るため、校種の連携を意識した部会の構成へ見直す。 ・児童・生徒の発達段階に応じて事前課題として作成する単元計画構造図について、班別協議の時間を十分に確保するとともに研修後の効果的な活用を図れるよう配慮する。 ・引き続き子どもへの運動の楽しさ・面白さなど、学習指導を通じて運動意欲の向上が図られるよう更に研修内容を検討する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 子どもの体力向上指導者養成研修 日程 (中部ブロック)

	12:00 12:30 12:50 13:00				14:00		17:00
5月18日			受 付	開 講 式	休 憩	全 体 会	部 会 別 演 習
						「子どもの体力向上を図るための指導者の役割」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	研究協議 「体力向上に向けた取組の工夫について」 ・女子児童生徒等に対する運動の習慣化の工夫
	9:00	10:30	12:00	13:00		14:30	17:00
5月19日	部 会 別 演 習		昼 休	食 憩	部 会 別 演 習		
	「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方②」 (演習・協議)			「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」 (演習・協議)	
	9:00	10:30	12:00	13:00		14:30	17:00
5月20日	部 会 別 演 習		昼 休	食 憩	部 会 別 演 習		
	「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方②」 (演習・協議)			「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」 (演習・協議)	
	9:00	10:30	12:00	13:00		15:00	
5月21日	部 会 別 演 習		昼 休	食 憩	全 体 会	閉 講 式	
	「研修講師となるために①」 (演習・協議)	「研修講師となるために②」 (演習・協議)			「体力の向上に向けた取組の工夫について」 ・部会別発表及び学校の教育活動全体で体力向上に取り組むための工夫の検討等		

I 研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（西部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	<p>子どもたちの体力水準が全体として低下していることや運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向などの指摘を踏まえ、各学校においては、体育の授業をはじめとした学校教育活動を通して体を動かす楽しさや心地よさを味わわせることにより、運動意欲を高めるなどの取り組みが求められている。</p> <p>そのため、本研修においては、様々な動きの習得に関わる指導や運動の苦手な子どもに対する指導の手だてなど発達段階のまとめりや校種の接続を踏まえ、子どもの体力向上に資する指導法についての指導者として必要な知識や技術の習得を図ることとする。</p> <p>また、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることとする。</p>							
受 講 対 象	<p>・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者。</p> <p>・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教諭等であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。</p>							
開 催 期 日	平成22年5月11日（火）～平成22年5月14日（金）			4日間				
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	247	人	参加率	※
開 催 場 所	高知新阪急ホテル（高知県高知市）他							

※ 全体受講定員 830 人、受講者数 803 人、参加率 96.7%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	199	41	0	0	4	3	247
割合 (%)	80.6	16.6	0.0	0.0	1.6	1.2	
	240						
	97.2						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・最新の研究の動向や他県の取り組み等を知ることが出来、とても有意義な研修を行うことが出来た。学んだことの先には、子ども達の喜びや体力向上があるので、しっかりと伝達（県内の他小学校、自校）しなければという使命感に似た気持ちになった。 ・研修前は自分にできるだろうかという不安と、表現ダンスの授業の作り方・指導のコツ・狙いなど得られるという期待の2つを持って参加した。できなくても表現することの楽しさを十分味わうことができ、表現・ダンスの苦手な子への指導の工夫をしていきたいという気持ちがわいてきた。 ・指導方法について学ぶことが出来た。また、今日の教育的課題をしっかりと把握することが出来た。今後は、この研修で学んだ事を県に持ち帰り伝達することは勿論であるが、指導方法や単元構造図について日頃の教育実践を積み重ね、工夫するなど子どもの実態にあったものにしていきたい。 ・指導者として、子ども達に「体育は楽しい」という事を、もっともっと伝えていかないといけないと思い、色々な言葉がけや活動を勉強しようと思った。 ・各県の状況（教育課程、生徒の実態、地域との連携、体育行事や授業の進め方等）が様々で驚くことも多かったが、課題を共有できたことが大変良かった。 ・各県の先生方と交流ができ、なおかつ講義や演習で非常に多くのことを学ぶことができた。また、今後の授業づくりについて改めて考え、更に研修を深めていかないといけないことを実感する契機となり、本当に良かったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動全体における取組や家庭・地域社会との連携について、受講者間において、特徴的な取組事例の共通理解を図り、年間指導計画等への活用を検討する時間を設定した。 (特に女子児童生徒等運動を苦手とする児童生徒への指導の工夫について) ・各部会においてそれぞれ検討された取組や論点について共通理解を図るため、最終日の全体会で各部会による発表を行った。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中高を見通した体力向上の取組を図るため、校種の連携を意識した部会の構成へ見直す。 ・児童・生徒の発達段階に応じて事前課題として作成する単元計画構造図について、班別協議の時間を十分に確保するとともに研修後の効果的な活用を図れるよう配慮する。 ・引き続き子どもへの運動の楽しさ・面白さなど、学習指導を通じて運動意欲の向上が図られるよう更に研修内容を検討する。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 子どもの体力向上指導者養成研修 日程 (西部ブロック)

			12:00	12:30	12:50	13:00		14:00		17:00	
5月11日					受 付	開 講 式	休 憩	全 体 会	部 会 別 演 習		
								「子どもの体力向上を 図るための指導者の 役割」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	研究協議 「体力向上に向けた取組の工夫について」 ・女子児童生徒等に対する運動の習慣化の工夫		

	9:00		10:30		12:00		13:00		14:30		17:00
5月12日	部 会 別 演 習			昼 休 憩	食 憩	部 会 別 演 習					
	「体ほぐし運動の趣旨を 生かした学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「体ほぐし運動の趣旨を 生かした学習指導の在り方②」 (演習・協議)			「体力を高めるために体を動かす 意識を持たせる学習指導の在り方 ①」 (演習・協議)		「体力を高めるために体を動かす 意識を持たせる学習指導の在り方②」 (演習・協議)			

	9:00		10:30		12:00		13:00		14:30		17:00
5月13日	部 会 別 演 習				昼 休 憩	食 憩	部 会 別 演 習				
	「運動の意欲を高めるための 学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「運動の意欲を高めるための 学習指導の在り方②」 (演習・協議)				「指導と評価の一体化に向けた 学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「指導と評価の一体化に向けた 学習指導の在り方②」 (演習・協議)		

	9:00		10:30		12:00		13:00		15:00
5月14日	部 会 別 演 習				昼 休 憩	食 憩	全 体 会	閉 講 式	
	「研修講師となるために①」 (演習・協議)		「研修講師となるために②」 (演習・協議)				「体力の向上に向けた取組の工夫に ついて」 ・部会別発表及び学校の教育活動 全体で体力向上に取り組むための 工夫の検討等		

I 研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修（東部ブロック：推進コース）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成22年11月8日（月）～平成22年11月10日（水）				3日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	90	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 330人、受講者数 340人、参加率 103.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	71	16	0	0	3	0	90
割合 (%)	78.9	17.8	0.0	0.0	3.3	0.0	
	87	96.7					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・改めて考えることができた内容も多く、様々な立場の方の話を聞いたり情報交換をしたりして、さらに深く考え直すこともできました。健康教育に関する大切さを実感しました。今の自分の立場と養護教諭や保健主事の立場で連携しながら、今後の教育活動に努めていきたいと思えます。 ・経験豊かな方々と共に、ひとつの指導案をじっくり作成する機会を与えていただき、得るものもたくさんあり、大変充実した時間を過ごさせていただきました。 ・全国レベルの動向を知ることができたこと。健康教育の実践において、細かい点にもご指導いただき、大変勉強になりました。今回学ばせていただいたことを今後に生かすようにしていきたいです。 ・持ち寄った事例から、1つの事例について、保健主事がどう関わるか、議論（意見を出し合い）しながら内容を深めていくことができた。大変有意義であった。この事例の中の方法・手順・考え方等を、今後活動の中に生かすことができるよう努力したい。 ・宿泊での研修というのは、初の経験だったが、現場では体験できない貴重なものとなった。まだまだ自分に力がなく、消化不良の部分が多いが、今後さらに研修を深めていくように努めたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会において、教諭・養護教諭等が相互理解・連携を図られるよう工夫する。 ・部会別の講義・演習内容が専門的であることを踏まえて、受講者に各講義の位置付けを正しく理解してもらい共通認識を持ったうえで各部会の内容を修得できるよう、全体講義等において配慮する。 ・地域社会との連携組織となる学校保健委員会の活動を通じた学校保健活動について、更に理解が深められるよう配慮する。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校健康教育（健康、食育、学校安全の3分野）を相互に関連付けて学ぶ視点を盛り込んだコマの設定について検討する。 ・引き続き、管理職、教諭等の参加者増を促し、学校全体での健康教育の推進を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度健康教育指導者養成研修（東部ブロック） 日程表

第1日目		9:00	10:00	10:15	10:40	11:40	12:40	14:20	14:30	17:00	
11月8日 〔月〕	両コース共通	受付	開講式	オリエンテーション	講義1	講義2	昼食・休憩	休憩	部会別演習	講義・演習1-1	
	子どもの「いのち」と「未来」を考える				「健康教育の現状と課題」	保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応					
					文部科学省初等中等教育局 視学官 三好 仁司	文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一					
					◎目的：健康教育の根幹となる生命の尊厳について考える	◎目的：保健学習の在り方や保健指導等の重要性について理解を深めるとともに、今後の研修の進め方とポイントを把握する					
					①保健学習の在り方		【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 京都市教育委員会 首席指導主事 奥村 耕三				
					②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント		【喫煙 飲酒 薬物乱用】 金沢大学 教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生				
					③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応		筑波大学大学院 教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会 副主幹 吉田 朋幸				
					文教大学 教授 柳生 和男		◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。				

第2日目		9:00	12:00	13:00	17:00
11月9日 〔火〕	両コース共通	受付	部会別演習	昼食・休憩	部会別演習
	講義・演習1-2				
		保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応		保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応	
		①保健学習の在り方		①保健学習の在り方	
		【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 京都市教育委員会 首席指導主事 奥村 耕三		【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 京都市教育委員会 首席指導主事 奥村 耕三	
		【喫煙 飲酒 薬物乱用】 金沢大学 教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生		【喫煙 飲酒 薬物乱用】 金沢大学 教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生	
		②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント		②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント	
		筑波大学大学院 教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会 副主幹 吉田 朋幸		筑波大学大学院 教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会 副主幹 吉田 朋幸	
		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応	
		文教大学 教授 柳生 和男		栃木県真岡市立東沼小学校教頭 青山 直己 滋賀県長浜市立びわ中学校 養護教諭 岩崎 信子 鳥取県立鳥取東高等学校 養護教諭 西尾 美由紀 川崎市立生田小学校 教頭 矢野 君江	

第3日目		9:00	12:00	13:00	15:00	17:00
11月10日 〔水〕	両コース共通	受付	発表	昼食・休憩	推進コース	専門コース
	発表・事例研究					
		保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応		保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応		
		①保健学習の在り方		研修講師となるために 〔推進コース：全体講義・演習〕		
		【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 京都市教育委員会 首席指導主事 奥村 耕三		文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一		
		【喫煙 飲酒 薬物乱用】 金沢大学 教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生		◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。		
		②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント		14:55 15:05		
		筑波大学大学院 教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会 副主幹 吉田 朋幸		【①学校保健委員会の実際】		
		③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応		【②児童虐待への対応】		
		【小学校】名古屋市教育局指導主事 山口 純枝 【中学校】FRR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男 【高校】岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 佐藤 一也		高崎市教育センター 行政嘱託 長井 久子		
		◎目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める。		横浜市中央児童相談所 医務担当課長 金井 剛		

第4日目		9:00	12:00	13:00	17:00
11月11日 〔木〕	専門コース	受付	昼食・休憩	講義・演習3-1	講義・演習3-2
	学校における性に関する指導の在り方				
		京都大学大学院 准教授 木原 雅子		京都大学大学院 准教授 木原 雅子	
		◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える。			

第5日目		9:00	12:00	13:00	15:00
11月12日 〔金〕	専門コース	受付	昼食・休憩	講義・演習4	講義・演習5
	学校における感染症対策の在り方				
		国立感染症研究所 感染症情報センター 主任研究官 安井 良則		文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江	
		◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。		◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。	

I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修（東部ブロック：専門コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年11月8日（月）～平成22年11月12日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	99	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 330 人、受講者数 340 人、参加率 103.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	77	19	0	0	3	0	99
割合 (%)	77.8	19.2	0.0	0.0	3.0	0.0	
	96						
	97.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・最前線でご活躍されている先生方から最新の情報をいただき、日常の職務において活用していきたいと思えます。勉強に集中して取り組んだ5日間は働きながらではなかなか得られない貴重な時間となりました。ありがとうございました。 ・研修内容も充実し、全国の先生方とお話もできたのが良かったです。事例発表したのですが、あたたかい助言を得ることができ、思考の引き出しをもう1ついただいた気持ちです。ありがとうございました。 ・現在生徒指導主事を担当していますが、生徒指導において生徒のメンタルヘルスの理解や対応が今後増々重要となること予想されます。今回の研修で学んだことを学校に持ち帰り、本校の教職員に還元し、出来ることから実践していきたいと考えています。 ・健康教育について様々なデータをもとに現状を理解することができた。また、組織的に取り組むことで効果があることもわかった。そのためには地域・家庭との連携や専門機関との連携をどういうふうにしていくかが大切であるとあらためて感じた。 ・他県の様子をうかがうことができた事も大変有意義だったと思えますが、日程を考えると内容が多く、中途半端に感じる講義・演習があり、残念に思います。 ・最新の最先端のお話がきけてとても有意義であった。余裕がなかったのは仕方がないが、しかし感染症の話は時間が少なく、とても残念だった。午後の半日を充ててもよかった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会において、教諭・養護教諭等の相互理解・連携が図られるよう工夫する。 ・部会別の講義・演習内容が専門的であることを踏まえて、受講者に各講義の位置付けを正しく理解してもらい共通認識を持ったうえで各部会の内容を修得できるよう、全体講義等において配慮する。 ・地域社会との連携組織となる学校保健委員会の活動を通じた学校保健活動について、更に理解が深められるよう配慮する。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育や学校安全などトータル的な健康教育の視点を盛り込めるコマについて検討する。 ・引き続き、管理職、教諭等の参加者増を促し、学校全体での健康教育の推進を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度健康教育指導者養成研修（東部ブロック） 日程表

第1日目		9:00	10:00	10:15	10:40	11:40	12:40	14:20	14:30	17:00
11月8日 〔月〕	両コース共通	受付	開講式	オリエンテーション	講義1	昼食・休憩	講義2	休憩	部会別演習	講義・演習1-1
					子どもの「いのち」と「未来」を考える 文部科学省初等中等教育局視学官 三好 仁司		「健康教育の現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江			保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ①保健学習の在り方 【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 京都市教育委員会 首席指導主事 奥村 耕三 【喫煙 飲酒 薬物乱用】 金沢大学 教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 筑波大学大学院 教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会 副主幹 吉田 朋幸 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 京都大学大学院 教授 十一 元三
◎目的：健康教育の根幹となる生命の尊厳について考える										
◎目的：保健学習の在り方や保健指導等の重要性について理解を深めるとともに、今後の研修の進め方とポイントを把握する										

第2日目		9:00	12:00	13:00	17:00	
11月9日 〔火〕	両コース共通	受付	部会別演習	講義・演習1-2	昼食・休憩	講義・演習1-3
				保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ①保健学習の在り方 【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 京都市教育委員会 首席指導主事 奥村 耕三 【喫煙 飲酒 薬物乱用】 金沢大学 教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 筑波大学大学院 教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会 副主幹 吉田 朋幸 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 文教大学 教授 柳生 和男		保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ①保健学習の在り方 【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 京都市教育委員会 首席指導主事 奥村 耕三 【喫煙 飲酒 薬物乱用】 金沢大学 教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 筑波大学大学院 教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会 副主幹 吉田 朋幸 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 栃木県真岡市立東沼小学校教頭 青山 直己 滋賀県長浜市立びわ中学校 養護教諭 岩崎 信子 鳥取県立鳥取東高等学校 養護教諭 西尾 美由紀 川崎市立生田小学校 教頭 矢野 君江

第3日目		9:00	12:00	13:00	15:00	17:00			
11月10日 〔水〕	両コース共通	受付	発表	事例研究	昼食・休憩	推進コース	講義・演習2	専門コース	推進閉講式
							保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ①保健学習の在り方 【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 京都市教育委員会 首席指導主事 奥村 耕三 【喫煙 飲酒 薬物乱用】 金沢大学 教授 岩田 英樹 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 筑波大学大学院 教授 柳沢 和雄 鳥取県教育委員会 副主幹 吉田 朋幸 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 【小学校】名古屋市教育委員会指導主事 山口 純枝 【中学校】FRR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男 【高校】岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 佐藤 一也		

第4日目		9:00	12:00	13:00	17:00
11月11日 〔木〕	専門コース	受付	講義・演習3-1	昼食・休憩	講義・演習3-2
			学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子		学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子
◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える。					

第5日目		9:00	12:00	13:00	15:00
11月12日 〔金〕	専門コース	受付	講義・演習4	昼食・休憩	専門閉講式
			学校における感染症対策の在り方 国立感染症研究所 感染症情報センター 主任研究官 安井 良則		
◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。					
◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。					

I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修（西部ブロック：推進コース）							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年12月6日（月）～平成22年12月8日（水）				3日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	83	人	参加率	※
開催場所	アクロス福岡（福岡県福岡市）							

※ 全体受講定員 330 人、受講者数 340 人、参加率 103.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	63	17	0	0	3	0	83
割合 (%)	75.9	20.5	0.0	0.0	3.6	0.0	
	80	96.4					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・正しい知識の修得（教育）と効果的な教授及び組織的に行動するマネジメントが大切であることが分かった。生徒と離れてこの地で研修を受けた時間、大きなヒントをもらうことができた。よかったです。 ・小・中・高の様々な校種・職種の先生方と交流することで多様な考え、それぞれの校種の実態等を知ることができた。部会別研修では、1つのテーマを深くグループで協議でき、新たな視点を得ることができた。他県の先生方と話をすることで、情報交換ができてよかった。 ・各講義とも目的が明確で、各講師の思いが伝わり、どれも有意義な研修でした。今回の研修で特に感じたことは組織の中の一員であるという視点、仲間と学んだことを共有し理解をより深めていくことの大切さです。目的を明確にし、一人よがりにならないよう、校内外との連携を大切にしたいと思います。 ・研修講師となるための基礎知識と技能を身に付ける研修にしてほしい。講義・演習は、講義により多くの時間を割き、班別演習は実際にどのような手法で行うのかというポイントを学べれば良いと思う。 ・「児童・生徒のメンタルヘルス」については、もっと一般教諭が研修する機会を増やしていく必要があるのではなかろうか。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会において、教諭・養護教諭等の相互理解・連携が図られるよう工夫する。 ・部会別の講義・演習内容が専門的であることを踏まえて、受講者に各講義の位置付けを正しく理解してもらい共通認識を持ったうえで各部会の内容を修得できるよう、全体講義等において配慮する。 ・地域社会との連携組織となる学校保健委員会の活動を通じた学校保健活動について、更に理解が深められるよう配慮する。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校健康教育（健康、食育、学校安全の3分野）を相互に関連付けて学ぶ視点を盛り込んだコマの設定について検討する。 ・引き続き、管理職、教諭等の参加者増を促し、学校全体での健康教育の推進を図る。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度健康教育指導者養成研修（西部ブロック） 日程表

		9:00	10:00	10:15	10:40	11:40	12:40	14:20	14:30	17:00
12月6日 〔月〕	両コース共通	受付	開講式	オリエンテーション	講義1	昼食・休憩	講義2	休憩	講義・演習1-1	
					大阪教育大学 教授 藤永 芳純		「健康教育の現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江		保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応	
					子どもの「いのち」と「未来」を考える					
					◎目的：健康教育の根幹となる生命の尊厳について考える					
					◎目的：保健学習の在り方や保健指導等の重要性について理解を深めるとともに、今後の研修の進め方とポイントを把握する					
					①保健学習の在り方 【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道岩見沢農業高校 教頭 森 浩之 新潟医療福祉大学 教授 和唐 正勝 【感染症】 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫					
					②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 福島県喜多方市立塩川中学校 教頭 高橋 伸明					
					③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 京都大学大学院 教授 十一 元三					

		9:00	12:00	13:00	17:00
12月7日 〔火〕	両コース共通	受付	講義・演習1-2	昼食・休憩	講義・演習1-3
			保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応		保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応
			①保健学習の在り方 【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道岩見沢農業高校 教頭 森 浩之 新潟医療福祉大学 教授 和唐 正勝 【感染症】 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫		
			②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 福島県喜多方市立塩川中学校 教頭 高橋 伸明		
			③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 文教大学 教授 柳生 和男		
			①保健学習の在り方 【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道岩見沢農業高校 教頭 森 浩之 新潟医療福祉大学 健康科学部長 和唐 正勝 【感染症】 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫		
			②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 福島県喜多方市立塩川中学校 教頭 高橋 伸明		
			③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 鳥根県出雲町立三沢小学校 教頭 荻尾 玲子 沖縄県那覇市立壺屋小学校 校長 下地 京子 高知県須崎市立新荘小学校 教頭 中野 靖子 十文字学園女子大学 准教授 松野 智子		

		9:00	12:00	13:00	15:00	17:00
12月8日 〔水〕	両コース共通	受付	発表：事例研究	昼食・休憩	推進コース	発表
			保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応			
			①保健学習の在り方 【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道岩見沢農業高校 教頭 森 浩之 新潟医療福祉大学 健康科学部長 和唐 正勝 【感染症】 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫			
			②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 福島県喜多方市立塩川中学校 教頭 高橋 伸明			
			③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 【小学校】甲南女子大学 准教授 岡本 陽子 【中学校】高知県心の教育センター 指導主事 大城 由美 【高校】FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男			
			◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。			
			14:55 15:05 学校・家庭・地域社会との連携の充実 【①学校保健委員会の実際】 高崎市教育委員会 指導主事 霜田 敦子	推進閉講式		
			【②児童虐待への対応】 常盤大学大学院 准教授 秋山 邦久			
			◎目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める。			

		9:00	12:00	13:00	17:00
12月9日 〔木〕	専門コース	受付	講義・演習3-1	昼食・休憩	講義・演習3-2
			学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子		学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子
			◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える。		

		9:00	12:00	13:00	15:00
12月10日 〔金〕	専門コース	受付	講義・演習4	昼食・休憩	専門閉講式
			学校における感染症対策の在り方 国立大学法人東京大学医科学研究所附属病院 アレルギー免疫科 助教 大沼 圭		
			◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。		
			◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。		
			研修講師となるために 〔専門コース：全体講義・演習〕 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江		

I 研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修（西部ブロック：専門コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成22年12月6日（月）～平成22年12月10日（金）			5日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	68	人	参加率	※
開催場所	アクロス福岡（福岡県福岡市）							

※ 全体受講定員 330 人、受講者数 340 人、参加率 103.0%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	50	12	0	0	6	0	68
割合 (%)	73.5	17.6	0.0	0.0	8.8	0.0	
	62	91.2					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義・演習と、話を聞くだけでなく、実際に演習することにより、いろいろな角度からみていくことが大切であると実感した。内容・方法・研修環境が大変よかった。 ・ 健康教育は生きること、生命について考え教えていくことであり、その深さに気がついた。研修会全体を通してそのことが土台にあり、新たな視点を与えていただいた。主体的に研修に取り組むことが力を身につけることにつながり、子どもたちの保健学習・保健指導も同じである。養護教諭の専門性について常に意識して、勤務に取り組んでいきたい。任務の重さに身が引き締まる思いがしています。 ・ 講義と演習のバランスが良く、メリハリのある5日間の研修だった。県内では聴く事ができない講師の先生方の講義、県外の先生方の実践等は、各コマの講義時間が短いと感じるほど充実していた。やるべきことがまだまだ充分出ていないが、この研修を終えて、何かやらねばという意欲が出てきた。 ・ 盛りだくさんの内容でとても有意義な研修でした。他の県の状況など情報交換や相談ができ、刺激になりました。自校・県の研究会にて還元したいと思います。 ・ 続けてもっととききたい講義内容ばかりでした。もう少し時間があって内容を深められたらよかったですと思いました。学校にもどって生かしていきたいと思っています。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部会において、教諭・養護教諭等の相互理解・連携が図られるよう工夫する。 ・ 部会別の講義・演習内容が専門的であることを踏まえて、受講者に各講義の位置付けを正しく理解してもらい共通認識を持ったうえで各部会の内容を修得できるよう、全体講義等において配慮する。 ・ 地域社会との連携組織となる学校保健委員会の活動を通じた学校保健活動について、更に理解が深められるよう配慮する。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校健康教育（健康、食育、学校安全の3分野）を相互に関連付けて学ぶ視点を盛り込んだコマの設定について検討する。 ・ 引き続き、管理職、教諭等の参加者増を促し、学校全体での健康教育の推進を図る。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度健康教育指導者養成研修（西部ブロック） 日程表

		9:00	10:00	10:15 10:40	11:40	12:40	14:20 14:30	17:00
12月6日 〔月〕	両コース共通	受付	開講式	オリエンテーション	講義1	講義2	休憩	講義・演習1-1
				大阪教育大学 教授 藤永 芳純	「健康教育の現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江	保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ①保健学習の在り方 【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道岩見沢農業高校 教頭 森 浩之 新潟医療福祉大学 教授 和唐 正勝 【感染症】 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 福島県喜多方市立塩川中学校 教頭 高橋 伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 京都大学大学院 教授 十一 元三		
◎目的：健康教育の根幹となる生命の尊厳について考える								
◎目的：保健学習の在り方や保健指導等の重要性について理解を深めるとともに、今後の研修の進め方とポイントを把握する								

		9:00	12:00	13:00	17:00
12月7日 〔火〕	両コース共通	受付	講義・演習1-2	講義・演習1-3	部会別演習
			保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ①保健学習の在り方 【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道岩見沢農業高校 教頭 森 浩之 新潟医療福祉大学 教授 和唐 正勝 【感染症】 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 福島県喜多方市立塩川中学校 教頭 高橋 伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 文教大学 教授 柳生 和男	保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ①保健学習の在り方 【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道岩見沢農業高校 教頭 森 浩之 新潟医療福祉大学 健康科学部長 和唐 正勝 【感染症】 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 福島県喜多方市立塩川中学校 教頭 高橋 伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 鳥根県出雲町立三沢小学校 教頭 荻尾 玲子 沖縄県那覇市立壺屋小学校 校長 下地 京子 高知県須崎市立新荘小学校 教頭 中野 靖子 十文字学園女子大学 准教授 松野 智子	
◎目的：保健学習の在り方や保健指導等の重要性について理解を深めるとともに、今後の研修の進め方とポイントを把握する					

		9:00	12:00	13:00	15:00	17:00
12月8日 〔水〕	両コース共通	受付	発表：事例研究	推進コース	専門コース	推進閉講式
			保健学習の在り方、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 ①保健学習の在り方 【生活習慣病】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 北海道岩見沢農業高校 教頭 森 浩之 新潟医療福祉大学 健康科学部長 和唐 正勝 【感染症】 鹿沼市立北押原中学校 教頭 酒井 邦夫 ②保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 福島県喜多方市立塩川中学校 教頭 高橋 伸明 ③児童生徒のメンタルヘルスへの理解と対応 【小学校】甲南女子大学 准教授 岡本 陽子 【中学校】高知県心の教育センター 指導主事 大城 由美 【高校】FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男	研修講師となるために 〔推進コース：全体講義・演習〕 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 教科調査官 森 良一 ◎目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。		
◎目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める。						

		9:00	12:00	13:00	17:00
12月9日 〔木〕	専門コース	受付	講義・演習3-1	講義・演習3-2	休憩
			学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子	学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子	
◎目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える。					

		9:00	12:00	13:00	15:00
12月10日 〔金〕	専門コース	受付	講義・演習4	講義・演習5	専門閉講式
			学校における感染症対策の在り方 国立大学法人東京大学医科学研究所附属病院 アレルギー免疫科 助教 大沼 圭	研修講師となるために 〔専門コース：全体講義・演習〕 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江	
◎目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。					
◎目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。					

I 研修概要

研 修 名	学校安全指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	各地域・学校において児童生徒等の安全の確保が図られるよう、学校における生活安全、交通安全、災害安全に関し、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修の内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者。 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者。 							
開 催 期 日	平成22年6月16日（水）～平成22年6月18日（金）				3日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	160	人	受講者数	153	人	参加率	95.6%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	104	41	1	0	7	0	153
割合 (%)	68.0	26.8	0.7	0.0	4.6	0.0	
	145	94.8					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・各分野の専門の先生の話だけを聞けるだけでなく、全国の先生方と防犯教育について意見交換することができ、大変有意義であった。 ・学校安全について法規から構造に至る内容にかかわり、指導の重要性を理解することができた。 ・自分の参加する部会のみでなく、他の部会の講師及び調査官の先生から概要を聞くことができ、普段まとめて学校安全についての話を聞く機会がない立場の者としては貴重な機会であった。 ・学校安全について、これまでじっくり考えたことがなかったので、専門的な視点から考えることが出来て、この3日間は大変貴重な時間でした。 ・今回の内容を再構築し、県の施策また、研修会などを通して各学校へ伝達し、それぞれの学校で組織的・機能的に生かしていけるようにしていきたいと思っております。 ・演習で成果物を生み出すという研修は有意義であったと思います。 ・課題協議2の講師の方々の話が40分と少し短い気がして、もっとじっくりお話を伺いたかったと思います。 ・県主催の研修会での講師として指導できるかが少々不安であり、どう指導すると良いかを具体的に示していただけると、自信を持って講師としてやっていけると思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目の研修冒頭で、子どものいのちにかかわるコマを設定し、いのちにかかわる問題が受講者の身近に起こりうることを感じてもらい、次のコマ以降において受講者の参加意欲を高めることとした。 ・1日目の「演習1」の設定時間を昨年度より25分延長して70分とし、演習の進め方など、受講者に共通認識を図るための時間を確保した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校安全指導者養成研修」を「健康教育指導者養成研修」に統合し、学校安全コースを設定する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度学校安全指導者養成研修 日程一覧

	9:30	10:00	10:30	11:45	12:45	13:25	14:05	14:15	14:55	15:35	15:50	17:00
6月16日(水)	受付	開講式	課題協議1 [全体会] 「子どものいのちに関して ～生命の諸相と充実～」 国立大学法人大阪教育大学 教授 藤永 芳純	休憩 昼食	課題協議2 ① ② 休憩 ③ ④ [全体会] 「生活安全・交通安全・災害安全の現状と課題、指導の展開のあり方について」 ① 国立大学法人大阪教育大学 教授 藤田 大輔 テーマ「学校における安全管理の考え方・進め方」 ② 国立大学法人兵庫教育大学大学院 教授 西岡 伸紀 テーマ「防犯教育の進め方」 ③ 東北工業大学 教授 小川 和久 テーマ「安全行動の形成のために ～交通心理学の視点から～」 ④ 国立大学法人上越教育大学大学院 教授 藤岡 達也 テーマ「学校におけるESD(持続発展教育)と 自然災害に関する防災・減災教育」	休憩 移動	演習1 [部会別演習(2コース 計4部会)] 「生活安全・交通安全・災害安全における課題に対応した指導方法」 【生活安全・交通安全コース】 「事件・事故時の対応方法(危機管理マニュアルを含む)」部会 ① 大阪教育大学 教授 藤田 大輔 岩手県教育委員会学校教育室 指導主事 佐々木 秀一 「防犯教育(防犯訓練を含む)の指導方法」部会 ② 兵庫教育大学大学院 教授 西岡 伸紀 石川県教育委員会スポーツ健康課 指導主事 長谷部 学 「交通安全教育(交通安全教室を含む)の指導方法」部会 ③ 東北工業大学 教授 小川 和久 香川県教育委員会保健体育課 主任指導主事 三好 昭彦 【災害安全コース】 「防災教育(防災訓練を含む)の指導方法」部会 上越教育大学大学院 教授 藤岡 達也 静岡県教育委員会教育総務課 主査 貝瀬 佳章					

	9:00	12:00	13:00	17:00
6月17日(木)	演習2 [部会別演習] 「生活安全・交通安全・災害安全における課題に対応した指導方法」 【生活安全・交通安全コース】 ① 「事件・事故時の対応方法(危機管理マニュアルを含む)」部会 ② 「防犯教育(防犯訓練を含む)の指導方法」部会 ③ 「交通安全教育(交通安全教室を含む)の指導方法」部会 【災害安全コース】 「防災教育(防災訓練を含む)の指導方法」部会	休憩 昼食	演習2(午前の続き) [部会別演習] 「生活安全・交通安全・災害安全における課題に対応した指導方法」 【生活安全・交通安全コース】 ① 「事件・事故時の対応方法(危機管理マニュアルを含む)」部会 ② 「防犯教育(防犯訓練を含む)の指導方法」部会 ③ 「交通安全教育(交通安全教室を含む)の指導方法」部会 【災害安全コース】 「防災教育(防災訓練を含む)の指導方法」部会	

	9:00	11:00	11:20	12:00	13:00	13:40	14:30	14:45
6月18日(金)	発表 各コース・部会ごとに班ごとに発表 【生活安全・交通安全コース】 ① 「事件・事故時の対応方法(危機管理マニュアルを含む)」部会 ② 「防犯教育(防犯訓練を含む)の指導方法」部会 ③ 「交通安全教育(交通安全教室を含む)の指導方法」部会 【災害安全コース】 「防災教育(防災訓練を含む)の指導方法」部会	発表及び指導講評 [全体会] 1. 各部会からの発表(各10分×4部会) 2. 各部会講師からの指導・講評(各10分×4部会)	休憩 昼食・休憩	研究協議・演習 [全体会] 「研修講師となるために」 文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 安全教育調査官 長岡 佳孝	閉講式			

I 研修概要

研修名	食育指導者養成研修（推進コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するために、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。							
受講対象	ア 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事、学校栄養職員等及び教育センターの研修担当主事等であって、食に関する指導を担当する者 イ 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び学校栄養職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 ウ その他、上記ア、イに準ずる者							
開催期日	平成22年7月13日（火）～平成22年7月16日（金）			4日間				
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	83	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 170 人、受講者数 179 人、参加率 105.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった				あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	68	12	0	0	3	0	83		
割合 (%)	81.9	14.5	0.0	0.0	3.6	0.0			
	80		96.4						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・受講内容について、早速、指導主事研修等各種研修事業で活用したいと思います。研修プログラムのあり方、助言のあり方等役立つものばかりでした。 ・指導する事の難しさを感じているが、何をどの様に指導するかというポイントを聞き、実際にグループで指導案を作成しながら再確認することができました。発表を聞いたり、発表を行ったり、指導案や授業について評価して頂き、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。 ・具体的にどう推進していくかということ、直面している課題が見えてきました。時間的にも研修の順番がよく配置されていました。 ・児童生徒の行動変容を目指す食育の位置付けが、知育、徳育、体育を支える位置にあることから、全体計画、年間指導計画を全職員で作成しながら、学校総体として、また、地域や家庭、幼保小中の縦の連携を重視しながら取り組んでいくことの重要性を強く感じました。 ・連携において、相互理解や役割分担を明確にするためにも双方向による情報のキャッチボールを継続的に行いながらお互いに分かり合い協力し合える体制作りをしていくことが大切であることがわかりました。また、情報提供、相互補充、統合など連携の在り方についても学ぶことができました。 ・教科の特長を生かした授業や指導者の先生からのご指導で、それぞれの教科での食育や栄養教諭との関わり方について、理解を深めることが出来ました。発表に向けて熱心なご指導をいただき、ありがたかったです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食に関する指導にかかる指導計画を検討する際に、学校だけに限らず、家庭へのアプローチ等についても理解が深まるよう配慮した。 ・各教科等における食育について、学習指導要領の改訂の趣旨が横断的に理解できるよう配慮した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食育指導者養成研修」を「健康教育指導者養成研修」に統合し、食育コースを設定する。 ・学校健康教育（健康、食育、学校安全の4分野）を相互に関連付けて学ぶ視点を盛り込んだコマの設定について検討する。 ・推進コースにおいては、学校における効果的な推進を図るため、教育課程全体のマネジメントに係る内容を充実させる。
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 食育指導者養成研修 (推進コース)

7月13日 (火)	10:00	10:45	11:20	12:30	13:30	14:30	14:40	17:00
	受付	開講式	講義 1 「学校における食育の推進について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 給食調査官 田中 延子	昼 休 食 憩	講義・演習 1 「学校給食管理の重要性について」 高崎健康福祉大学准教授 神戸 美恵子	休 憩	講義・演習 2 「学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉 哲也	
会場 教員研修センター (つくば)								

7月14日 (水)	8:30	9:40	9:50	11:10	11:20	12:00	13:00	15:30	15:40	17:00		
	受付	講義・演習 3 「給食の時間における食に関する指導の重要性について」 高知県教育委員会 指導主事 北村 和子	休 憩	協議 「食育を推進するにあたっての現状と課題について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉 哲也	休 憩	講義 2 「新学習指導要領における食育の推進について」 国立教育政策研究所 教育課程調査官 杉田 洋	昼 休 食 憩	講義 3 「各教科等における食に関する指導のポイント」 特別活動 国立教育政策研究所 教育課程調査官 杉田 洋	生活、総合的な学習の時間 愛知教育大学准教授 久野 弘幸	理 科 国立教育政策研究所 教育課程調査官 村山 哲哉	休 憩	講義・演習 4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習
会場 教員研修センター (つくば)												

7月15日 (木)	8:30	12:00	13:00	17:00
	受付	講義・演習 4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習	昼 休 食 憩	講義・演習 4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習
会場 教員研修センター (つくば)				

7月16日 (金)	8:30	12:00	13:00	14:30	各教科等を担当する講師 ○特別活動 国立教育政策研究所 教育課程調査官 杉田 洋 北九州市立小石小学校校長 大庭 正美 ○生活、総合的な学習の時間 愛知教育大学 准教授 久野 弘幸 姫路市立総合教育センター管理指導主事 中島 輝久 ○理科 国立教育政策研究所 教育課程調査官 村山 哲哉	
	受付	講義・演習 5 「食に関する指導案の発表」 特別活動 北九州市立小石小学校校長 大庭 正美	生活、総合的な学習の時間 姫路市立総合教育センター 管理指導主事 中島 輝久	理 科 国立教育政策研究所 教育課程調査官 村山 哲哉		昼 休 食 憩
会場 教員研修センター (つくば)						

I 研修概要

研修名	食育指導者養成研修（専門コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するために、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。							
受講対象	食に関する指導において専門知識を有する栄養教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開催期日	平成22年9月14日（火）～平成22年9月17日（金）				4日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	96	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

※ 全体受講定員 170 人、受講者数 179 人、参加率 105.3%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	88	7	0	0	1	0	96
割合 (%)	91.7	7.3	0.0	0.0	1.0	0.0	
	95	99.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 4日間が短く感じられるほど大変充実した内容の研修を受けることが出来た。この研修を受け栄養教諭自らがその専門性を生かし、担任に提案することなども必要なことだと実感した。また全国の栄養教諭の先生方と研修を行うことで、色々な先生の考えを吸収することが出来大変勉強となった。この貴重な経験を生かし勤務校のみならず、様々な場面で指導者という立場で食育の推進を図っていききたい。 ・ 栄養教諭として必要な知識・技能を研修を通して学ぶ事が出来、大変有意義だった。 ・ 同じ職種の仲間と指導案の検討を行い楽しく充実した演習を経験が出来た。講師の先生方も熱心に指導くださり、今まで漠然としていた事柄が整理され、必要性が再確認出来た。 ・ 今回の研修を通して多くのことを学ぶことができ、今までの働きかけを振り返ったり、立ち止まって考え気付いたりなど、とても貴重な時間を過ごすことができた。本研修で学んだ事を多くの方に伝え、皆で子どものために力を合わせて食育を推進していききたい。 ・ 講義内容も素晴らしく、数多くの演習を通し、学びが深まった。明日学校に戻ってからすぐに生かせることも多くありがた。また、演習・講義に専念できる環境（図書館の資料の充実、パソコン）もありがたかった。 ・ 全体計画の作成、給食時間の指導計画の作成の方法や指導案の書き方など、とても勉強になった。演習をすることでより深まった。新しい発見、再認識したところなど、たくさんありました。ありがとうございました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食に関する指導にかかる指導計画を検討する際に、学校だけに限らず、家庭へのアプローチ等についても理解が深まるよう配慮した。 ・ 各教科等における食育について、学習指導要領の改訂の趣旨が横断的に理解できるよう配慮した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「食育指導者養成研修」を「健康教育指導者養成研修」に統合し、食育コースを設定する。 ・ 学校健康教育（健康、食育、学校安全の3分野）を相互に関連付けて学ぶ視点を盛り込んだコマの設定について検討する ・ 専門コースにおける各教科等の指導案を検討する時間について、従来不足が生じていたことから、十分な確保について検討する。 ・ 学校のみならず、家庭においても栄養バランスのとれた食事が摂れるよう、家庭や地域との効果的な連携を通じて、質の向上に配慮していく必要がある。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 食育指導者養成研修（専門コース）

9月14日 (火)	10:00	10:45	11:20	12:30	13:30	14:30	14:40	17:00
	受付		開講式 オリエンテーション	講義1 「栄養教諭に求められる役割について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課学校給食調査官 田中 延子	昼休 食憩	講義・演習1 「学校給食管理の在り方」 熊本市立託麻中学校栄養教諭 守田 真里子	休 憩	講義・演習2 「学校全体で取り組む食に関する指導にかかる全体的な指導計画の作成」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課食育調査官 森泉 哲也
会場 教員研修センター（つくば）								

9月15日 (水)	8:30	9:40	9:50	11:10	11:20	12:10	13:10	13:50	14:00	16:10	16:20	17:00
	受付	講義・演習3 「給食の時間における食に関する指導の在り方」 越前町立朝日中学校 栄養教諭 水嶋 真由美	休 憩	講義・演習4 「個別的相談指導の在り方」 東京女子医科大学名誉教授 村田 光範	休 憩	協議 「食育を推進するにあたっての現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 田中 延子	昼休 食憩	講義2 「新学習指導要領における食育の推進について」 国立教育政策研究所 教育課程調査官 杉田 洋	休 憩	講義3 「各教科等における食に関する指導のポイント」 特別活動 生活、総合的な学習の時間 家庭技術・家庭 愛知教育大学准教授 久野 弘幸 国立教育政策研究所 教育課程調査官 筒井 恭子	休 憩	講義・演習5 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科ごとにおいて、講義・演習
会場 教員研修センター（つくば）												

9月16日 (木)	8:30	12:00	13:00	17:00
	受付	講義・演習5 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科ごとにおいて、講義・演習	昼休 食憩	講義・演習5 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科ごとにおいて、講義・演習
会場 教員研修センター（つくば）				

9月17日 (金)	8:30	12:00	13:00	14:30	各教科等を担当する講師 ○特別活動 国立教育政策研究所 教育課程調査官 杉田 洋 福岡県教育庁 指導主事 秀島 一生 ○生活、総合的な学習の時間 愛知教育大学 准教授 久野 弘幸 大分県教育委員会 指導主事 米持 武彦 ○家庭 技術・家庭 国立教育政策研究所 教育課程調査官 筒井 恭子 埼玉県立総合教育センター 指導主事 市村 洋子
	受付	講義・演習6 「食に関する指導案の発表」 特別活動 福岡県教育庁指導主事 秀島 一生 生活、総合的な学習の時間 大分県教育委員会指導主事 米持 武彦 家庭技術・家庭 埼玉県立総合教育センター指導主事 市村 洋子	昼休 食憩	講義・演習7 「研修講師となるために」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課食育調査官 森泉 哲也	
会場 教員研修センター（つくば）					

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-1：学校評価と学校改善）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開催期日	平成22年11月1日（月）～平成22年11月12日（金）				12日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	12	3	1	0	0	0	16
割合 (%)	75.0	18.8	6.3	0.0	0.0	0.0	
	15	93.8					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会では、海外派遣研修の意義や本研修の概要を理解することができた。また、シニアアドバイザーの先生の講義や情報提供により、限られた時間の中で研修テーマに関する現状と課題を明確にし、団員間の協議を行うことができた。 ・事前研修会、海外派遣研修、事後研修会におけるシニアアドバイザーの先生の指導・助言は適切であった。特に海外派遣中に次々と提供していただいた訪問先の関係資料は、視察を行う際に大変参考となるものであり、研修の内容を深める上で有効であった。 ・海外派遣研修を通じて海外の様々な取り組みを実際に見聞することで、日本の教育の良さを改めて感じた。また、訪問国の学校や教育委員会の取り組みや工夫などについて、教育制度の違いを踏まえた上で、今後の学校教育などに活かしていきたい。 ・他県の先生との交流・情報交換により、ネットワークを広げることができたことは、大きな財産です。今後の教育活動に役立てていきたいと思えます。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去3年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-2：学校評価と学校改善）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開催期日	平成22年11月29日（月）～平成22年12月10日（金）				12日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	21	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員（全体計画人数） 500 人、受講者数 307 人、参加率 61.4%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	19	2	0	0	0	0	21
割合 (%)	90.5	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会は研修内容の理解を深める上で良い機会となった。事前研修会でのシニアアドバイザーからの講義や研修資料はとても参考になるものであり、その後研修を進める上で大変役立った。 ・訪問国の教育事情や取り組みなど、訪問して初めて気づく事も多く大変有意義な研修であった。今後は海外派遣研修で得た課題や成果を整理し、我が国の教育に活かしていきたいと考えている。 ・全国から参加した先生方が集団で海外研修を行なうことで、参加者個々の力を磨き、派遣団一丸となって、教育課題の解決に向けた取り組みなどを知ることができた。 ・訪問国における先進的な取り組みを実際に目にする事で、本テーマに関する今後の一つのあり方を具体的に考えることができた。 ・事後研修会では海外で研修した内容を整理・協議することで、情報を共有することができた。今後、様々な場面で活用していきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去3年間の実施状況を踏まえ、研修テーマの見直しを行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-1：国語力・読解力）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	平成22年10月17日（日）～平成22年10月28日（木）				12日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義							
人数 (人)	12	4	0	0	0	0	0	0	16
割合 (%)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	16	100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・参加にあたって不安もありましたが、二日間の事前研修会で海外派遣研修に向けた役割分担や協議を進めることで、本研修の内容を理解することができました。 ・シニアアドバイザーの先生から、海外派遣研修に関する事前準備や注意点をしっかり指導していただいたことにより、目的意識を高く持って訪問先での視察調査を行うことができた。 ・派遣団全員の協力により、大変有意義な研修となりました。訪問先では親切丁寧な説明をいただいたことにより、事前に準備した質問事項について十分調査することができました。 ・喫緊課題をテーマ毎に設定して研修を実施する今の方法は効果的かつ有意義であると感じた。海外での見聞や派遣団の先生方とグループ協議などを通じて、テーマについて踏み込んで考えられたことは良い学びとなった。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-2：国語力・読解力）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	平成22年11月22日（月）～平成22年12月3日（金）				12日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	17	0	0	0	0	0	17
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会では、研修の意義や今後の展開を理解することができた。シニアアドバイザーの先生からの指導により課題協議などを進めることができ有効な研修となった。 ・海外派遣研修期間中は、毎日ミーティングを行いシニアアドバイザーから適切な助言をいただくことにより、団員全員で共通理解を図りながら研修を進めることができた。 ・事前研修会で協議した課題について、海外の訪問先で実際の取り組みを直に見聞するなど、派遣団で一つの課題を追求することで、教育課題について新たな知見を得ることができた。当初は理解できなかった部分が研修中に少しずつ明らかになってくるのが面白くもあった。 ・大変有意義な研修に参加させていただき感謝しています。海外の教育現場の状況を実際に見たり聞いたりして得た知識は、今後の教育を進める上で大きな財産となりました。研修成果を今後の教育現場に生かしていきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-1：理数系教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	平成22年10月10日（日）～平成22年10月21日（木）				12日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	19	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収		合計
	大変有意義	概ね有意義								
人数 (人)	13	6	0	0	0	0	0	0	19	
割合 (%)	68.4	31.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	19	100.0								

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会を行っていただいたおかげで研修の方向性が明確になり、その後の研修をより有効に行うことが可能になりました。大変有意義な研修でした。 ・シニアアドバイザーの先生からの指導・助言が、研修中に生じた疑問や壁を乗り越えるきっかけとなりました。シニアアドバイザーの先生のご存在はとて大きく、先生からのアドバイスは勉強になりました。 ・研修に参加できたことは本当に貴重な経験でした。海外の教育事情などを知ることで改めて日本の教育の良い点を見ることができました。教員として人間としての視野が広がりました。今後学んだことをしっかり活用していきたいと思えます。 ・海外の訪問先の取り組みだけでなく、研修に参加した他県や学校種が異なる取り組みについて多くの情報を共有できることも大きな学びとなった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-2：理数系教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	平成22年11月1日（月）～平成22年11月12日（金）				12日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	16	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	14	2	0	0	0	0	16
割合 (%)	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	16	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会でシニアアドバイザーの先生から多くの指導・助言や海外研修を行なう上で派遣団として進むべき方向性を示してくださったことにより、その後の研修を効果的に進めることができました。 ・参加されている方々の意識が高く、自分も刺激を受けながら研修に参加することができた。海外の訪問先では数多くの取り組みを視察することができるなど大変有意義な研修となりました。 ・教育機関に加え、小学校・中学校・高校・大学というように様々な学校を訪問できたことで、訪問国の教員・子どもたちと直接触れ合うこともでき、効果的で貴重な研修ができました。 ・限られた期間の中で集中的に海外の取り組みを視察していただくことができました。他県の先生方との交流も含め、大変意義のある研修でした。今後の学校教育に活かして生きたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-1：小学校英語）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	平成22年11月15日（月）～平成22年11月26日（金）				12日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	21	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	19	2	0	0	0	0	21
割合 (%)	90.5	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会でシニアアドバイザーの先生から、適切な助言や調査研究の方向性を示していただいたことにより、海外派遣研修の調査研究に生かすことができたと思う。 ・海外での研修が新たな知見を得る素晴らしい経験になったことはもちろんですが、今回の研修を通して、全国各地の先生方と同じ目的を持ち、同じテーマで協議・意見交換できたことで得た学びも多かった。 ・個人では見ることのできない教育施設や学校を視察でき、様々な取り組みを見ておくことができた。また、海外の教育事情等を知ることによって、日本の学校や社会を見る目を持つ機会を与えていただき感謝しています。今後は、研修で学んだことを学校教育に反映していきたい。 ・事後研修会では、海外研修で得た情報を整理し報告書をまとめ、成果活用についての協議も行うことができた。ただ、もう少し時間があると良いと感じた。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-1：生徒指導・教育相談）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	平成22年11月1日（月）～平成22年11月12日（金）				12日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収		合計
	大変有意義	概ね有意義								
人数 (人)	16	1	0	0	0	0	0	0	17	
割合 (%)	94.1	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	17	100.0								

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会でのシニアアドバイザーの先生の事前講義は、派遣国の教育事情を把握し海外派遣の調査事項を協議する上で大変有意義でした。また、海外派遣中も適切なタイミングで様々なアドバイスを受けることができ、効果的に研修を進めることができました。 ・団長のリーダーシップのもと、高い意識をもった先生方と共に訪問国の様々な取り組みを見てくることができました。訪問先の設定も良く素晴らしい海外派遣研修となりました。 ・個人では決して見ることができない学校や教育機関で多くの事例を視察することができたことは、とても良い経験と学びになりました。また、喫緊の課題に関して他県の先生方ともじっくり話ができて、大変良い刺激となりました。今後、学校教育に活かしていきたいと思う。 ・海外の教育事情に触れるという大変貴重な機会を頂いたことに感謝しております。この研修を通じた学びはそれぞれの団員の力量アップに確実につながると思います。また、教師としての資質の向上に大きく寄与すると確信しています。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-2：生徒指導・教育相談）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開催期日	平成22年10月18日（月）～平成22年10月29日（金）				12日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収		合計
	大変有意義	概ね有意義								
人数 (人)	15	2	0	0	0	0	0	0	17	
割合 (%)	88.2	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	17									

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会及び海外派遣研修中におけるシニアアドバイザーの先生の指導・助言は、視点がはっきりしていて分かりやすかった。また、海外研修中も一人一人がより良い研修を行なうことができるよう配慮していただき、多くの知見を得ることができた。 ・海外派遣研修では、訪問先の状況によっては事前に準備した調査内容を柔軟に考えていかねばならないような状況もあったが、予定した事項を調査することができた。 ・全国の先生と多くの事例を見て意見交換ができたことは貴重な経験でした。喫緊課題に関して海外の取り組みや他県状況を聞いたことは大きな財産となりました。 ・多くの学校や関係施設を視察することで、様々な取り組みを実際に見ることができ、日本との違いを知ることができた。今後の参考となるものでした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（F-1：キャリア教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	平成22年11月16日（火）～平成22年11月25日（木）				10日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	15	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	15	0	0	0	0	0	15
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会は団員相互の親睦も深まり研修への意欲付けが十分達成できたものと感じている。不安も解消されその後の準備を進めることができました。 ・シニアアドバイザーの先生には事前研修会及び海外派遣中に、視察ポイントの明示やミーティングで的確に指導していただき、効果的で有意義な調査研究を進めることができた。 ・全国から参加した先生方が訪問先で積極的に質問をしたり、訪問後もホテルでミーティングを行うなど、限られた研修期間の中で研修内容を共有し深めることができた。効果的に設定された訪問先で取り組み事例を直接見て話を聞けるなど、視野を広げることができる素晴らしいプログラムだと思う。 ・視察訪問を通じて多くの取り組みを知ることができ大変勉強になりました。今後、学校で課題に取り組んでいく上で参考となるものでした。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（F-2：キャリア教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	平成22年10月11日（月）～平成22年10月22日（金）				12日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収		合計
	大変有意義	概ね有意義								
人数 (人)	14	3	0	0	0	0	0	0	17	
割合 (%)	82.4	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	17		100.0							

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会での研修概要の説明やシニアアドバイザーの先生からの講義により、研修のねらいや研修の内容や調査事項等がよく理解できた。その後研修を進めていく上で大変参考になった。 ・海外派遣研修の訪問先は、学校と行政機関等がバランスよく設定されており、本課題に関する訪問国の全体像を把握するのに大変有効であった。 ・シニアアドバイザーの先生には、事前研修のみならず訪問先においても細かく丁寧に指導していただきました。おかげで理解も進み有意義な研修となりました。 ・本研修に参加させていただきとても貴重な経験ができた。訪問国で数多くの取り組みを視察することで喫緊課題に対しグローバルな視点を持つことができるようになったと思う。 ・また、他県の先生方とも交流が持てたことで他県の教育事情などを知ることができるなどすべてが新鮮な体験だった。この経験を少しでも生かし役立てたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（G-1：心身の健康教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	平成22年10月11日（月）～平成22年10月22日（金）				12日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義						
人数 (人)	14	3	0	0	0	0	0	17
割合 (%)	82.4	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会で研修報告書作成の書式や構成など詳しい資料があり、研修成果をまとめ上げていく上で役立った。 ・この研修を通して自分自身の意識がさらに高まりました。喫緊課題について日本と訪問国を比較することで、これからのように日本が進むべきかという事などを考えられる、本当に私の人生にとって貴重な体験となりました。 ・外国の教育事情を学ぶことで客観的に日本の教育システムを再考する機会となった。多くの方々のサポートを得て研修できたことに感謝申し上げますと共に、この成果を学校の生徒・教職員・地域の方々に恩返しできたらと痛感しています。 ・シニアアドバイザーの先生から、事前研修会や海外派遣研修時の訪問先へ移動中や視察後のまとめなど様々な場面で指導・助言をいただくことができた。研修を進めていく上でとても役立った。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H-1：環境教育）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開催期日	平成22年11月8日（月）～平成22年11月19日（金）				12日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	14	3	0	0	0	0	17
割合 (%)	82.4	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生が環境教育を考える上での具体的な視点を示して下さいにより、全ての訪問先において効果的に研修を進めていくことができた。 ・事前研修会で協議し準備していた調査事項などを、海外派遣研修期間中に現地でも協議の時間をしっかり取ることができたため、派遣団の中で十分に協議しながら研修を行なうことができた。 ・他県の先生方と交流し研修できたことが良かった。海外の取り組みに加え他県の先生方と色々な情報を交換しネットワークを広げることができました。 ・大変貴重な機会を与えていただき感謝しています。派遣団でまとまって効果的に海外研修を進めることができました。今後はこの経験を日々の教育活動で活かしていきたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (132ページ参照)

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H-2：環境教育）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開催期日	平成22年10月25日（月）～平成22年11月5日（金）				12日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	17	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	16	1	0	0	0	0	17
割合 (%)	94.1	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生から、事前研修会の講義でたくさんの資料を提示して頂き、スムーズに研修を進めることできた。 ・海外派遣研修中は毎日視察後のポイントをまとめてお話頂いたり、視察の視点を与えて頂いたり、目的意識をしっかりとつことができた。ミーティングでのアドバイスも的確であった。 ・普段の教育活動の中ではわからない本研修テーマに関する課題などについて、海外の多くの事例を見ることで分かることができました。この研修で得た学びを今後の教育活動に生かしたいと考えます。 ・たくさんの学校や教育施設を視察・訪問させていただき、研修テーマに関して多面的に研修することができ、大変有意義な研修となりました。時間的に難しいかもしれませんが訪問施設の研修プログラムが体験できると更によかったと思う。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり (132ページ参照)

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-1：特別支援教育）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	平成22年11月3日（水）～平成22年11月13日（土）				11日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	20	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	15	4	1	0	0	0	20
割合 (%)	75.0	20.0	5.0	0.0	0.0	0.0	
	19	95.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会ではシニアアドバイザーの先生や教員研修センター指導主事の助言により、役割分担の決定や研修事項を協議することができた。 ・シニアアドバイザーの先生には訪問先に合わせて細かい指導や助言をいただきました。お陰で訪問国の教育について多くの勉強ができました。 ・海外派遣研修は世界の動向を探り日本の教育の方向性を考える上で大変貴重な機会であった。一つの教育課題について、他県の先生と一緒に研修できたことも大きな財産となった。 ・海外派遣研修では、学校・行政機関をバランスよく視察することが出来た。また、訪問先も温かく親切に対応していただき有意義な研修とすることができた。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研 修 名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（J-1：地域の教育力の活用）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研 修 目 的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開 催 期 日	平成22年11月15日（月）～平成22年11月26日（金）				12日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	20	人	参加率	※
開 催 場 所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	16	4	0	0	0	0	20
割合 (%)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会、海外派遣研修、事後研修会でシニアアドバイザーの先生から様々なご指導やご助言を受けることができ、研修テーマに関する現状、課題、海外の取り組み、成果の活用について理解を深めることができた。 ・なかなか外国の教育制度や教育事情について学ぶ機会はないので、大変貴重な研修・体験になりました。 ・訪問国の教育省など個人では見ることのできない機関を視察することができ、多くの知見を得ることができたのも国が行う研修ならではのと感じた。今後、研修で学んだことを学校経営に反映していきたいと思えます。 ・海外派遣研修で得た訪問先の取り組み事例だけでなく、他県から参加した多くの先生方との交流を通じて得るものもとても大きいと感じた。これからの教育活動に役立てたい。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

I 研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（J-2：地域の教育力の活用）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の教職員並びに教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
開催期日	平成22年9月28日（火）～平成22年10月8日（金）				11日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	※	人	受講者数	24	人	参加率	※
開催場所	別紙のとおり							

※ 全体受講定員 500人、受講者数 307人、参加率 61.4%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	20	4	0	0	0	0	24
割合 (%)	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	24	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会でのシニアアドバイザーの指導・助言や関係資料により、派遣国の教育制度や教育事情について理解を深めることができた。また、海外の視察訪問の際も大いに役立つものであった。 ・事前研修会において研修テーマに関する現状と課題を協議し、団員が情報を共有して研修を展開するという本研修の方法は大変有効であると感じた。 ・事後研修会は、報告書作成に向けた協議や今後の研修成果の活用について情報交換を行うことで、海外派遣研修で見聞し学んだことを再確認することができてよかった。今後、本研修で学んだことを学校現場で活用していきたい。 ・海外派遣研修では、教育機関や多くの学校を訪問することで、様々な取り組みを見聞することができ、とても有意義だった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行った。 ・参加者が研修内容や研修成果の活用についての理解を深められるよう事前研修会の研修日程を工夫した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況や都道府県教育委員会等における教育課題を踏まえ、研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・研修成果の更なる活用を図るため、報告書の内容を見直し一層の充実を図るようとする。
--

IV 研修日程(プログラム)

別紙のとおり（132ページ参照）

平成22年度 教育課題研修指導者海外派遣プログラム

研修テーマ	派遣団名	人数	派遣国	派遣期間	日数	事前研修会	事後研修会
学校評価と学校改善 (2団)	A-1	16	アメリカ	11/1 ~ 11/12	12	8/9. 10 福岡	2/7. 8 福岡
	A-2	21	ニュージーランド	11/29 ~ 12/10	12	8/5. 6 東京	1/31. 2/1 つくば
国語力・読解力 (2団)	B-1	16	カナダ	10/17 ~ 10/28	12	8/9. 10 福岡	2/7. 8 福岡
	B-2	17	オーストラリア	11/22 ~ 12/3	12	7/29. 30 東京	1/31. 2/1 つくば
理数系教育 (2団)	C-1	19	オーストラリア	10/10 ~ 10/21	12	8/5. 6 東京	1/31. 2/1 つくば
	C-2	16	アメリカ	11/1 ~ 11/12	12	7/29. 30 東京	1/31. 2/1 つくば
小学校英語 (1団)	D-1	21	オランダ ドイツ	11/15 ~ 11/26	12	8/5. 6 東京	1/27. 28 つくば
生徒指導・教育相談 (2団)	E-1	17	イギリス	11/1 ~ 11/12	12	8/9. 10 名古屋	1/27. 28 名古屋
	E-2	17	カナダ	10/18 ~ 10/29	12	7/26. 27 東京	2/7. 8 つくば
キャリア教育 (2団)	F-1	15	アメリカ	11/16 ~ 11/25	10	8/10. 11 福岡	2/17. 18 福岡
	F-2	17	ドイツ	10/11 ~ 10/22	12	7/26. 27 東京	2/3. 4 つくば
心身の健康教育 (1団)	G-1	17	フランス	10/11 ~ 10/22	12	8/5. 6 東京	2/3. 4 つくば
環境教育 (2団)	H-1	17	イギリス	11/8 ~ 11/19	12	8/9. 10 名古屋	2/3. 4 名古屋
	H-2	17	ニュージーランド	10/25 ~ 11/5	12	7/26. 27 東京	1/31. 2/1 つくば
特別支援教育 (1団)	I-1	20	イギリス	11/3 ~ 11/13	11	7/29. 30 東京	1/18. 19 東京
地域の教育力の活用 (2団)	J-1	20	イギリス	11/15 ~ 11/26	12	7/27. 28 東京	2/8. 9 つくば
	J-2	24	ドイツ	9/28 ~ 10/8	11	8/2 愛媛	2/1 愛媛

I 研修概要

研 修 名	産業・理科教育教員派遣研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。							
受 講 対 象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員とする。							
開 催 期 日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）			日間				
受 講 人 数	計画人数	100	人	受講者数	55	人	参加率	55.0%
開 催 場 所	独立行政法人 農業環境技術研究所ほか（次ページのとおり）							

* 全体計画人数 100 受講者数 55 参加率 55.0%

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義で なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	50	5	0	0	0	0	55
割合 (%)	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	55	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<p>冷静に仕事に取り組みができるバックグラウンドを持つことが出来た。やはり、教員に研修は必要だと思う。懐が大きいと生徒にもそれが伝わることも多いかと思う。</p> <p>算数、数学について学ぶ事ができ、また、来年度より実施の指導要領についても研修をつむことができた。今後の算数教育に生かすことができると考える。</p> <p>新しい技術や研究を学べ、世界観が広がった。授業等で生徒への還元ができる。</p> <p>企業の人材育成の場で今回研修をさせていただき、技術者の在り方、その精神に直に触れることが出来ました。工業を学ぶ生徒と日頃接するにおいて、最も大切なことを私自身学ぶことが出来ました。</p> <p>教科指導における知識を深められたこと、また新しい技術に関する知識の習得や実習を行うことができたため、学校現場でより分かり易く実践的な授業の実施が行えると考えます。</p> <p>今まで疑問に思いながら忙しくて手を付けられなかったことを学ぶ機会を得た点。専門の力を深めたことで、より生徒に理解すべきポイントを分かり易く説明できる点。そして、自身の人脈を広げることで生徒の進路にもよい影響を与えられるのではないかとという点が挙げられる。</p> <p>色々な意味で役立つと思うが、学校現場にマッチしないものも時々ある。個人として身につける知識・技術なのか、伝達すべき為に知識・技術を習得しているのか、いまいち本研修の意図がハッキリしないのは残念だった。</p> <p>機器分析中心であったので、高校にはその設備がない。しかし、なかには高校でも実施できる内容の実験も少しある。</p>

III 研修内容・方法の見直し等

<p>平成22年度においても実地経費については、全額派遣者負担とした</p> <p>実施経費については、引き続き全額派遣者負担とする 推薦依頼を都市が明ける前に発出し、派遣先と派遣元が研修カリキュラムを作成する時間を十分にとることができるようにする</p>
--

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 産業・理科教育教員派遣研修 研修派遣一覧

No	都道府県	派遣人数	派遣先			
			所 属	派遣先	派遣時期	期間
1	岩手県	1	盛岡市立大宮中学校	国立大学法人 岩手大学	H22.9.1～H22.11.30	3ヶ月
2	福島県	2	福島県立喜多方高等学校	国立大学法人 福島大学	H22.7.1～H22.9.30	3ヶ月
3			福島県立浪江高等学校津島校	国立大学法人 福島大学	H22.7.1～H22.9.30	3ヶ月
4	栃木県	12	宇都宮市立若松原中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H22.10.1～H23.3.31	6ヶ月
5			上三川町立明治中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H22.4.1～H22.9.30	6ヶ月
6			真岡市立久下田小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H22.4.1～H22.9.30	6ヶ月
7			下野市立南河内第二中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H22.4.1～H22.9.30	6ヶ月
8			那須塩原市立日新中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H22.10.1～H23.3.31	6ヶ月
9			佐野市立下彦間小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H22.4.1～H22.9.30	6ヶ月
10			大田原市立佐良土小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H22.4.1～H22.9.30	6ヶ月
11			栃木県立宇都宮白楊高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H22.10.1～H23.3.31	6ヶ月
12			栃木県立益子芳星高等学校	文星芸術大学	H22.4.1～H22.9.30	6ヶ月
13			栃木県立那須清峰高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H22.10.1～H23.3.31	6ヶ月
14			栃木県立栃木商業高等学校	大原簿記専門学校	H22.4.1～H22.9.30	6ヶ月
15			栃木県立鹿沼商工高等学校	駒澤大学	H22.10.1～H23.3.31	6ヶ月
16	群馬県	1	群馬県立中之条高等学校	国立大学法人 群馬大学	H22.4.1～H23.3.31	12ヶ月
17	神奈川県	6	三浦市立南下浦中学校	国立大学法人 横浜国立大学	H22.7.10～H22.9.25	3ヶ月
18			神奈川県立舞岡高等学校	国立大学法人 横浜国立大学	H22.7.10～H22.9.25	3ヶ月
19			神奈川県立横須賀工業高等学校	国立大学法人 横浜国立大学	H22.7.10～H22.9.25	3ヶ月
20			神奈川県立弥栄高等学校	国立大学法人 横浜国立大学	H22.7.10～H22.9.25	3ヶ月
21			神奈川県立川崎高等学校(定時制)	国立大学法人 横浜国立大学	H22.7.10～H22.9.25	3ヶ月
22			神奈川県立鎌倉養護学校	国立大学法人 横浜国立大学	H22.7.10～H22.9.25	3ヶ月
23	長野県	1	長野県岡谷工業高等学校	国立大学法人 信州大学	H22.5.1～H23.3.31	11ヶ月
24	愛知県	4	愛知県立安城農林高等学校	愛知県農業総合試験場	H22.6.1～H22.11.30	6ヶ月
25			愛知県立小牧工業高等学校	株式会社豊田自動織機 技能専修学園	H22.7.1～H22.9.30	3ヶ月
26			愛知県立半田商業高等学校	学校法人名古屋安達学園 名古屋観光専門学校	H22.10.1～H22.12.28	3ヶ月
27			愛知県立犬山南高等学校	国立大学法人 名古屋大学	H22.4.1～H22.9.30	6ヶ月
28	三重県	1	三重県立明野高等学校	社団法人 日本生花通信配達協会 JFTD学園日本フラワーカレッジ	H22.4.1～H23.3.31	12ヶ月
29	京都府	1	京都府立洛西高等学校	国立大学法人 京都大学	H22.4.1～H23.3.31	12ヶ月
30	大阪府	1	大阪府立西野田工科高等学校	大阪工業大学	H22.4.1～H23.3.31	12ヶ月
31	奈良県	1	奈良市立一条高等学校	国立大学法人 奈良女子大学	H22.7.21～H22.8.31	2ヶ月
32	和歌山県	1	和歌山県立和歌山商業高等学校	大原簿記情報法律専門学校	H22.4.1～H23.3.31	12ヶ月
33	島根県	1	島根県立情報科学高等学校	国立大学法人 島根大学	H22.4.1～H23.3.31	12ヶ月
34	山口県	4	山口市立宮野中学校	国立大学法人 山口大学	H22.8.1～H22.10.31	3ヶ月
35			柳井市立柳井中学校	公立大学法人 山口県立大学	H22.9.1～H22.11.30	3ヶ月
36			山口県立山口中央高等学校	国立大学法人 山口大学	H22.7.1～H22.9.30	3ヶ月
37			山口県立岩国商業高等学校	独立行政法人国立高等専門学校機構 大島商船高等専門学校	H22.7.1～H22.9.30	3ヶ月
38	徳島県	1	徳島県立小松島西高等学校	学校法人平成学園 平成調理師専門学校	H22.4.1～H23.3.31	12ヶ月

No	都道府県	派遣人数	派 遣 先			
			所 属	派遣先	派 遣 時 期	期 間
39	高知県	3	高知県立高知農業高等学校	国立大学法人 高知大学	H22. 10. 1 ~ H23. 3. 31	6 ヶ月
40			高知県立高知農業高等学校	高知県工業技術センター	H22. 10. 1 ~ H23. 3. 31	6 ヶ月
41			高知県立宿毛工業高等学校	高知工科大学	H22. 4. 1 ~ H22. 9. 30	6 ヶ月
42	福岡県	1	福岡県立香椎高等学校	香蘭女子短期大学	H22. 4. 1 ~ H23. 3. 31	12 ヶ月
43	佐賀県	7	佐賀県立佐賀農業高等学校	佐賀県畜産試験場	H22. 9. 1 ~ H23. 2. 28	6 ヶ月
44			佐賀県立伊万里農林高等学校	佐賀県林業試験場	H22. 7. 1 ~ H22. 12. 31	6 ヶ月
45			佐賀県立鳥栖工業高等学校	福岡工業大学	H22. 10. 1 ~ H23. 3. 31	6 ヶ月
46			佐賀県立鳥栖商業高等学校	大原簿記情報専門学校	H22. 10. 1 ~ H23. 3. 31	6 ヶ月
47			佐賀県立伊万里商業高等学校	特定非営利法人 鳳雛塾	H22. 4. 1 ~ H22. 9. 30	6 ヶ月
48			佐賀県立神埼清明高等学校	学校法人電子開発学園 九州KCS福岡情報専門学校	H22. 4. 1 ~ H22. 9. 30	6 ヶ月
49			佐賀県立牛津高等学校	学校法人永原学園西九州大学佐賀調理製菓専門学校	H22. 4. 1 ~ H23. 3. 31	12 ヶ月
50	長崎県	1	長崎県立小浜高等学校	税理士法人 アップパートナーズ	H22. 8. 2 ~ H22. 8. 30	1 ヶ月
51	熊本県	3	熊本県立荒尾高等学校	国立大学法人 熊本大学	H22. 4. 1 ~ H23. 3. 31	12 ヶ月
52			熊本県立玉名工業高等学校	熊本県立技術短期大学校	H22. 4. 1 ~ H23. 3. 31	12 ヶ月
53			熊本市立本荘小学校	国立大学法人 熊本大学	H22. 4. 1 ~ H23. 3. 31	12 ヶ月
54	宮崎県	1	宮崎県立延岡工業高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H22. 10. 1 ~ H22. 12. 28	3 ヶ月
55	札幌市	1	北海道札幌平岸高等学校	国立大学法人 北海道大学	H22. 9. 1 ~ H22. 11. 30	3 ヶ月
56	横浜市	1	横浜市立仲尾台中学校	国立大学法人 横浜国立大学	H22. 7. 10 ~ H22. 9. 25	3 ヶ月
57	愛知県	1	愛知県立一宮高等学校	修文大学 短期大学部	H22. 9. 24 ~ H22. 12. 22	3 ヶ月
合計		57				

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業：A-1） 「生物活用及びグリーンライフに関する講義と実習」							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開催期日	平成22年8月9日（月）～平成22年8月13日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	18	人	参加率	72.0%
開催場所	三島市商工会議所会議室（静岡県三島市）							

※ 全体受講定員 305 人、受講者数 266 人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	14	4	0	0	0	0	18
割合 (%)	77.8	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	18	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・生物活用について様々な内容を学び、実際的な交流も体験でき、大変有意義でした。 ・「生物活用」「グリーンライフ」の評価について、他校、全国の先進的な取り組みについて、知ることが出来ました。 ・農業教育に対して、生産や技術的な部分のみを考えていたが、研修を受けて、コミュニケーションやコンセプトスキルといった考え方を入れた教育を考えていきたい。 ・多岐に渡る講義・演習内容で充実しており、今後の教育活動に生かすと共に普及活動に努めていきたい。 ・普段お会いする事の無い他県の先生方と様々な話をする事が出来ました。 ・生徒の思考力、判断力、表現力等を伸ばすための工夫点を学びたいと考えていたが、研修を重ねていくうちに解決へのヒントが見つかったように思いました。 ・今まで、交流活動をこなしていくだけになっていましたが、企画の段階から支援者、交流者の目的をしっかりと立てていかなければ効果が上がらないと強く感じました。 ・講師の先生方のお話がとても面白くて勉強になりました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(農業, A-1)

団体名 全国農業高等学校長協会

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月 9日 (月)	受付：集合	開講式 オリエン テーショ ン	生物活用・グ リーンライ フの意義と動向 添野・講1	昼休み	自己紹介・交流プログラム紹介 久保田 研究協議 2.5			事例発表 長野県南安曇農業 高校の取り組み 羽山・講 1.5	諸 連 絡
10日 (火)	講義 園芸の特質と 活用 豊田・講1	生徒の評価・ 観点別評価 豊田・演1	交流活動の進め 方① 久保田・講1	昼休み	交流活動の進め 方② 久保田・講1	講義と演習 ファシリテーション法とは 森・講2		インタープリテ ーション法 久保田・講1	諸 連 絡
11日 (水)	グリーンツーリズムの 実際 豊田ゆ・講 1.5	幼児・児童との園 芸活動～食育菜園 ～ 堀口・講 1.5		昼休み	市民農園の実際 粕谷・講 1.5	プログラミング演 習①テーマ設定 久保田・演 1.5		生物活用グリー ンライフ評価の 具体例 久・講1	諸 連 絡
12日 (木)	交流プログラ ムのシミュレ ーション 久・講1	障害者に対する園芸 実習 久保田 実2 田方農業高校		昼休み	幼児・児童に対する園芸 実習 久保田・ 実2 田方農業高校	プログラミング演習② 活動と評価 久保田・ 演2			諸 連 絡
13日 (金)	生物活用・新しい授業展開 の可能性 久保田・ 実2		閉講式						

実施会場：三島市商工会議所会議室・田方農業高等学校

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業：B-1） 「先端ロボット技術に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成22年8月3日（火）～平成22年8月6日（金）				4日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	24	人	参加率	120.0%
開 催 場 所	富士ソフトアキバプラザ（東京都千代田区）							

※ 全体受講定員 305人、受講者数 266人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	15	9	0	0	0	0	24
割合 (%)	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	24	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方では体験することのできない先端技術を見ることができ、大変勉強になりました。 ・ 本研修で学んだ事を生徒に伝えて、次代を担う技術者を育てていきたいと思います。 ・ 世界や国の（工業）教育をめぐる動向から、ロボット技術の最前線やロボット実習についての教材の活用方法や導入や展開・応用方法のヒントを頂くことができ大変有意義でした。 ・ 日本各地の先生方と知り合いになれ情報交換できたのが有意義でした。 ・ すぐに教材化する事は難しいと思いますが、この研修の内容が様々な工業教育の中に活かされていけばと思います。 ・ 知識が豊富な方に教えていただいたので、私も今後勉強する目標が出来た。 ・ パロールの実習は大変面白く、高校におけるロボット工学をどうするべきかを考えるきっかけとなった。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度産業・技術情報技術等指導者養成研修 日程表

(工業, B-1)

団体名 富士ソフト株式会社

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月3日 (火)					受付	開校式	(講演) 文部科学省 池守調査官	(講義／実習) Bioloid事前準備	
8月4日 (水)	(講義／実習) Bioloidを使ったロボットアームによる実習			昼休み	(講義／実習) Bioloidで歩行ロボットによるモーション学習とプログラミング				
8月5日 (木)	(講義／実習) Palro使ったロボット実習、基本設定と機能紹介			昼休み	(講義／実習) Palro使ったロボット実習、詳細設定と機能体験				
8月6日 (金)	(見学) ソフトウェア開発現場視察		閉校式						

研修実施場所： 富士ソフトアキバプラザ

※受講日初日の受付は、13:00からとなります。

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業：B-2） 「知的財産教育に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成22年8月2日（月）～平成22年8月6日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	12	人	参加率	60.0%
開 催 場 所	独立行政法人 工業所有権情報・研修館研修教室（東京都千代田区）							

※ 全体受講定員 305人、受講者数 266人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	11	1	0	0	0	0	12
割合 (%)	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	12	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・知財に関する法律や学校教育への展開事例、演習と、大変内容豊富で充実した研修でした。 ・研修に参加して、知財教育の中心が「発想」であることが分かり、今後、知財教育をどの様に発展したらよいか見えてきたような気がします。 ・研修で学んだ事を本県に持ち帰り、知財教育を普及していくと共に、より良い教育を目指し頑張りたいと思っております。 ・知財教育の現状、他県の取り組みの現状等、色々と理解でき大変有意義な研修になりました。 ・梅野教頭先生の企業の改善活動を取り入れた方法はすぐに2学期に実践してみたいと考えています。 ・普段見ることのできない特許庁など見ることが出来、とても勉強になりました。 ・研修に一度参加しただけでは消化しきれない部分もあったので、機会があれば是非もう一度参加したいと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修(工業:B-2)日程表

月日	時間	研修科目	時間数	講師	研修会場
	開始～終了			役職	
8/2 (月)	10:00～10:20	開講式 オリエンテーション		文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官(教科調査官) 池守 滋	114号室 (経産省別館1階)
	10:30～11:20	高等学校における知財教育	1	文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官(教科調査官) 池守 滋	
	11:30～12:20	特許法の概要	3	辻田特許事務所 弁理士 辻田 幸史	
	13:30～14:20				
	14:30～15:20				
	15:30～16:20	意匠法・商標法の概要	3	東京理科大学専門職大学院 准教授 鈴木 公明	
	16:30～17:20				
	17:30～18:20				
18:30～20:00	懇親会				
8/3 (火)	9:30～10:30	著作権法の概要	3.5	東海大学法科大学院 教授・弁護士 角田 政芳	114号室 (経産省別館1階)
	10:40～11:50				
	13:00～14:10				
	14:30～15:30	IPDL検索演習	3	(独)工業所有権情報・研修館 情報提供部 特許電子図書館担当 主査 安野 猛	
	15:40～16:40				
16:50～17:50					
8/4 (水)	9:30～10:20	不正競争防止法の概要	2	経済産業省 経済産業政策局知的財産政策室 総括係長 川崎洋右	114号室 (経産省別館1階)
	10:30～11:20				
	11:30～12:20	営業秘密の保護及び営業秘密 管理指針の概要	1	経済産業省 経済産業政策局知的財産政策室 企画第一係長 斉藤 眞	
	13:30～14:20	知的財産教育の意義 —DVD取材制作に関わって—	2	全国知財・創造教育研究会 会長 籠原裕明	
	14:30～15:20				
	15:30～16:20	知財教育の実施例①	2	鹿児島県立加治木工業高校 教諭 大保 智	
16:30～17:20					
8/5 (木)	9:30～10:30	(特許庁庁内見学)			特許庁
	10:40～11:50				
	13:00～13:40	知的財産教育とその実践	2	愛媛県立東予高等学校 教頭 内藤 善文	114号室 (経産省別館1階)
	13:50～14:30				
	14:40～15:40	知財教育の実施例②	1	福岡県立小倉工業高校 教諭 古谷 浩伸	
15:50～17:20	知財教育の実施例③	1.5	東海大学付属仰星高等学校・中等部 高校教務主任 宇都口 英樹		
8/6 (金)	9:30～10:20	知財カリキュラム設計について (グループ討論・発表)	3	鹿児島県教育庁高校教育課 課長補佐 主任指導主事 満丸 浩	114号室 (経産省別館1階)
	10:30～11:20				
	11:30～12:20				
	13:20～14:10	知財教育の演習	2	長崎県立長崎工業高等学校 教頭 梅野 剛	
	14:20～15:10				
15:20～15:30	閉講式		(独)工業所有権情報・研修館 (独)教員研修センター		

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（商業：C-1） 「マーケティングと商品開発に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成22年7月26日（月）～平成22年7月30日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	40	人	受講者数	44	人	参加率	110.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 305 人、受講者数 266 人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	35	7	0	0	2	0	44
割合 (%)	79.5	15.9	0.0	0.0	4.5	0.0	
	42	95.5					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・新しい教育課程を作成しなければならないこの時期に、大変参考になる内容の研修でした。 ・現在の企業や社会の構造（考え方等）を知ることが出来たり、企業や他校の最先端の実務例を学ぶことが出来、とても参考になった。 ・研修も1つ1つ充実して得るものも多く、今後の授業展開に生かしていきたいと考えています。 ・新学習指導要領で「商品開発」という科目が導入されるにあたり、先進校で行われている事例、大学、企業でのプロセスなど十分な情報を提供していただきました。 ・大学の先生方が意欲的に高校現場に対し関心を持ち、大学の知識を実学として高校にフィードバックしようという気持ちが伝わってきて、私達もやる気が出てきたような感じがします。 ・紹介された企業、NPO、大学、高校ともにマーケティングの概念をすすんで取り入れており、これからの商業教育のあり方を考える上で大切なヒントをいただいたと思っております。 ・他県の先生方と交流を行い、意見を交換することはとても重要で大切だと思います。 ・今後とも商業教育の発展にこのような研修を続けて、各県でリーダーとなれるような教員育成をしていただきたいと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修日程表

(商業, C-1)

団体名 千葉商科大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
7月26日 (月)					受付 開講式	(講義) 「マーケティング活動を通じたCSR：企業と社会を考える」	(講義) 「消費者行動とマーケティング」				
7月27日 (火)	(講義) 「商業高校における起業家教育とケースメソッドについて」				昼休み	(講義) 「化粧品企業のブランドマーケティング」					
7月28日 (水)	(実習) A班「商品のソフト化と消費技術1」 B班「商品開発の視点からの実験実習の活用について1」			昼休み	移動	(見学と講義) 「文具・事務用品企業における顧客視点の商品開発」			現地 解散		
7月29日 (木)	(実習) A班「商品開発の視点からの実験実習の活用について2」、B班「商品のソフト化と消費技術2」			昼休み	(講義) 「商品開発と知的財産権」						
7月30日 (金)	(講義) 「企業と生徒が向き合う教室～雪花菜工房の事例から～」			昼休み	(講義)「次代を見すえた商業教育について」	閉 講 式					

実施会場 千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（水産：D-1） 「海洋環境の保全に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成22年8月23日（月）～平成22年8月27日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	15	人	受講者数	8	人	参加率	53.3%
開 催 場 所	茨城県立海洋高等学校（茨城県ひたちなか市）							

※ 全体受講定員 305 人、受講者数 266 人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	6	2	0	0	0	0	8
割合 (%)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	8	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> この研修で学んだスキルを学校に戻り教育活動に還元させたいと考えます。 ダイビングはレジャーでは大変楽しまれていますが、半面危険も伴っており、この危険を再認識することが出来ました。 指導者として不足している自己の課題を見つけ、また指摘していただけたことは大変有難く思いました。 夜遅くまで茨城県立海洋高校の宮木先生、スタッフの皆様に指導頂き、感謝します。 講師の先生には、スクーバダイビングに関することも教育者として考えさせられるところも多々ありました。 もう少し実技講習を増やして欲しいです。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修日程表

(水産、D-1)

団体名 財団法人社会スポーツセンター

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
8/23 (月)	開講式	(講義) 潜水計画と指導計画 1 海況判断 (3h)			昼休み	準備	(講義、実習) ダイビングにおける水泳・フィン 泳力とスキndaイビングの必要性 (3h)			夕食/休憩		自由練習	
8/24 (火)	筆記テスト	(講義) 潜水医学 減圧症と再圧治療および メディカルチェック (3h)			昼休み	準備	(講義、実習) 潜水計画と指導計画 2 (指導実践) (3h)			夕食/休憩		自由練習	
8/25 (水)	筆記テスト	(講義、実習) 救急蘇生指導法 (3h)			昼休み	準備	(講義、実習) スノーケリング指導法 (3h)			夕食/休憩		自由練習	
8/26 (木)	筆記テスト	(講義、実習) 基礎泳力指導法 (3h)			昼休み	準備	(講義、実習) スクーバ指導法 (3h)			夕食/休憩		自由練習	
8/27 (金)	筆記テスト	(講義、実習) スキndaイビング指導法および レスキュー法 (3h)			昼休み	(実技検定) 40m水平閉息潜水 400mフリッパー 10分間クロール泳 スクーバ水中脱着 (3h)		片付け	閉校式				

実施会場:茨城県立海洋高等学校

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（水産：D-2） 「水産食品技術に関する講義と実習」							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開催期日	平成22年8月9日（月）～平成22年8月13日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	15	人	受講者数	10	人	参加率	66.7%
開催場所	福井県立大学小浜キャンパス（福井県小浜市）							

※ 全体受講定員 305 人、受講者数 266 人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	9	1	0	0	0	0	10
割合 (%)	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	10	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・地方の水産小都市を会場としての研修は、その他の特色ある水産を理解することが出来、大変有意義であった。
- ・日頃考えても、なかなか実践できないことを体験、学ぶことが出来ました。
- ・大学での講義をはじめ、様々な施設見学や実習をさせていただき、大変勉強になりました。
- ・学校へ戻り、生徒への教育に還元していきたいと思っています。
- ・食育活動に町が中心となって、取り組んでいることに驚きました。
- ・とても勉強になり、改めて水産教育の素晴らしさを実感しました。
- ・また機会があれば是非参加したいと思っています。
- ・大学で学生をいかに育てるか、教育の質をどうやって保障するか、この取り組みを知ることが出来たことが大きな成果でした。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。

次年度に向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 22 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(水産, D-2)

団体名 福井県立大学海洋生物資源学部

日時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月9日 (月)					受付 開講式 オリエンテー ション	基調講義 食を育む山川里海 の連関と大学・高 校・地域の連携	休憩		講義1 地域伝統食品の 科学Ⅰ	講義2 地域伝統食品の 科学Ⅱ	質疑応答	
8月10日 (火)					講義3 食の安心・安全とは 何か?	見学1 缶詰工場	休憩		講義4 食品の安全を 脅かす危害因子	実習1 危害因子に関する 実習	質疑応答	
8月11日 (水)					見学2 研究施設	見学3 養殖場	休憩		見学4 食育推進施設	実習2 食育推進施設に おける調理実習	質疑応答 試食	
8月12日 (木)					見学5 衛生管理型卸売市場	講義5 市場流通と トレーサビリティ	休憩		実習3 HACCP認定施設における 食品加工技術教育			
8月13日 (金)					情報交換会 質疑応答	閉 講 式						

実施会場：福井県立大学小浜キャンパス

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：E-1） 「新学習指導要領に対応した「生活産業基礎」の指導力向上のための講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成22年7月20日（火）～平成22年7月23日（金）				4日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	17	人	参加率	56.7%
開 催 場 所	全国高等学校長協会家庭部会事務局等（東京都千代田区）							

※ 全体受講定員 305 人、受講者数 266 人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	13	4	0	0	0	0	17
割合 (%)	76.5	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く衣食住の分野で勉強できたのでよかったです。 ・ 本当に有意義な研修であり、県に戻り先生方そして生徒に役立てたいと思います。 ・ それぞれの分野における第一人者による講義は、新しい視点を獲得する貴重な時間となりました。 ・ 研修の中に教育現場以外の企業人の講義があり、物事を見る目が広く深まり、大変に興味深く拝聴しました。 ・ 本を読んで勉強したのではできないことを学べたと思います。 ・ 県外の先生方と一緒に参加できる機会はそうそうないので、少しですがお話しもできて良かったです。 ・ 小グループを作ってディスカッションする授業があると良かったです。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程(家庭:E-1)

Aコース

全国高等学校長協会家庭部会

月日(曜)	午前1(9時30分～11時)		午前2(11時～12時30分)		昼休み	午後1(13時30分～15時00分)		午後2(午後15時00分～16時30分)		備考
	9:30	10:00	11:00	12:00		13:30	14:30	15:30	16:00	
1 7月20日 (火)	【開講式】	【講義】 「学習指導要領の改訂とこれからの家庭科教育」 文部科学省教科調査官 望月 昌代	【講義】 「高等学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方」 千葉商科大学 教授 鹿嶋 研之助			【実践事例】 「スペシャリストの育成をめざして」 兵庫県立西脇高等学校 教員 藤原 容子	【実践事例】 「家庭学科の活性化と充実-目指せスペシャリスト事業に取り組みたい-」 青森県立百石高等学校 教員 鈴木 真弓	【講義】 「教師としての専門性を高めるために」 前岡山県立倉敷中央高等学校長 岡山大学特任教授 古川 英巳		全国高等学校長協会家庭部会事務局会議室(千代田区)
2 7月21日 (水)	【講義】 「食品開発の最前線-食文化と商品開発-」 サントリー(株)執行役員 飲料開発設計部長 高橋 賢蔵		【講義】 「現代の食生活とその課題」 独立行政法人国立健康・栄養研究所 国際栄養プロジェクトリーダー 笠岡(坪山) 宣代		13:20 【講義】 「おいしさを科学するⅠ-地域性を越えた食品開発のグローバルセッション-」 学校法人食糧学院 学院長 佐藤 浩		【実習・実験】 「おいしさを科学するⅡ-ゲル化素材の応用と調理-」 東京栄養食糧専門学校 専任教員 佐川 敦子	【実習・実験】 「おいしさを科学するⅢ-生活習慣病予防や高齢社会介護予防と栄養管理の実践-」 東京栄養食糧専門学校教授 井上 典代		東京栄養食糧専門学校(世田谷区)
3 7月22日 (木)	学長挨拶 【講義】 「繊維・アパレル産業の流通と流れ-産業と職業-」 杉野服飾大学 教授 山崎光弘	【講義】 「ファッションビジネス-商品企画-」 杉野服飾大学 教授 鈴木 明	【講義】 「商品検査と品質表示」 杉野服飾大学 准教授 軽部 幸恵		13:15 【実習・演習】 「色彩演習」 杉野服飾大学 教授 樽松 次郎		【講義】 「ウオルト・イブニングドレスの復元について」 杉野服飾大学教授 鈴木 美和子 吉川 玲子	【見学】 衣裳博物館 杉野服飾大学教授 鈴木美和子		杉野服飾大学(品川区)
4 7月23日 (金)	【講義】 「住宅産業の現状と展望-近未来の住宅像」 積水ハウス(株)温暖化防止研究所長 石田 建一		【講義・見学】 「最近の住居と住まい方-最新の住まい提案を体験・体感-」 積水ハウス(株)関東工場 佐藤 一昭 元榮 先人		【実習】 「住まいづくりを楽しむ-快適な住空間作りの実習 インテリア・収納・色彩-」 積水ハウス(株)総合住宅研究所納得工房 インテリアコーディネーター 色彩コーディネーター 五十嵐 ひとみ		【閉講式】			積水ハウス関東・住まいの夢工場(茨城県古河市)

平成22年度 産業・情報技術等指導者養成研修日程(家庭:E-1)

Bコース

全国高等学校長協会家庭部会

月日(曜)	午前1(9時30分～11時)		午前2(11時～12時00分)		昼休み	午後1(13時00分～15時00分)		午後2(午後15時00分～16時30分)	備考	
	9:30	10:00	11:00	11:30		13:00	14:00			14:30
1 7月20日 (火)	【開講式】	【講義】 「学習指導要領の改訂」 文部科学省 教科調査官 望月 昌代	【講義】 「高等学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方」 千葉商科大学 教授 鹿嶋 研之助			移動		【講義】 「服飾文化の伝統」 「和装の知識・種類」 装道礼法きもの学院 助教授 藤森 敦子	片付け	午前:全国高等学校長協会家庭部会事務局会議室(千代田区)午後:装道礼法きもの学院(千代田区)
2 7月21日 (水)	【講義】 「装道の精神美学」 (社)全日本きものコンサルタント協会 会長 山中 典士					【講義】 「礼法・日常のマナー」 装道礼法きもの学院 副学院長 山中 緑		【講義】 「伝統の染織-一産地の染織品紹介-」 装道礼法きもの学院	片付け	装道礼法きもの学院(千代田区)
3 7月22日 (木)	【講義】 「和装の通過儀礼・生活文化」 装道礼法きもの学院 助教授 藤森 敦子		【礼法実技】 「日常のマナーの実践」 装道礼法きもの学院 副学院長 山中 緑			【着装実技】 「着装の基本～仕上げ」 装道礼法きもの学院 副学院長 松田 美恵子		【質疑応答】 【記念撮影】	【閉講式】	装道礼法きもの学院(千代田区)

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：E-2） 「子どもの発達の特長や発達過程及び高齢者の生活と介護にかかわる講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成22年7月26日（月）～平成22年7月29日（木）				4日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	14	人	参加率	70.0%
開 催 場 所	東京福祉大学池袋キャンパス（東京都豊島区）							

※ 全体受講定員 305 人、受講者数 266 人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	3	10	1	0	0	0	14
割合 (%)	21.4	71.4	7.1	0.0	0.0	0.0	
	13	92.9					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 自分ひとりでの教材研究では決して聞けない話や、実習ばかりでとてもよかったです。 以前から興味があった発達障害についての講義をとっても興味深く拝聴しました。 3分野（保育、発達障害、福祉）の講義が一度の研修の中で聞くことができ、大変有意義でした。 研修を通し、他県の先生方と情報交換できたことが、大変有意義であった。 自分の見知っている内容でも、視点・角度を変えるだけで、こんなにも興味深く新鮮な内容になることに驚きを感じました。 具体的に生徒に即時に提示できるような資料データの配布、演習・ワーク等があれば良かったと感じました。 介護実習などはなかなか体験できないので、このような機会にもっといろいろと学びたかったです。 内容を厳選してじっくり行った方が実りがあるのではないのでしょうか。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭：E-2)

団体名 東京福祉大学

日 時	9:30	45	11	12	12:30	13:30	15	16	16:30	17
7月26日 (月)	受	開	(講義) 新学習指導要領 における指導の 在り方	(実習・講義) 保育実践理解と保育 体験学習指導のポイ ント 太田節子・澤井洋子	昼休み	(講義) 子育て支援の現状と 課題 荒牧美佐子	(講義及び討論) 現代の乳幼児の生活と 保育者の役割 関口はつ江			
7月27日 (火)		(講義) 気になるこどもの理 解 ―小児精神科医 からみた理解― 広瀬宏之	(講義) 発達障害のこども の発達の特徴 若葉陽子	昼休み	(講義) 気になるこどもの発 達過程 是枝喜代治	(講義) 思春期における発達障 害の問題 高橋智・田部絢子	(まとめ) 討議			
7月28日 (水)		(講義) 福祉に携わる者に求め られる資質と能力 岡田稔	(講義) 高齢期の生活と課題 山下喜代美	昼休み	(講義) 高齢者の自立支援 岡田稔	(講義・実習) 介護技術の基本 ① 「コミュニケーション の方法」 荻野基行				
7月29日 (木)		(講義) 高齢社会の現状と課題 金貞任	(講義・実習) 介護技術の基本 ② 「起居動作におけ る介護」 前川美智子	昼休み	(講義・実習) 介護技術の基本 ③ 「移動動作における 介護」 前川美智子	(まとめ) 討議 閉講式				

実施会場： 東京福祉大学 池袋キャンパス

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護：F-1） 「看護師教育の新カリキュラムに対応した教育内容とその教授法に関する講義と実習」						
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ						
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。						
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等						
開 催 期 日	平成22年8月2日（月）～平成22年8月6日（金）				5日間		
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	20	参加率	80.0%
開 催 場 所	川崎医療福祉大学（岡山県倉敷市）						

※ 全体受講定員 305 人、受講者数 266 人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	15	5	0	0	0	0	20
割合 (%)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 広範囲にわたり、またフライトナースなど新しい最先端の取り組み等、貴重な話をきくことができ、とても有意義な研修でした。 ・ 看護学のみならず、社会学や教育学なども学ぶ必要があることを教授され、改めて看護の奥深さや人を育てることの難しさを感じました。 ・ 生活指導だけでなく、キャリアアップや特定看護師についても知らせることができそうです。 ・ 看護学を教えているのは勿論ですが、人間を育てているんだという思いを、この研修を通して強く感じました。 ・ 高等学校の教育の上で生涯学習の拡がりを理解し、学習の動機づけの一助として活用していきたいと考えました。 ・ 大学の先生方の学習に対する姿勢は今一度自分に振り返り、今後の生活の中で生かしていきたいと再認識しました。 ・ 生徒に新しい情報を伝えたいと思いますし、学校に帰ってから研究報告をしていきたいです。 ・ 協議・演習の枠組みを関連づけた日程などにしていただけると良いのではないかと思います。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修 研修日程表

看護 (F-1)

1. 期 間 平成22年8月2日(月)～平成22年8月6日(金)
2. 会 場 学校法人 川崎学園 川崎医療福祉大学
〒701-0193 岡山県倉敷市松島 288 番地
電 話：086-462-1111 (担当：津島 内線：54903)、F A X：086-464-1109
3. 講習時間 午前の部 9：30～12：30
午後の部 13：30～16：30
4. 講習内容

		9:30	10:00	10:30	11:00	12:30	13:30	14:30	15:00	15:30	16:30	
8月2日 (月)	受付	開講式			「看護ケアの本質」 川崎医療福祉大学長 岡田 喜篤	昼食	「看護基礎 教育の動向」 文部科学省 教科調査官 大橋 泰久	「医療情報化 の動向」 川崎医療福祉大学 医療福祉マシ ン学習部 医療情報学科 教授 岡田 美保子	「看護教育 に関する グループ ワーク」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 山本 八千代 学科長 津島 ひろ江 教授 竹田 恵子 教授 鈴木 江三子			
8月3日 (火)	「カリキュラム改正と 臨地実習指導」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 竹田 恵子			「看護領域における 薬理学教育のあり方」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 守屋 文夫	昼食	「看護職のキャリア 開発」 西南女学院大学 保健福祉学部 看護学科 教授 飯野 英規	「看護過程と看護情報 の共有化1」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 伊東 美佐江					
8月4日 (水)	「母性看護学 教授法」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 鈴木 江三子			「疾患のある子どもを とりまくチーム医療」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 中新 美保子	昼食	「救急医療と フライトナース」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 小濱 啓次	「看護実践の中の 倫理」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 山本 八千代					
8月5日 (木)	「看護管理と 卒後教育の あり方」 川崎医科大学附属 病院看護部長 千田 美智子		「川崎医科大学附属病院 卒後臨床研修 センター実習」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 講師 大倉 美徳 准教授 松本 啓子			昼食	「私が受けた国際看護 教育について」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 講師 服鳥 景子	「看護過程と看護情報 の共有化2」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 伊東 美佐江				
8月6日 (金)	「地域・在宅看護学 —公的サービスと その評価—」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 教授 三徳 和子			「地域・学校看護学 —包括的地域ケア システム—」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科長 津島 ひろ江		昼食	「科学的根拠に 基づいた看護 実践能力の育成 をめざして」 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 講師 掛田 崇寛	ま と め	閉講式			

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報：G-1） 「ネットワークシステムの構築・運営管理とシステム設計に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成22年7月26日（月）～平成22年7月30日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	25	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）							

※ 全体受講定員 305 人、受講者数 266 人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	19	6	0	0	0	0	25
割合 (%)	76.0	24.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークやWebサーバの構築等は管理者にならなければ必要ないと思っていたが、新学習指導要領では生徒達にも指導しなければならない事を考えると大変参考になった。 ・今回の研修に参加して、ハードを理解する上でもソフトの理解を深めていく必要性を痛感しました。 ・講習だけでなく、先生方とのネットワークも広がり、とても有意義な研修となりました。 ・全国から一同に集う研修は大切なことであり、現場にも必ず還元されると考えており、次の機会があれば、また是非参加したい。 ・報告書作成のための資料として講義で配布された全て電子データを用意いただき、とてもうれしいです。 ・内容的にもう少し的を絞りと、短期間集中で開催した方が、より現場等に還元できると感じました。 ・商業系の先生方向けと、工業系の先生方向けに分離させて、この研修を実施されると実りがなお多いと感じました。 ・クラウド時代に必要なネットワーク経由のアプリケーションは大変よかったが、スタンドアローンのシステム開発より、よりネットワークに特化した研修を行って欲しいです。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度 産業・情報技術等指導者養成研修 日程表
(情報, G-1)

団体名 千葉商科大学

日時	9	10	11	12	13	14	15	16
7月26日 (月)	開 講 式	(講義実習) ネットワークの基礎 (物理ネットワーク)	(講義実習) ネットワークの基礎 (物理ネットワーク)	昼 休 み	(講義実習) ネットワークの基礎 (IPネットワーク)	(講義実習) ネットワークの応用 (ファイルサーバー構築)		
7月27日 (火)	(講義実習) Webサーバーの構築	(講義実習) HTMLの基礎	昼 休 み	(講義実習) HTMLの基礎	(講義実習) HTMLの基礎			
7月28日 (水)	(講義実習) Accessによるシステム設計	(講義実習) Accessによるシステム設計	昼 休 み	(講義実習) ExcelVBAによるシステム設計	(講義実習) ExcelVBAによるシステム設計			
7月29日 (木)	(講義実習) ダイナミックHTML	(講義実習) ダイナミックHTML	昼 休 み	(講義実習) ダイナミックHTML	(講義実習) IT事業の展望(Web関連)			
7月30日 (金)	(講義実習) Webアプリケーション	(講義実習) Webアプリケーション	昼 休 み	(講義実習) Webアプリケーション	(講義) 文部科学省教科調査官 講話 情報科	閉 講 式		

実施会場 千葉商科大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術：H-1） 「社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領への対応を目指して」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成22年9月13日（月）～平成22年9月17日（金）				5日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	20	人	受講者数	20	人	参加率	100.0%
開 催 場 所	国立大学法人宮城教育大学（宮城県仙台市）							

※ 全体受講定員 305 人、受講者数 266 人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	18	2	0	0	0	0	20
割合 (%)	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20						100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・生物育成、LED、エネルギー変換など、今取り組み始めたり、今後取り組みたい内容について基本的な考え方から実践例まで、大変参考になりました。 ・今後の実践に取り入れていくと共に、地区の先生方にも、伝達するようにしていきたいと思います。 ・新しい学習指導要領にあわせた題材を考える良いきっかけとなり、また、調査官から評価についても聞くことが出来て良かったです。 ・実習形式を多く取り入れて頂き、とても勉強になります。 ・ただ研修をただだけではなく、横の連携を取りながら、生徒のためになる授業に生かしていけるよう努力したいと思います。 ・水谷先生が言われた「分かっているつもり」でこれまで授業を行ってきたことを再確認し、まずは自分が「教える」と言う事をもっと大事に取り組んでいきたいと思います。 ・今回は今までの授業を振り返り、これからの学習・授業の在り方を考える大変良い機会になりました。 ・普段の学校生活での不勉強さを思いました

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術：H-1)

団体名 宮城教育大学

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
9月13日 (月)	受付 9:00-	開講式 9:30- 9:50	(講義) 新学習指導要 領における評 価 10:00-11:00	(講義 (実習を含む)) 新思考をひらくー豊かで確 実な授業作りのためにー 11:10-12:40		昼休み	(実習) 木材加工1 (木材加工小作 品の製作) 13:30-15:00	(実習) 木材加工2 (木材加工小作品の製 作) 15:10-17:10		
9月14日 (火)	(講義) 新しいものづくり教材 と技術科教育 9:00-10:30		(講義 (実習を含む)) プラスチック加工 10:40-12:10		昼休み	(講義) 生物育成の教育内容と教材の選択 13:00-15:00	(実習) 教材作物の栽培計画作成法 15:10-17:10			
9月15日 (水)	(講義) 生物育成における新しい技術とその活用 (農薬・肥料・植物工場・バイオテクノロジー) 9:00-10:30/10:40-12:10				昼休み	(実習) 短期間や狭い場所でも実践できる作物栽培 (ポット・プランター栽培、水耕栽培、棚仕立て栽培) 13:00-14:30/14:40-16:10		(講義) 生物育成の 今後のあり方と課 題 16:20~17:20		
9月16日 (木)	(講義) 風車の形式とエネルギー 変換機構 9:00-10:30		(実習) 風車の設計と製作 10:40-12:10		昼休み	(実習) 製作した風車の評価 13:00-14:30	(講義) LED と色々 な素材を使ったイ ンテリア照明の製 作1 14:40-15:40	(実習) LED と色々な素材 を使ったインテリア照明の 製作2 15:50-17:20		
9月17日 (金)	(講義 (実習を含む)) LED と色々な素材を使っ たインテリア照明の製 作3 9:00-10:30		(講義) エネルギー変換およびエネ ルギ回生教材としてのモータ 10:40-12:10		昼休み	(実習) 乾電池自動車の設 計と製作1 13:00-14:00	(実習) 乾電池自動車の設計と製 作2 14:10-15:40	閉講式 15:50-16:20		

実施会場：宮城教育大学

I 研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術：H-2） 「社会の要請に応える技術分野の指導：新学習指導要領への対応を目指して」							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開催期日	平成22年8月2日（月）～平成22年8月6日（金）				5日間			
受講人数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	24	人	参加率	96.0%
開催場所	国立大学法人鳴門教育大学（徳島県鳴門市）							

※ 全体受講定員 305 人、受講者数 266 人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	15	9	0	0	0	0	24
割合 (%)	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	24	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・技術科教員として、テクノロジーについての知識とそれを実践するスキルの「技術力」が必要となるが、それを高められたと感じます。
- ・制御や木材加工は理解しているつもりだが、まだ自分自身の学習が不十分であることに気付かされた。
- ・実習においてはネットワーク等、詳細を理解することはできなかったが、概念や考え方等はとても勉強になった。
- ・幅広くいろいろな技能や知識を取り入れて、身につけておくことが、授業づくりに役立つのだなと思った。
- ・どの地域でも日頃の生徒指導などを行いながら教科の教材研究・開発などをされている様子がよくわかりました。
- ・資料を紙のみならず、デジタル形式（CD-RやDVD-R等）で準備・配布して頂いたことは、今後の「普及・還元」等にも助かりました。
- ・3班編成の研修はとても分かりやすく良かったと思います。
- ・各州市の技術の現状や、教育現場の様子との交流もできたことが有意義だった。

III 研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。

次年度に向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 2 2 年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(技術：H-2)

団体名 鳴門教育大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平成 2 2 年 8 月 2 日 (月)		開 講 式	(講義) (上野) これからの技術・家 庭(技術分野)と評価	昼休み		(講義) (菊地) 計算機器の変遷	(実習) (菊地) 計算具教材の開発		
8 月 3 日 (火)	(実習) (尾崎, 伊藤, 菊地) 第1班: 材料と加工 (木材の曲げ加工) 第2班: エネルギー変換と計測・制御 第3班: 情報システムとネットワーク			昼休み	(実習) (尾崎, 伊藤, 菊地) 第1班: 材料と加工 (木材の曲げ加工) 第2班: エネルギー変換と計測・制御 第3班: 情報システムとネットワーク				
8 月 4 日 (水)	(実習) (伊藤, 菊地, 尾崎) 第1班: エネルギー変換と計測・制御 第2班: 情報システムとネットワーク 第3班: 材料と加工 (木材の曲げ加工)			昼休み	(実習) (伊藤, 菊地, 尾崎) 第1班: エネルギー変換と計測・制御 第2班: 情報システムとネットワーク 第3班: 材料と加工 (木材の曲げ加工)				
8 月 5 日 (木)	(実習) (菊地, 尾崎, 伊藤) 第1班: 情報システムとネットワーク 第2班: 材料と加工 (木材の曲げ加工) 第3班: エネルギー変換と計測・制御			昼休み	(実習) (菊地, 尾崎, 伊藤) 第1班: 情報システムとネットワーク 第2班: 材料と加工 (木材の曲げ加工) 第3班: エネルギー変換と計測・制御				
8 月 6 日 (金)	(研究協議) (尾崎, 伊藤, 菊地) 技術教育ディスカッション (第1・2・3班: 各班での協議)			昼休み	(研究協議) 技術教育ディスカッ ション (全体発表)		閉 講 式		

講師： 上野耕史文部科学省教科調査官，菊地章教授，尾崎士郎教授，伊藤陽介教授

実施会場： 鳴門教育大学

I 研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：I-1） 「学校における食育の推進：技術・家庭科における食に関する指導（講義と実習）」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術、情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を修得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等							
開 催 期 日	平成22年8月17日（火）～平成22年8月20日（金）				4日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	30	人	参加率	120.0%
開 催 場 所	国立大学法人横浜国立大学（神奈川県横浜市）							

※ 全体受講定員 305 人、受講者数 266 人、参加率 87.2%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	29	0	0	0	0	1	30
割合 (%)	96.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	
	29	96.7					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領や教科書など、どのようなことをおさえて指導していくかの講義があり、大変良かったです。 ・みっちり4日間家庭科の事を考えられたことや、様々な知識や技能を得られたことなど、本当に有意義な研修でした。 ・全国の先生方の実践も聞けて今後に生かしていきたいと思えます。 ・実践的で現場ですぐに生かせる、生徒に反映できる大変有意義なものでした。 ・食育については学校に持って帰るともいい資料をいただくことができました。 ・新指導要領の理解をふまえて、新たな実践を地域の先生方と楽しく作っていききたいと思えます。 ・熱意のある先生方から最近の情報を含んだ研修を受ける機会を得、猛暑に負けないくらい熱い研修ができ、充実した4日間でした。 ・経験年数からしても基本的な研修もなく、壁にぶつかっている時だったので、今の時期にチャンスをいただきうれしく思えます。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭 : I-1)

団体名 横浜国立大学

日時	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00	16:00
8月17日 (火)		受付	開講式 10:00 開会 10:02 挨拶 10:12 閉会 オリエンテーション 10:15-10:25	(講義)「新学習指導要領とこれからの技術・家庭科教育」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) 教育文化ホール 中集会室 10:30-12:00	昼食	(講義)「学校における食育の推進－新学習指導要領を踏まえた食に関する指導の充実－」 (担当)筒井恭子(文部科学省初等中等教育局教科調査官) (報告)「技術・家庭における食に関する指導の実践事例」 30分×2人、質疑応答30分 (担当)高橋恵美(岩手県立総合教育センター主任研修指導主事) 真邊国子(高松市立国分寺中学校教諭) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00			
8月18日 (水)	(講義・ワークショップ)「技術・家庭科における食の授業デザイン」 (担当)堀内かおる／杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 9:00-12:00				昼食	(実習)「食品選択能力を高める調理実習指導」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 13:00-16:00			
8月19日 (木)	(実習)「献立学習との関連を意識した調理実習」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 教育人間科学部 第1研究棟 312室 調理学実験実習室 9:00-12:00				昼食	(講義)食の現代的問題1 「食育における食品安全性」 (担当)山本和貴(農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 研究員) 教育文化ホール 中集会室 13:00-14:25	休憩十分	(講義)食の現代的問題2 「食中毒と食物アレルギー」 (担当)板垣康治(北海道文教大学准教授) 教育文化ホール 中集会室 14:35-16:00	
8月20日 (金)	(講義・演習) 「献立作成の指導－食品群と食事バランスガイドについて－」 (担当)金子佳代子(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 9:00-12:00				昼食	(ディスカッション) 「学校における食育の推進－技術・家庭科での食に関する指導－」指導計画案発表 (担当)金子佳代子／堀内かおる(横浜国立大学教授) 教育文化ホール 中集会室 13:00-14:30		閉講式 14:40 開会 14:42 挨拶 14:50 修了証授与 15:00 閉会 アンケート回収 諸連絡	

実施会場:横浜国立大学

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（農業） 「教科「農業」及び農業科指導法に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。							
開 催 期 日	平成22年8月23日（月）～平成22年8月28日（土）				6日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	30	人	受講者数	19	人	参加率	63.3%
開 催 場 所	国立大学法人愛媛大学農学部（愛媛県松山市）							

※ 全体受講定員 55人、 受講者数 49人、 参加率 89.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	19	0	0	0	0	0	19
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	19	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の研修内容で、炭焼き、宿泊、オリエンテーリング、懇親会など研修者同士がコミュニケーションや情報交換が出来る時間を取ってもらったことが、一番良かったところです。 ・ 講座、実技、内容等大学側の配慮が大きく、大変有意義でした。 ・ 講義では現代の農業について、問題点や解決策など、また今後の農業の必要性を学びました。 ・ 毎日が充実していて、自分も学生になった気分で臨みました。 ・ 今後の学校の授業で、実習の中で学んだ多くの事、話、体験を伝え指導に当たっていきたいと思います。 ・ 途中、実習が入ったことが大変有意義な研修であった。 ・ 各県の実習助手の仕事内容、システム、待遇の違いをダイレクトに聞くことが出来た。 ・ 鶴見先生の人柄と農業や教育に対する考え方が今回の研修を有意義なものに出来た一番の要因だと思いました。

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成22年度産業教育実習助手研修日程

(教科名 農業)

大学名 国立大学法人愛媛大学

8月23日(月)	8:30 9:00	9:00 10:30		10:45 12:15		13:15 14:45		15:00 16:30	
場所	開校式	講義3-① 11番教室		講義3-② 11番教室		講義3-③ 11番教室		講義1-① 11番教室	
内容	オリエンテーション	21世紀論	休憩	環境保全型農業の技術と経営	昼休み	野生動物と共存する農村の設計・計画・管理	休憩	自然の恵み 稲	
講師名		泉 英二		胡 柏		武山絵美		杉本秀樹	
8月24日(火)		8:30 10:00		10:15 11:45		13:00 14:30		14:45 16:15	16:30 18:00
場所		講義2-① 21番教室	休憩	講義1-② 21番教室	昼休み	講義2-② 演習林	休憩	講義・実習1-③ 演習林	講義・実習3-④ 演習林
内容		動物の栄養素獲得戦		農山村人材育成		農山村人材育成		農山村資源活用	農山村資源活用
講師名		上田博史		鶴見武道		鶴見武道		鶴見武道	鶴見武道
8月25日(水)		8:30 10:00		10:15 11:45		13:00 14:30		14:45 16:15	
場所		講義・実習2-③ 演習林		講義2-④ 21番教室		講義2-⑤ 21番教室		講義2-⑥ 21番教室	
内容		農山村資源活用	休憩	食品の機能性	昼休み	現代日本の農業政策	休憩	都市農村交流論	
講師名		鶴見武道		菅原卓也		大隈 満		小田清隆	
8月26日(木)		8:30 10:00		10:15 11:45		13:00 14:30		14:45 16:15	
場所		講義1-④ 21番教室		講義3-⑤ 21番教室		講義1-⑤ 21番教室		講義2-⑦ 21番教室	
内容		世界と日本の水資源問題	休憩	絶滅危惧種の遺伝的多様性保全	昼休み	発酵食品微生物	休憩	地域マネジメント論	
講師名		藤原正幸		高木基裕		木場洋次郎		森賀盾雄	
8月27日(金)		8:30 10:00		10:15 11:45		13:00 14:30		14:45 16:15	
場所		講義1-⑥ 農場		講義・実習3-⑥ 農場		講義3-⑦ 農場		講義・実習3-⑧ 農場	
内容		土壌の機能と食料生産	休憩	持続的農業生産技術	昼休み	土壌の肥沃度	休憩	土壌の化学的特性測定法	
講師名		上野秀人		上野秀人		上野秀人		上野秀人	
8月28日(土)	8:30 10:00	10:15 11:45		12:30 14:00		14:15 15:45		15:50 16:20	
場所	講義2-⑧ 21番教室	講義1-⑦ 21番教室		講義1-⑧ 21番教室		講義3-⑨ 21番教室		閉校式 21番教室	
内容	農産物流通と市場	新たな食料生産システムとしての植物工場	休憩	森林資源の持続的利用	昼休み	森林資源の持続的利用	休憩		
講師名	中安 章	仁科弘重		林 和男		林 和男			

実施会場: 国立大学法人 愛媛大学

教職に関する専門科目(1単位) 農業科教育法 1-①~⑧
 教科に関する専門科目(1単位) 農山村地域創生 2-①~⑧
 教科に関する専門科目(1単位) 農業と食料・環境 3-①~⑨

- * 8月24日(火) 大学発12:30 演習林着13:00 演習林で1泊 (会場:愛媛大学農学部附属演習林)
- * 8月25日(水) 演習林発9:30 大学着10:00 移動中も講義
- * 8月27日(金) 大学発8:00 農場着8:30 農場発16:15 大学着16:45 (会場:愛媛大学農学部附属農場)

I 研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（工業） 「工業実習に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	本研修は、高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校等（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。							
開 催 期 日	平成22年7月27日（火）～平成22年8月3日（火）				7日間			
受 講 人 数	受講定員 (計画人数)	25	人	受講者数	30	人	参加率	120.0%
開 催 場 所	日本工業大学（埼玉県南埼玉郡宮代町）							

※ 全体受講定員 55 人、 受講者数 49 人、 参加率 89.1%
(全体計画人数)

II アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	概ね有意義					
人数 (人)	27	3	0	0	0	0	30
割合 (%)	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・工業高校の教育現状とこれからの事、最先端技術の紹介など、生徒に対していろいろフィードバックが出来ると思い、大変有意義でした。 ・私の県では、実習助手に対してこのような研修会を開催されていることがほとんどないので、良い機会となりました。 ・工業高校の存在意義を再確認できたと同時に、実習助手として、基礎基本の延長にある最新技術の把握ができました。 ・全国各地より実習助手が参加していることもあり、自県では分かりえないことや情報を知ることができ、大変有意義な研修となりました。 ・自分にとって初めての教科がほとんどでしたが、それぞれの教科の基本的なことを学ぶよい機会になりました。 ・この研修で得た知識や考え方をこれからの教員人生において、生徒・後輩に伝えていきたいと考えています。 ・指導法では昔から現在までの歴史や今後のあり方を学んだので、これからの教員生活では、この事を忘れずに指導していきたいと思えます。 ・講義は各講師の先生方がとても楽しく分かりやすく説明していただき、今後の参考になりました。
--

III 研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、実地経費について、全額派遣者負担を導入した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については引き続き全額派遣者負担を導入する。

IV 研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成 22 年度産業教育実習助手研修日程

(工業)

大学名・実施会場：日本工業大学

日 時	第1時限 9：50～11：20	休 憩	第2時限 11：30～13：00	休 憩	第3時限 13：50～15：20	休 憩	第4時限 15：30～17：00
7/27 (火) 学友会館 (終日)	諸連絡 開校式 11：00～		講義 ①②「工業科指導演法」 学習指導要領と教科「工業」 について 池守 滋		情報電気電子工学①② コンピュータと暗号化技術 中村俊一郎		情報電気電子工学③④ コンピュータと暗号化技術 中村俊一郎
7/28 (水)	情報電気電子工学⑤⑥ 音響工学の基礎と応用 谷澤 茂 学友会館		情報電気電子工学⑦⑧ 音響工学の基礎と応用 谷澤 茂 学友会館		ものづくり環境工学①② 名作椅子に触れる 黒津高行 葛西幸一 W4棟2階 スタジオ		ものづくり環境工学③④ 名作椅子に触れる 黒津高行 葛西幸一 W4棟2階 スタジオ
7/29 (木) 学友会館 (終日)	講義 ③④「工業科指導演法」 工業教育の歴史と使命 工業教育に係る法令について 松井立夫		ものづくり環境工学⑤⑥ ナノテクノロジーとは 伴 雅人		ものづくり環境工学⑦⑧ 環境にやさしい機械加工 二ノ宮進一		ものづくり環境工学⑨⑩ 地球環境問題と廃棄物処理 佐藤茂夫
7/30 (金) 学友会館 (終日)	ものづくり環境工学⑪⑫ ものづくりの新潮流 佐藤茂夫		ものづくり環境工学⑬⑭ 半導体物性の基礎 飯塚完司		ものづくり環境工学⑮⑯ プラスチック成型 村田泰彦		講義 ⑤⑥「工業科指導演法」 (1) 特色ある工業高校の 取り組みについて 原田 昭
7/31 (土) 1-206 教室 (終日)	講義 ⑦⑧「工業科指導演法」 (2) 特色ある工業高校の 取り組みについて 松井立夫		講義⑨⑩「工業科指導演法」 教科「工業」の内容 実験・実習を中核とする工業教育 について 藤縄秀一		講義 ⑪⑫「工業科指導演法」 教科・科目の指導について 小山 実		講義 ⑬⑭「工業科指導演法」 工業高校の活性化を目指す ために 原田 昭
8/2 (月) 1-206 教室 (終日)	講義 ⑮⑯「工業科指導演法」 工業高校の展望 実習助手への期待 藤縄秀一		情報電気電子工学⑨⑩ 位置情報システムの仕組み 高瀬浩史		情報電気電子工学⑪⑫ インターネットの発展と応用 丹羽次郎		情報電気電子工学⑬⑭ 暗号とコンピュータ科学の誕生 神林 靖
8/3 (火)	情報電気電子工学⑮⑯ コンピュータグラフィックスの しくみ 山地秀美C棟2階情演1		閉校式 11：30～ 1-206 教室				
8/27 (金)	レポート提出						